

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌

創刊号 2015

授業情報誌

Class・学び合う授業

創刊号

OCT・2015



class

学び合う授業

新潟県中学校教育研究会

授業情報誌 Class・学び合う授業

創刊号 2015年10月

ISSN 2189-8111

新潟県中学校教育研究会

ファシリテーション

「21世紀型能力」をつける授業改革は、FTで…

まずは、FTで教師が学び合おう！
そして、FTで“学び合う授業”を創ろう！！

Class・学び合う授業の内容

本書のねらいは、「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを伝えることです。

- 学び合う授業による授業改革の考え方が分かります。
- 今年度「指定研究会」を実施する20の指定研究チームの「学び合う授業」の“手だて”や“工夫”を紹介します。
- 1年目の指定研究チームが進めている“授業づくり”や“授業検討”等の「教師の学び合い」の方法を紹介します。
- 授業づくりとファシリテーション(FT)の役立つ情報を得ることができます。



学び合う授業

(小千谷中学校・理科指定研究, 2014)



教師の学び合い

(学校保健部全県部会, 2014)

class

学び合う授業

「21世紀型能力」をつける授業改革は、FTで…
ファシリテーション

まずは、FTで教師が学び合おう！
そして、FTで“学び合う授業”を創ろう！！

全県に広がる「授業改革」の うねりを次の段階へ

7月10日、県中教研と県中学校長会が初めて連携した研修会が行われました。～「教師(校長)の学び合い」が「学び合う授業」をつくり、21世紀型能力をつける～」とのテーマのもと、一斉・講義中心型授業の延長線で授業を改善するのではなく、「学び合う授業」によって「授業改革」を進めるという県中教研の意志を全中学校長が受け止め、時代が求める授業の方向性を確認しました。また、夏季休業中には、この「授業改革」のうねりが一層加速される研修会が県下各地で実施されました。多くの会場で、ファシリテーションが活発に行われ、参加者意識や主体者意識の高まりが見られる場面が日常化してきたものと受け止めています。

さて、県中教研は、3年前の創設50周年記念事業を節目として「授業改革」に向けた3つの取組を推進してきました。

- 1 授業ナビゲーション（授業スタンダード10, 学び合い10, 研修体制7・Web配信3）をつくり、指針を全会員に示す。
- 2 指定研究を通して「教師の学び合い」と「学び合う授業」を具体化する。
- 3 具体的な手立てとしてファシリテーション（FT）を取り入れる。

この取組によって、先に述べた授業力の基礎・土台を確かにする実践が広がりを見せるとともに、「教え合い」「交流」「検討」のモデルとなる学び合う授業も多く実施されるよ



新潟県中学校教育研究会
会長 早川 義裕

うになりました。こうした成果の一端として、平成26年度の全国学力・学習状況調査結果からV字回復に転じ、「教科の勉強が好き」と答える生徒の割合も増加傾向にあると考えています。

そして今、県中教研の取組は次の段階へ進むこととなります。それは、この成果を全県に広げ、各学校の校内研修や個々の授業に生かし、確実に教室に届ける段階です。その手立ての1つとして、この「授業情報誌Class」を創刊することにいたしました。本誌創刊のねらいは、「学び合う授業」と「教師の学び合い」の具体的なイメージを広く、多くの会員に伝えること、そして本誌の作成を通じて各指定研究チームが「学び合う授業」の具現化に向けてより提案性のある鋭角的な研究を進めることです。

本誌には、学び合う授業、21世紀型能力、アクティブ・ラーニング、ファシリテーションについてその基本を整理して掲載してあります。また、各指定研究チームが進める「学ぶ合う授業」実現の手立てや「教師の学び合い」推進の手立てに加え、県下4地区から特に優れた授業改革の実践も紹介しています。

「授業改革」のうねりは、全県の教室に確かに届きはじめています。「簡潔で見やすく、毎日の授業や校内研修に試してみたいくなる」をコンセプトにつくられた本誌によって、「学び合う授業」「教師の学び合い」が一層広がり、定着することを願っています。

目次

<コラム1 今年度の指定研究>	6
① 学び合う授業の考え方	
“学び合う授業”は何を目指しているか?	8
新潟県中学校教育研究会 事務局長 山内 伸二	
<特別寄稿>	
ファシリテーションによる「学び合い」の充実	14
新潟青陵大学 教授 岩崎 保之	
<コラム2 傾聴とオープン・クエスチョン>	22
② 授業改革のポイント1 この手立てで21世紀型能力を育てる!	
国語	
思考ツールと「学び合い」で、論理的思考力を育てる!!	24
柏崎市・刈羽郡中教研 国語部	
受け身になりがちな古典の学習をファシリテーションで主体的に!	28
長岡市・三島郡中教研 国語部	
学び合いの中で文章を評価する「批評」の力を育てる	30
新潟市中教研 国語部	
「問い」を立て、仲間と交流し、文学的な文章の評価に深まりを!	32
新発田市中教研 国語部	
数学	
発想を可視化できるアイテムを使って活用力アップ!	34
燕市・西蒲原郡中教研 数学部	
「オリジナルじゃんけん」ゲームで、確率のよさを味わおう!!	38
上越市中教研 数学部	
“ジグソー法”で主体的に取り組み、活用力を深化!!	40
南魚沼郡市中教研 数学部	
ハイジのブランコの長さを求めるために、表・式・グラフを活用しよう!!	42
阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 数学部	
技術・家庭	
場面設定と交流で工夫に気づかせ実践力につなげる!	44
新潟市中教研 技術・家庭部（技術分野）	
生活の中の事象を可視化し、実感を伴った理解につなげる	48
上越市中教研 技術・家庭部	
シミュレーションで、互いに交流、検討することで、よりよい生活を創り出す力が身に付きます!	50
長岡市三島郡中教研 技術・家庭部	
社会のニーズに対応したものづくりで思考力アップ!	52
五泉市・東蒲原郡中教研 技術・家庭部	

道徳

“対話”で様々な価値に触れ、多面的・多角的視点から自分を振り返ろう! ……	54
妙高市中教研 道徳部	
体験と関連した道徳授業で、人と関わる力UP! ……	58
三条市中教研 道徳部	
“共感度スケール”で道徳的判断力を高める ……	60
新潟市中教研 道徳部	
地域との関わりを大切にし、生徒の心を育みます ……	62
五泉市・東蒲原郡中教研 道徳部	

特別活動

“ファシリテーション”でコミュニケーション能力を身に付け自己有用感・肯定感を高める! …	64
新潟市中教研 学級経営部	
活動→話し合い(成果と課題の整理, 目指す姿の共有, 次の活動で工夫することの明確化)→活動のサイクルで課題解決力アップ…	68
上越市中教研 特別活動部	
多様な意見を重ね合う話し合いで学級が変わる! ……	70
魚沼市中教研 特別活動部	
話し合いの“見える化”で、集団や個の意志決定を促す ……	72
二市北蒲原郡中教研 特別活動部	

<コラム3 全員参画の授業づくり> ……	74
----------------------	----

3 授業改革のポイント2 こんな進め方で全員が参画!

社会 ……	76
理科 ……	78
英語 ……	80
保健体育 ……	82
進路指導 ……	84

<コラム4 FTのとき、机や座席はどのようにしていますか?> ……	86
-----------------------------------	----

4 授業改革のポイント3 授業改革を進める郡市・各校の取組の紹介

<上越地区> 上越市技術・家庭部 ……	88
<中越地区> 長岡市立山本中学校 ……	89
<新潟地区> 新潟市中教研 英語部 ……	90
<下越地区> 村上市立荒川中学校 ……	91

<コラム5 県中教研事務局への研修会講師の依頼> ……	92
-----------------------------	----

5 授業改革のポイント4 授業ナビゲーションで授業・研修を確認!

<特別寄稿>	
50分間の職員研修で自校スタンダードを作ってみましょう ……	94
新潟市立白新中学校 竹田 真実子	
授業スタンダード10 ～イメージしやすいように紹介します～ ……	95
県中教研 授業ナビゲーション…	98

参考書籍…	104
-------	-----

編集後記…	105
-------	-----

今年度の指定研究

1年目、2年目で計40郡市が指定を受け、40チーム（委員会）が各教科・領域での学び合う授業の具現化を目指し、研究を推進しています。

指定研究 2年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校	研究会日
国 語	上越	柏崎・刈羽	田中 美穂	柏崎市立東中学校	刈羽村立刈羽中学校	11月18日(水)
	中越	長岡・三島	小嶋 祐子	長岡市立東北中学校	長岡市立太田中学校	10月29日(木)
	新潟	新潟	五十嵐 淳	新潟市立新津第二中学校	新潟市立東石山中学校	11月 5日(木)
	下越	新発田	渡辺 みつ枝	新発田市立七葉中学校	新発田市立猿橋中学校	11月13日(金)
数 学	上越	上越	風巻 利夫	上越市立大潟町中学校	上越市立三和中学校	11月11日(水)
	中越	南魚沼	遠藤 寛子	南魚沼市立五十沢中学校	湯沢町立湯沢中学校	11月13日(金)
	新潟	燕・西蒲	野村 豊	燕市立分水中学校	燕市立燕中学校	10月27日(火)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	貝沼 耕司	胎内市立築地中学校	聖籠町立聖籠中学校	10月14日(水)
技 術 ・ 家 庭	上越	上越	大森 己智子	上越市立頸城中学校	上越市立城北中学校	11月11日(水)
	中越	長岡・三島	小林 和之	長岡市立東北中学校	長岡市立越路中学校	11月19日(木)
	新潟	新潟	関野 幹裕	新潟市立木戸中学校	新潟市立寄居中学校	11月 5日(木)
	下越	五泉・東蒲	上野 一志	五泉市立五泉北中学校	五泉市立五泉中学校	10月14日(水)
道 徳	上越	妙高	笠原 里美	妙高市立新井中学校	妙高市立妙高中学校	10月28日(水)
	中越	三条	池田 真保	三条市立下田中学校	三条市立大島中学校	11月17日(火)
	新潟	新潟	竹内 滋之	新潟市立小針中学校	新潟市立赤塚中学校	11月30日(月)
	下越	五泉・東蒲	西方 貴子	五泉市立愛宕中学校	五泉市立川東中学校	11月10日(火)
特 別 活 動	上越	上越	佐藤 文大	上越市立春日中学校	上越市立名立中学校	11月27日(金)
	中越	魚沼	五十嵐 理	魚沼市立広神中学校	魚沼市立湯之谷中学校	11月10日(火)
	新潟	新潟	山崎 彰之	新潟市立五十嵐中学校	新潟市立黒崎中学校	11月12日(木)
	下越	阿賀野・胎内・北蒲	菅谷 啓子	聖籠町立聖籠中学校	胎内市立中条中学校	10月28日(水)

指定研究 1年目

教科領域	地区	推進郡市	研究推進責任者		会場校
社 会	上越	上越	藤田 賢	上越市立城北中学校	上越市立城東中学校
	中越	小千谷	渡辺 嘉章	小千谷市立小千谷中学校	小千谷市立千田中学校
	新潟	新潟	小林 朗	新潟市立石山中学校	新潟市立白新中学校
	下越	新発田	神田 武	新発田市立豊浦中学校	新発田市立佐々木中学校
理 科	上越	上越	保坂 修	上越市立城北中学校	上越市立大潟町中学校
	中越	長岡・三島	澤栗 隆之	長岡市立堤岡中学校	長岡市立岡南中学校
	新潟	佐渡	遠藤 満久	佐渡市立真野中学校	佐渡市立新穂中学校
	下越	五泉・東蒲	鈴木 尚	五泉市立川東中学校	五泉市立山王中学校
英 語	上越	糸魚川	倉若 拓人	糸魚川市立糸魚川東中学校	糸魚川市立能生中学校
	中越	三条	五十嵐 博利	三条市立大崎中学校	三条市立第三中学校
	新潟	新潟	高田 哲也	新潟市立寄居中学校	新潟市立寄居中学校
	下越	村上・岩船	渡邊 桃子	村上市立村上第一中学校	村上市立村上東中学校
保 健 体 育	上越	上越	内藤 隆	上越市立大潟町中学校	上越市立潮陵中学校
	中越	長岡・三島	星野 修也	長岡市立大島中学校	長岡市立三島中学校
	新潟	新潟	中山 智司	新潟市立新津第五中学校	新潟市立内野中学校
	下越	新発田	藤間 善徳	新発田市立豊浦中学校	新発田市立川東中学校
進 路 指 導	上越	柏崎・刈羽	宮崎 隆史	柏崎市立北条中学校	柏崎市立第五中学校
	中越	十日町・中魚	佐藤 壮	十日町市立南中学校	十日町市立下条中学校
	新潟	新潟	岩崎 正法	新潟市立亀田中学校	新潟市立潟東中学校
	下越	村上・岩船	白澤 直子	村上市立村上東中学校	村上市立神納中学校

① 学び合う授業の考え方

県中教研が進める“学び合う授業”と学び合う授業が目指す21世紀型能力、それに関連するアクティブ・ラーニング、ファシリテーションについて、それぞれの考え方や相互の関係が分かります。



“学び合う授業”は 何を目標しているか？



新潟県中学校教育研究会
事務局長 山内 伸二

県中教研が目指してきたことは何か？

新潟県中学校教育研究会（県中教研）は昭和38年の発足以来「新潟県中学生の学力の向上」を目標に掲げ、研究活動を進めてきました。

創設50年を機会に進めた「学び合う授業」の創造」の取組も「新潟県中学生の学力の向上」が目標であり、不易の目標です。しかし、「学力」の中身は、これまでの知識・技能中心から大きく未来に踏み出すものと言い替えることができます。それはどのような学力でしょうか。

県中教研が目指すことは？

？
新潟県中学生の学力の向上

高めたいのはどのような「学力」か？

学力には3つの要素があります。それは図1の「習得」,「活用」,「学習意欲」です。

最初に、知識・技能を身に付ける「習得」の学習活動が行われます。この学習活動によってある程度の知識・技能が習得されると、習得した知識・技能の活用を図る学習活動に移ります。

活用を図る学習活動では、まず、教師は課題意識をもたせる働きかけをします。この働きかけによって生徒の課題意識が高まると生徒は習得した知識・技能を活用しながら課題解決を目指します。このとき、習得した知識・技能は再

構成されます。知識・技能が再構成される「活用」の学習活動が、学習指導要領が示す言語活動の充実であり、これと、近年導入が求められているアクティブ・ラーニング（AL）、そして、県中教研が進める「学び合う授業」は、同じものと捉えています。

この「活用」の学習活動である「学び合う授業」によって身に付けたい力が思考力・判断力・表現力等であり、県中教研はこれを「21世紀型能力」と呼んでいます。

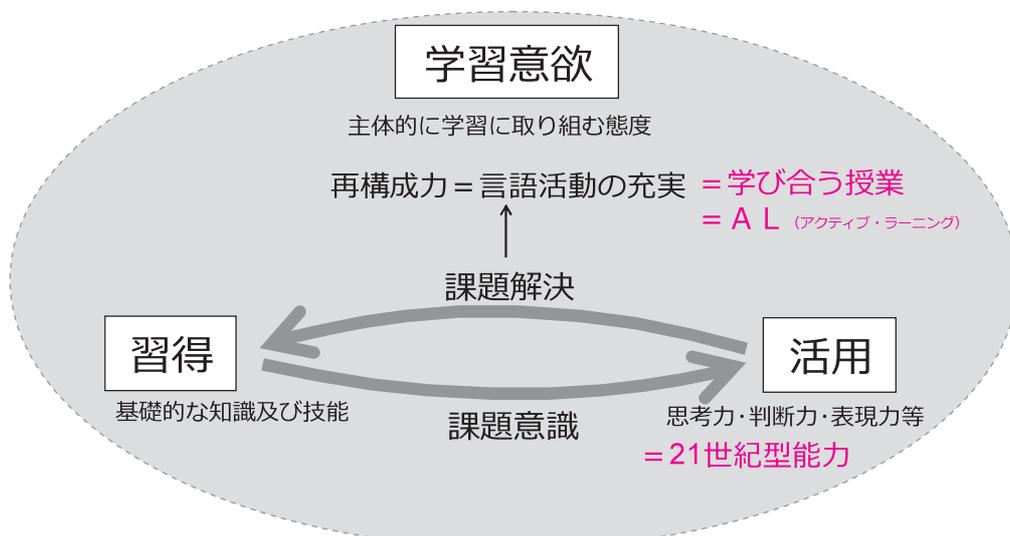


図1 学力の3要素と「活用」の学習活動の流れ

21世紀型能力とは何か？

国立教育政策研究所（国政研）は、平成26年3月に図2のような21世紀型能力を発表しました。基礎力、思考力、実践力の3重円に10の力が示されています。

県中教研は創設50周年記念事業で指導を仰いだ国政研の千々布敏弥様からの指導を受け、この10の力を3つの能力（論理的・批判的思考能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力）に絞ります。

これを県中教研の21世紀型能力と再定義し、高めたい能力としました。

この21世紀型能力は、国語や理科、保健体育、道德などの教科・領域を超えた力であり、領域普遍的な力で、一生涯有効にはたらく長期的な力です。それは、何を知っていて何ができるかではなく、それをどう使い、どのように社会や世界と関わっていくかも含めた力です。

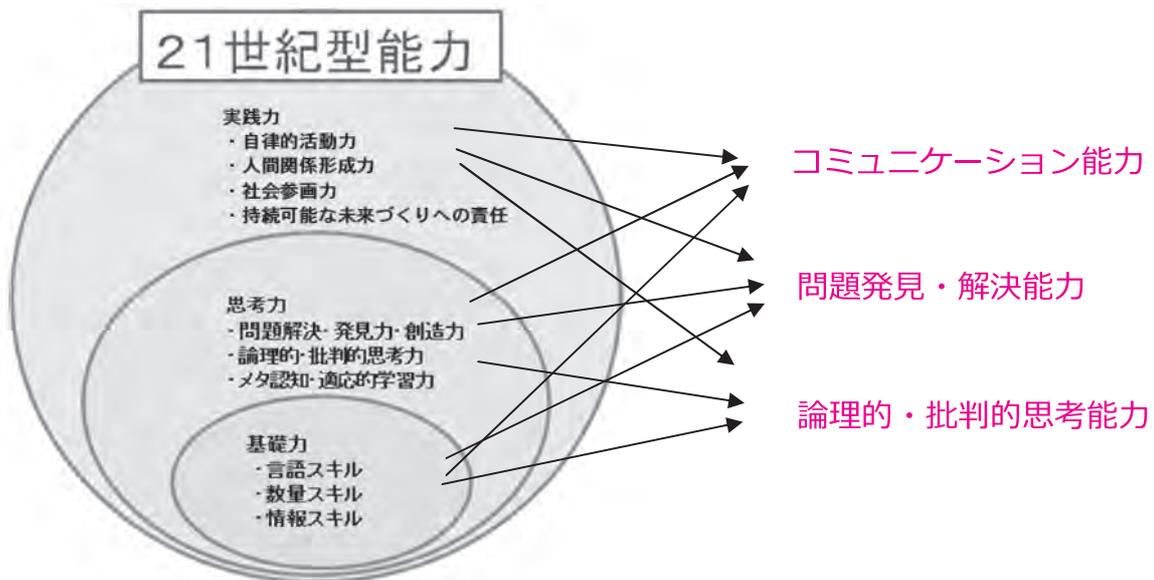


図2 21世紀型能力（左：国政研，右：県中教研）

なぜ「思考力・判断力・表現力」でなく「21世紀型能力」なのか？

「習得」で知識・技能が身に付きますが、この段階では図3の(a)のように断片的な知識・技能といえます。ここで「学び合う授業」を行うと、断片的だった知識・技能や体験が相互にリンクされ、図3の(b)有機的に結びついた状態になります。

このリンクされ深まった学びを21世紀型能力

と考えると高めてしまいがちですが、そうではなく、これとは独立して高められる普遍的な能力が図3の(c)21世紀型能力です。思考力・判断力・表現力はこの区別が曖昧で教科や領域に固有のイメージがあります。そこで、領域普遍的な能力であることを伝えるために21世紀型能力と呼ぶことにしました。



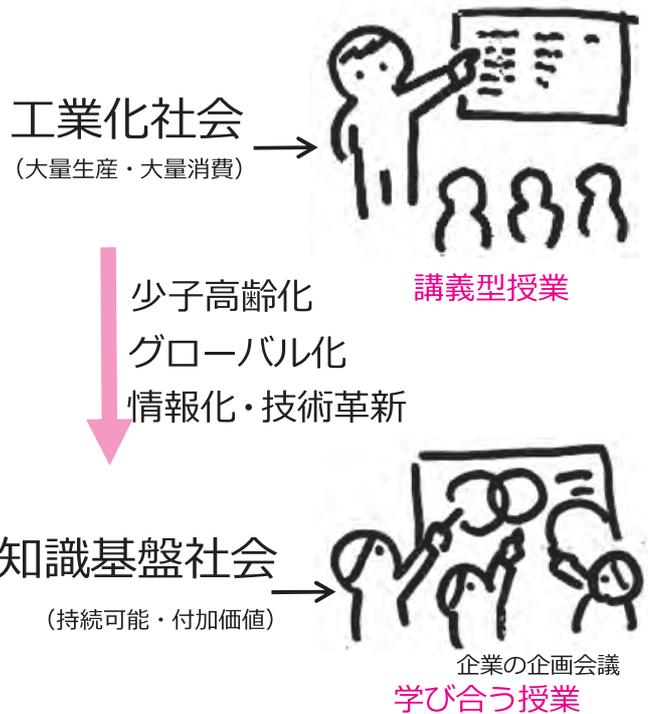
図3 活用で身に付く知識・技能と21世紀型能力

“学び合う授業”はどのような授業か？

なぜ、21世紀型能力が必要なのか？

「講義型授業」は大量生産・大量消費の工業化社会に適した授業のスタイルでした。しかし、日本を取り巻く状況は大きく変化しています。少子高齢化が急速に進行し、グローバル化は多様性をもたらします。また、情報化や技術革新によって、コンピュータの能力が人間の能力を上回るとの予測もあり、せっかく身に付けた知識や技能はすぐに陳腐化したり、機械が代替したりします。この知識基盤社会では人間が優位性を持つ資質・能力を磨き高める必要があります。この能力が21世紀型能力です。

それでは、人間が優位性を持つ資質・能力は、どのような授業で高めることができるのでしょうか。それは、企業の企画会議をイメージしてください。みんなが問題を共有し、アイデアを出し合い、思考錯誤しながら問題解決を目指していく。これを授業にしたものが「学び合う授業」です。



授業を類型化するとどのようなになるか？

授業は“情報の流れ”で3つのタイプに類型化できます。

教師から生徒に情報が一方向に流れるタイプが「講義型」で、教師と生徒に双方向に流れるタイプが「問答・実習型」です。授業のユニバーサル化 (UDL) を取り入れ、授業の基礎を確かにすれば知識・技能の習得には有効です。しかし、生徒が主体的に授業に参加するには難があります。

学び合う授業で目指すのは情報が生徒同士に双方向に流れるタイプの「FT (ファシリテーション)・ワークショップ型」です。習得を目指す講義型、問答・実習型の延長線上の「授業改善」ではなく、21世紀型能力の育成を目指すFT・ワークショップ型に「授業改革」をする必要があります。

表1 授業の種類3タイプ

授業の種類	習得	活用	学習意欲
講義型 	断片的 ↑	×	×
問答・実習型 		×	△
FT・ワークショップ型 (学び合う授業) 	有機的に結合 ↓	◎	◎

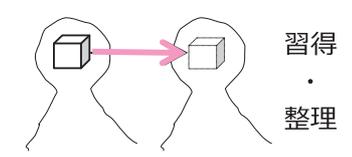
ここで21世紀型能力を育成

「学び合う授業」にはどのような種類があるか？

学び合う授業に3つの種類があります。

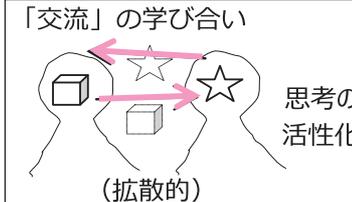
表2 学び合う授業の3タイプ

1つ目は「教え合い」の学び合いです。よくわかった生徒が、よくわからない生徒に教える学び合いです。教えてもらう生徒には知識・技能の習得が、教える生徒には教えることで知識・技能の整理がそれぞれ促されることが期待されます。いずれにせよ「習得」を目指す学習です。

学び合う授業の種類	習得	活用
「教え合い」の学び合い 	◎	

2つ目は「交流」の学び合いです。意見を出し合い、交換し合う拡散的な学び合いで、思考を活性化させる効果が期待されます。

「交流」の学び合いはブレインストーミングや付箋、オーブンクエスチョン (OQ) などを利用して生徒の考えを表出させる”といった学習場面をイメージします。しかし、そればかりでなく、たとえば、教師は発問し生徒から考えを求めるときに、いったんペアで意見を交換する時間をとり、その後、生徒に答えを求めるといった「交流」の学び合いは、日々の授業に簡単に取り入れることができます。そして、学び合いが習慣化されるという面からも有効です。

	習得	活用
「交流」の学び合い 	○	○

- ・付箋・模造紙・OQによる拡散
- ・ペアでの意見交換の取り入れによる学び合いの習慣化

3つ目は「検討」の学び合いです。意見を出し合う拡散の後に「意見をグルーピングし、多角的な視点を得る」、「切り口と構図のフレームワークを利用しながら意見を構造化し、再構成する」、「それぞれの主張について根拠を引き出し分析・吟味する」といった収束を含む学び合いです。

	習得	活用
「検討」の学び合い 		◎

- ・グルーピング・ラベリング
- ・切り口と構図のフレームワークによる構造化
- ・主張から根拠を引き出し吟味

学び合う授業を計画・実施する際は、「人数・形態」の視点と「実施の単位」の視点に留意が必要です。

人数です。「学級」は論点や議論を整理し、それを全体で共有できる利点があります。

「ペア」で「グループ」で「学級」で

「毎時間」か、「単元」か

「ペア」は簡単に学び合いを行うことができます。習慣化するように意識して活用を図ると良いでしょう。「グループ」は意見の多様性と話し合いへの全員参加の観点から4人が適切な

学び合いを取り入れる場合「単元」の単位をイメージしがちです。しかし、授業開始時や終了時に5分間の学び合いの時間をつくるなどで「毎時間の授業」に学び合いを取り入れると、学び合いが授業のリズム・習慣となり、より高い効果が得られます。

“学び合う授業”に必要なスキルは何か？

21世紀型能力を育成する「学び合う授業」を行うには、教師と生徒がファシリテーション (FT) のスキルを身に付けることが有効です。FTとは「集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現、成長などあらゆる知識創造活動を支援し促進していく働き」のことです。

FTの実施には会議や研修、授業を企画運営するスキル、議論を可視化し、かみ合わせるスキル、自己開示や信頼感・自己肯定感を高め、コミュニケーションを促進させるスキルの習得が必要です。県中教研は前者2つを「論理スキル」、後者を「対人スキル」と呼んでいます。これらのスキルは図4のように21世紀型能力の3つ能力とそれぞれ対応し、FTと高い整合性があります。このため、FTのスキルを高めることが21世紀型能力を高めることのつながるのです。

ファシリテーション (FT)

「集団による問題解決、アイデア創造、合意形成、教育・学習、変革、自己表現、成長などあらゆる知識創造活動を支援し促進していく働き」

独立行政法人教職員研修センター(2013)「教員研修の手引き～効果的な運営のための知識・技術～」

※ Facilitation：促進すること、容易にすること

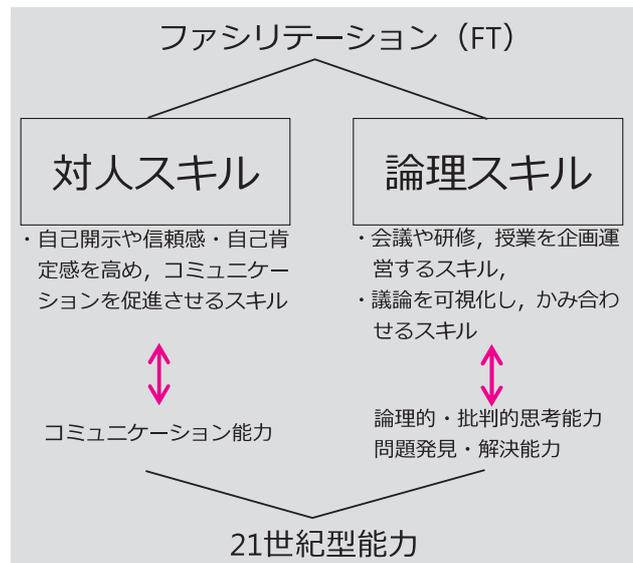


図4 FTのスキルと21世紀型能力の対応

どのように「学び合う授業」を全県に広めるか？

21世紀型能力を育成する「学び合う授業」は、どのように実施すればいいのでしょうか。それは、授業にFTを導入すればいいのです。それでは、授業にFTを導入するにはどうすればいいのでしょうか。それは、教師がFTを有効と感じ、教師がFTのスキルを身に付け、“FTスキルの引き出し”を多くもてば良いのです。では、教師がFTを有効と感じ、“FTスキルの引き出し”を多く持つにはどうすればいいのでしょうか。それは、まずはFTの研修を実施し、次に、他の研修をFTの手法で実施し、最終的には職員会議等の会議や打合せにFTの手法を取り入れることです。

県中教研では、図5の流れを基に「教師の学び合い」が「学び合う授業」を創る取組を進めています。

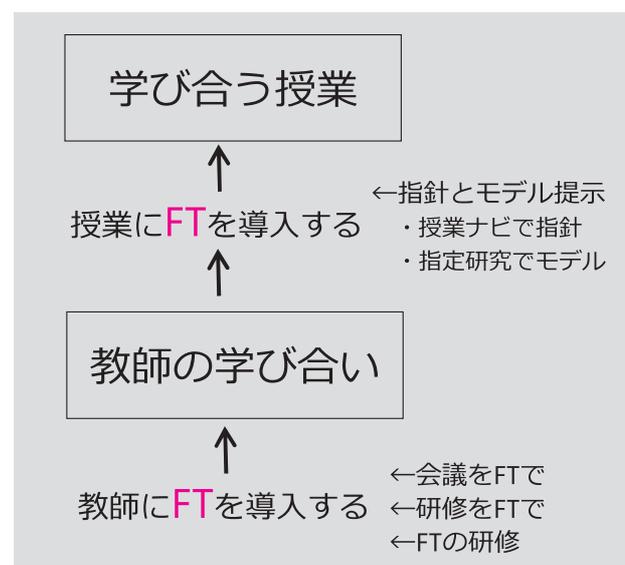


図5 全県に学び合う授業を広げる流れ

FTスキルの基本は何か？

「学び合う授業」を行うために最も基本となるFTのスキルは、まず、FTの流し方の基本プロセスを理解することです。

それは「個→拡散→収束→個」の流れで、模式図として表したものが図6です。

ファシリテーションは、まず「個」で考え論点（発問）に対する自分の考えを持ちます。次に、それをペアやグループ等を出し合い「拡散」します。たくさん出た意見はフレームワークを利用して整理し、構造化したり、価値付けしたりします。これが「収束」です。収束したことを基に「個」で振り返る、これがFTの基本プロセスです。これをベースに状況に応じてアレンジしていくと良いでしょう。

FTと通常の会議や授業の違いは拡散と収束をきちんと分けることです。これにより、せ

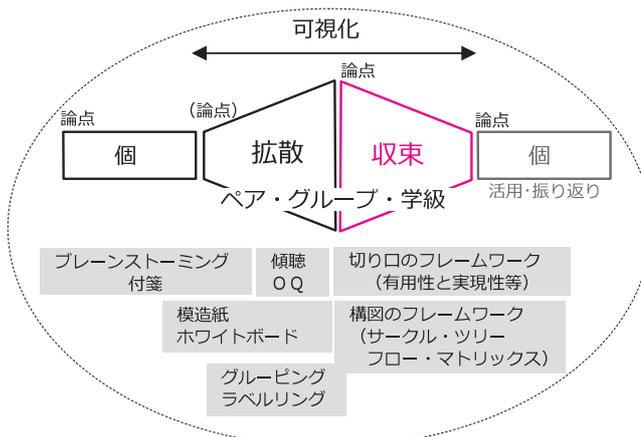


図6 FTの基本プロセス

く出した参加者の意見やアイデアが、出してすぐに否定されるということがなくなります。また、議論全体を可視化します。議論が論点からぶれにくくなるとともに、「人」への意見でなく、可視化された「内容」への意見に変わります。

基本プロセスは問題発見・解決のどの段階で行うか？

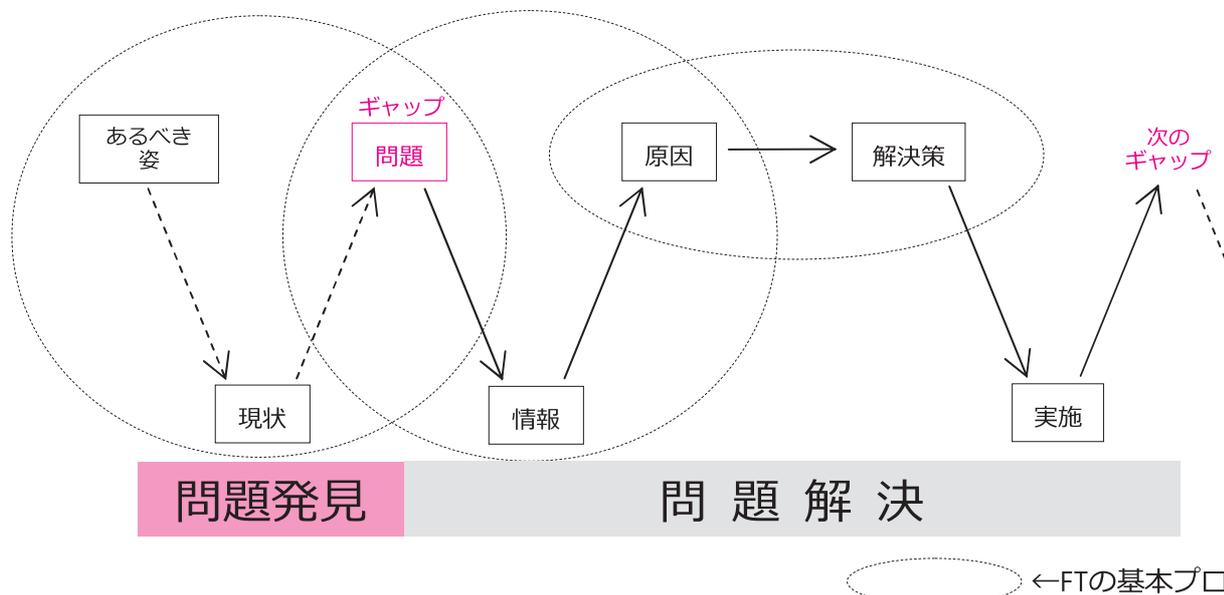


図7 W型問題解決モデル

※ W型問題解決モデルは「川喜田次郎(1967)発想法 中公新書」を参考に改良

個→拡散→収束→個のFTの基本プロセスは、問題発見・解決のどの段階で行うのでしょうか。図7はW型問題解決モデルです。3つの場面でFTが有効です。1つ目は問題を見つける場面です。問題が共有されたら、次に問題の原因（の仮説）を考える場面でFTを行います。原因

が特定できたら、問題の解決策を考える場面でFTを行います。実際の授業では3つの場面全てを行わず、2つをくっつけたり、ある場面は教師が示して検討せず省いたりします。

〈特別寄稿〉

ファシリテーションによる 「学び合い」の充実



新潟青陵大学教授

岩崎 保之

「将来の変化を予測することが困難な時代」の到来

21世紀はグローバル化が一層進み、日本を含む多くの国々において、多様な文化が共生する時代になるといわれています。

また、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の普及などに見られる情報化の進展は、多くの“個”が広い範囲で高速に影響し合い、多様な価値が複雑に絡み合う時代を現出させています。

さらに、産業・工業を基盤とする社会から知識を基盤とする社会への構造転換は、他者によって決められた業務を黙々とこなす働き方だけでなく、新しい知識・情報・技術を創出する働き方もできる人材を必要としています。特に日本においては、バブル経済の崩壊を契機として、先人が築き上げてきた年功序列の終身雇用システムを維持することが難しくなっています。“欧米に追いつけ、追い越せ”の時代は終わりました。他国に例を見ない少子高齢化の進展と相まって、今後は日本独自の新しいシステムをもって新しい知識・情報・技術を創り出し、世界と協調していかなければならない時代を迎えています。

それゆえ学校教育においては、21世紀を生きる子どもたちに対して、自分自身の価値観を大切にしつつも他者を受容し、他者とともに思考したり、協働したりすることを通して、先を見通すことが難しい課題にも真剣に向き合い、主体的・創造的に問題を解決していく資質・能力を育成することが求められています。

このような状況にあって、次の学習指導要領の骨子を審議している中央教育審議会教育課程企画特別部会（以下「部会」）においては、今年の8月20日に「論点整理」を公表しました。部会においては、次の学習指導要領が実施される2030年までの時代を、「将来の変化を予測することが困難な時代」と表現しました。そして、そのような時代を生きる子どもたちに「育成すべき」資質・能力として、部会においては、学校教育法第30条第2項の“学力3要素”規定との対応において、i)「何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）」、ii)「知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）」、iii)「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性等）」の三つを提唱しました（図1）。

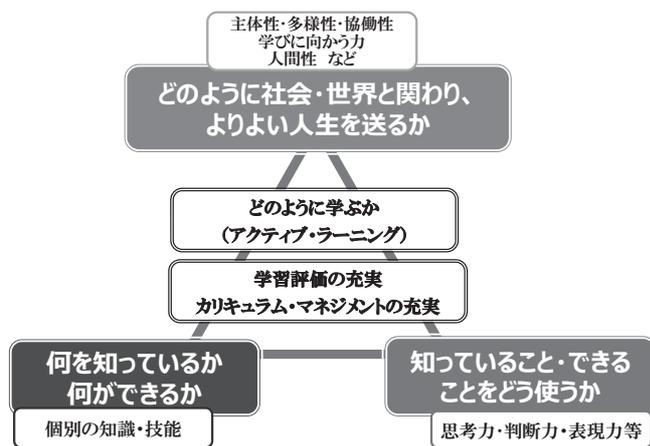


図1 育成すべき資質・能力の三つの柱を踏まえた日本版カリキュラム・デザインのための概念（中教審・教育課程企画特別部会）

また、部会においては、三つの資質・能力を育成する指導方法、とりわけ「21世紀型能力」（国立教育政策研究所）の中核として位置付けられているii）「思考力・判断力・表現力等」を育成する指導方法についても言及しました。それが、文部科学大臣による昨年11月20日の諮問にも登場した「アクティブ・ラーニング」です。

「アクティブ・ラーニング」の定義・意義

「アクティブ・ラーニング」は、もともと大学などの高等教育機関において使われてきている用語です。

2012（平成24）年8月28日に公表された中央教育審議会答申「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」においては、アクティブ・ラーニングを以下のように定義しています。

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。

この定義にある「能動的」学修の具体例として、同答申では「発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である」と示しています。すなわち、教師の“トーク&チョーク”だけで進行するようなパッシブ（静的）な学修ではなく、他の学生や教師と話し合ったり、考え合ったりするようなアクティブ（能動的）な学修の全てを「アクティブ・ラーニング」として定義しているのです。

そして、学校種を大学から中学校へ転じると、そのような能動的学習、すなわちアクティブ・ラーニングは、既に多くの学校で実践されていると推察することができます。

例えば、平成27年度全国学力・学習状況調査の「学校質問紙」において、「学級やグループで話し合う活動を授業などで行いましたか」では89.0%の先生方が、「様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をしましたか」では92.3%の先生方が「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答しています。中学校では、多くの先生方がアクティブ・ラーニングを行っていることを自認しているのです。

では、前述した「論点整理」では、初等・中等教育学校でのアクティブ・ラーニングはどのように定義されているのでしょうか。

部会においては、2012（平成24）年の「質的転換」答申における「アクティブ・ラーニング」の定義に依拠しています。その上で、アクティブ・ラーニングの「意義」を以下のように示しています。

「アクティブ・ラーニング」は、狭い意味における授業の方法や技術の改善に留まるものではなく、子供たちの主体的な学びを引き出し、どのような資質・能力を育むかという観点から、学習の在り方そのものについて、その問い直しを目指すものである。

すなわち、部会においては、先生方による（自分は時代や生徒が求める授業を実践している）との思い込みを排し、目指す生徒の姿と実際の具体的な生徒の姿とを比べながら、本当に時代や生徒が求める授業をしているのか日常的に検討し、改善する指針としてアクティブ・ラーニングを位置付けようとしているのです。

実際、前述した「学校質問紙」に対応する「生徒質問紙」の調査結果を見てみると、「生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか」では77.8%の生徒が、「生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」では62.9%の生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答しています。しかしながら、それらの割合は、先生方の認識に比べて前者が10%以上、後者については30%近くも低くなっています。

以上に述べてきたアクティブ・ラーニングの定義・意義と、全国学力・学習状況調査の諸結果とを勘案すると、特に中学校のアクティブ・ラーニングに関しては、全ての生徒が（話し合った）（考えが深まったり、広がったりした）と実感できる学習活動を実施する必要があるといえます。すなわち、教師の立場から見た“量的な”実施に甘んじるのではなく、生徒の立場から見た“質的な”充実が必要とされているのです。

ファシリテーションを用いた授業の実践

新潟県中学校教育研究会（以下「県中教研」）においては、「学び合い」の研究的実践に取り組んでいます。そして、その「学び合い」には「教え合い」「交流」「検討」の3種類があることを明らかにしてきています（会報第82号）。どの「学び合い」も複数の生徒がコミュニケーションで学習を進めるといった姿において、アクティブ・ラーニングそのものであるといえます。

では、教え合ったり、交流したり、検討したりした結果、生徒が授業後に（話し合った）（考えが深まったり、広がったりした）と実感できる“質的に”充実した学習活動として「学び合い」を実施するためには、どうしたらよいのでしょうか。

わたくしは、その答えとして「ファシリテーション」を用いた「学び合い」の実践を提案したいと思います。

「ファシリテーション」と「学び合い」との関係

「ファシリテーション」(facilitation)という英単語の接頭辞facilは、ラテン語でeasyを意味します。そして、英和辞書では「容易にすること」「促進」(新英和大辞典)と訳されています。

また、国語辞書では「グループによる活動が円滑に行われるように支援すること。特に、組織が目標を達成するために、問題解決・合意形成・学習などを支援し促進すること。また、そのための方法」(大辞林)と説明されています。

県中教研が『「学び合い」に関する先行研究』(会報第82号)として言及している「学び合い」(西川純氏)「学びの共同体」(佐藤学氏)「知識構成型ジグソー法」(三宅なほみ氏)などは、しばしば「ワークショップ型授業」と呼ばれている授業形態です。この「ワークショップ」とファシリテーションの違いに関しては、佐々木英和氏(2011)による教育学の知見に基づいた考察において、ワークショップは「場面」であり、その場면을「企画」(設計・調整、演出)するのがファシリテーションであると区別されています。

以上の引用を勘案すると、県中教研の「学び合い」とファシリテーションとの関係は、「学び合い」で生徒が教え合ったり、交流したり、検討したりする「場面」を教師が「支援し促進する」という“考え方”がファシリテーションであり、また、その場면을「企画」する“方法”がファシリテーションであると整理することができます。

このように「ファシリテーション」という語には、二つの意味が含まれています。そして、現状では適当な日本語が見当たらないことから、カタカナ言葉が普通名詞として使用されているものと考えられます。

ファシリテーションの系譜と授業実践の拡がり

ファシリテーションの源流をたどると、1940年代以降の米国におけるグループダイナミクスやエンカウンターグループの諸研究にさかのぼることができます。その後、米国では1960年代に体験学習や市民参加型のまちづくり活動でファシリテーションが実践されるようになり、1970年代にはビジネス分野において、会議を効率化する方法として開発が進みました(石川一喜氏：2015)。

日本におけるファシリテーションは、1990年代以降、外資系企業を中心に問題解決を目的とした場面での導入が図られ、その後、行政における地域住民の合意形成を目的とした場面でも実践されるようになりました(堀公俊氏：2004)。

学校教育においては、2000年代以降、「問題解決」「合意形成」の二つを目的とした職員研修の場面を中心に実践されてきています。そして、近年では教育を目的としたファシリテーションが授業で実践されるとともに、児童・生徒にどのような資質・能力が形成されたかという視点からの効果検証が、定量的・定性的に行われ始めてきています。

例えば峰本義明氏(2013)は、高等学校国語科における小説読解の授業でファシリテーションを実践し、授業前と授業後の生徒による自己評価を検定した結果、「読解方略」が伸長したことを明らかにしています。

また、新潟市立白新中学校(2013・2014)においては、学校全体でファシリテーションの授

業実践に取り組んだ結果、教科等の学習場面では「意識して話を聴かなければならないことを実感」するようになった生徒の姿を、特別活動の学習場面では「他者の意見に耳を傾ける」ようになった生徒の姿を、教師の見取りや生徒の自由記述等に基づいて明らかにしています。

ファシリテーションを用いた授業の特徴

生徒がアクティブ（能動的）に学習するという点においては、前述したワークショップ型授業もファシリテーションを用いた授業もアクティブ・ラーニングであり、どちらも同じように見えます。

では、ファシリテーションを用いた授業には、どのような特徴があるのでしょうか。

新潟を拠点に活動している教育NPO「みらいずworks」代表の小見まいこ氏は、ファシリテーションを実践する際のファシリテーターとしての教師の役割を、授業の流れに沿って以下のように示しています（にいがたファシリテーション授業研究会：2013）。

- | | |
|-------|------------------------|
| 事前準備 | 1. かかわりのプロセスを設計する |
| | 2. わくわくと話したくなるテーマを設定する |
| 導入 | 3. 安心・安全でオープンな場をつくる |
| 展開 | 4. 話し合いや思考をうながす質問をする |
| | 5. 児童・生徒の様子や変化を見取る |
| | 6. メンバーの発言を可視化（見える化）する |
| ふりかえり | 7. ふりかえり、学びを共有する |

これら七つの役割からは、ファシリテーションを用いた授業の“考え方”や“方法”として特徴的な二つの点を見いだすことができます。

一つは、「聴く」ことに関するルールや約束の共有です。小見氏は、「3. 安心・安全でオープンな場をつくる」役割として、まず「『聴く』ことの大切さ」を伝えた上で、「否定しないでまず相手の考えを受け入れること、答えは先生が持っているのではなくみんなでつくること、一人ひとりの考えや意見を引き出し、活かすこと」などを伝え、それらをルールや約束として共有することを役割の具体として指摘しています。

もう一つは、「書く／描く」ことで集団思考のプロセスを「可視化（見える化）する」ことです。小見氏は、「6. メンバーの発言を可視化（見える化）する」役割として、「ファシリテーション・グラフィック」を用いて話し合いを記録することを推奨しています。

「ファシリテーション・グラフィック」は、模造紙やホワイトボードなどに話し合いの内容を文字やイラストなどを使ってグラフィカルに分かりやすく表現するファシリテーションの技法です。話し合いを記録する技法としては、ほかにも付せん紙や思考ツールを使う技法がありますが、それらは参加者の意見が発散・拡散しにくかったり、ひらめきが生まれにくかったりするという弱点があります。

ファシリテーション・グラフィックでは、まず模造紙に水性ペンで話し合いのテーマ、日付、

参加者の名前を書いた上で、参加者の発言をグラフィカルにかき出していきます。その際のポイントとして、小見氏は「できるだけ意識せずに発言者の言葉をそのまま使って」かくこと、「時間がたっても意味がわかるように、主語、述語をつけた短い文章で」かくこと、「1枚の紙を意味空間としてとらえ、似ている情報は近くに、似ていない情報は遠くに」かくことなどを指摘しています。

一つ目の「聴く」という役割は“考え方”としての、二つ目の「書く／描く」という役割は“方法”としてのファシリテーション授業の特徴としてとらえることができます。

友達の意見を否定せずに聴いたり、聴き合ったりするというファシリテーション授業の“考え方”は、生徒同士の関係性に変化をもたらし、学級に受容的な雰囲気醸成していく効果が期待できます。

また、模造紙やホワイトボードなどに話し合いの過程をそのまま記録するというファシリテーション授業の“方法”は、能動的で協働的な学習の成果が確実に残ることから、生徒が成就感を得て、授業への取組意欲をより一層高める効果が期待できます。

ファシリテーション・グラフィックの教育的効果

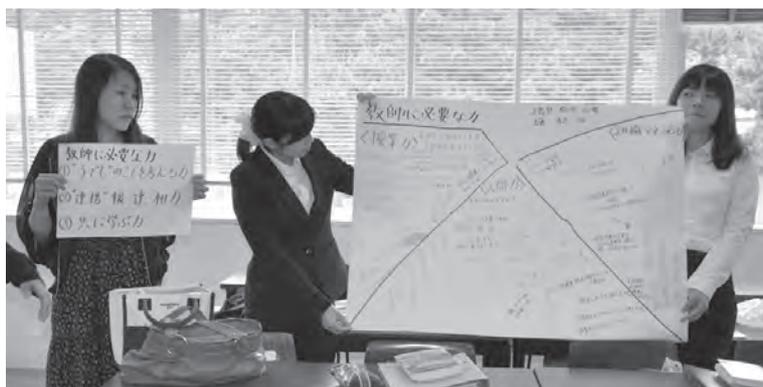


写真 ファシリテーション・グラフィック

わたくしは、勤務する大学で教員を目指す学生の授業を担当しています。そして、多くの学習場面においてファシリテーション・グラフィックを用いた「学び合い」を実践しています（写真）。

以前、わたくしは、学生がどのようにファシリテーション・グラフィックの効果を認識しているのか調査した

ことがあります（岩崎保之：2014）。具体的には10項目の設問（5点満点）と自由記述欄からなる質問紙を学生に配付し、任意で提出のあった標本118枚を統計学的に分析しました。

【全体的な印象】

10項目の定量的な設問の平均値（M）は4.14（SD=.45）という結果であり、学生は、ファシリテーション・グラフィックを肯定的に受け止めていることが示唆されました。

この点については、自由記述を対象とした計量テキスト分析でも、学生は、「思う」を中心としたクラスターにおいて良い印象を持っていることが確認されました（図2）。「嫌と感じる振り返りを作業することで楽しみながら行えた。楽しいだけでなくコミュニケーションをとりながら、また、足りない所を互いに補いながら行えた」という自由記述は、良い印象の内容を端的に表現しています。

【具体的な効果の受け止め】

10項目の定量的な設問の中でも、「思考の可視化（見える化）」に対応する設問の平均値が高い結果となりました。話し合いのプロセスを模造紙などに記録することで“話し合っている論点”

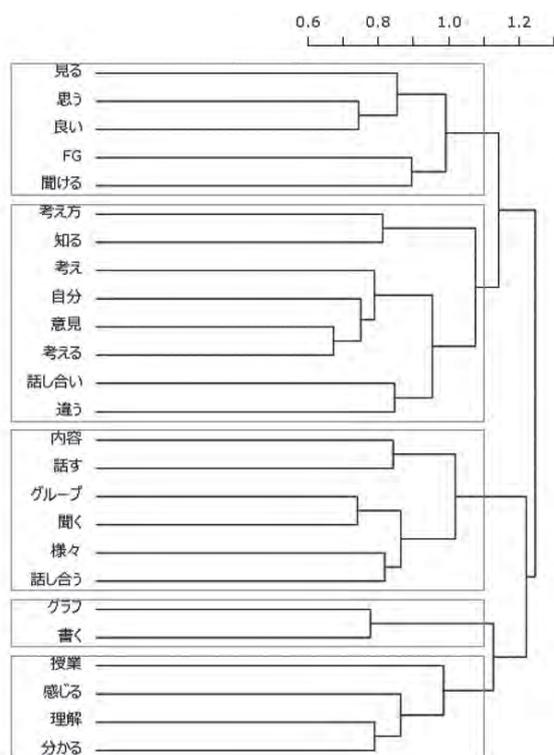


図2 自由記述における頻出語の共起・対応関係

や“個別の意見の内容”が明確になるので、認知・理解がうながされたり、様々な角度からの再検討が可能になったりする教育的効果が示唆されました。

この点については、自由記述を対象とした計量テキスト分析でも同様の示唆が得られました。具体的には「思う」「意見」のクラスター間、「グループ」「書く」「理解」のクラスター間それぞれに共起・対応関係が認められました（図2）。

後者のクラスターは、「思考の可視化（見える化）」に対応するものです。「話し合った内容が視覚化されていたので、よりリアルに認知できた。“話す”だけだと少し宙に浮いたようなあいまいさがあるが、それを実際に“書いてまとめる”ことにより、明確になったので周りの人との意志が通じやすくて良かった」といった自由記述は、思考を可視化（見える化）

することの教育的効果を端的に表現しています。

また、前者のクラスターからは、定量的設問においては平均程度であった「思考がうながされた」「考えるきっかけとなった」というファシリテーション・グラフィックのもう一つの教育的効果が示唆されました。「FGをやってみて私がまず思ったのが、かなり『考えさせられる』活動だった、という事です。『何故こうなった？』ということや『どうしたら解決できるのか？』という事を自分の知識を総動員して考えるのが難しいものでした」といった自由記述は、思考が活性化する教育的効果を端的に表現しています。

このように、楽しみながら手軽に始められるファシリテーション・グラフィックは、学生の思考・意見表出をうながしたり、認知・理解をうながしたりする教育的効果が認められたことから、中学校においても生徒の「学び合い」を充実させる有効な方法としてお勧めできます。

たくましく生き抜く生徒を育てる

県中教研の「学び合い」は、これまで多くの教師が自明のものとしてきた学力観や授業観に対して、大きな変革を求める取組です。

学力観としては、テストで測ることができる「個別の知識・技能」のみを重視する考え方から、必ずしもテストで測ることができるとは限らない資質・能力も重視する考え方への変革です。県中教研においては、後者を「21世紀型能力」と呼び、その具体を「論理的・批判的思考能力」「問題発見・解決能力」「コミュニケーション能力」として示しています。そして、それら三つを「文部科学省がいう思考力・判断力・表現力等に通じるものである」（会報第82号）として位置付けています。

ここで留意しなければならないのは、「21世紀型能力」はそれだけを取り出して指導することはできないということです。なぜならば、思考・判断・表現といった諸活動は、何かの問題を解決する途上で生起するのであって、思考するために思考したり、判断するために判断したり、表現するために表現したりすることは原理上、不可能だからです。

それゆえ、授業はおのずから問題解決的な指導にならざるを得なくなります。そして、問題解決は生徒一人の力では困難であるがゆえに、授業はおのずから協働的な「学び合い」を实践せざるを得なくなります。その際、解決すべき問題がオーセンティック（真正）であればあるほど、生徒は過去の生活経験に根ざした思考・判断がしやすくなるので、問題解決に向けた探究が加速したり、問題解決のために使用する「個別の知識・技能」がより一層定着したりすることが期待できることとなります。

しかしながら、たんに教え合ったり、交流したり、検討したりさえすれば、すなわち生徒がアクティブに「学び合い」さえすれば良い、と考えるのは間違いです。最終的な学びは、一人ひとりの個に帰着し、個において成立するものだからです。集団における思考を個、すなわち一人ひとりの生徒における思考にきちんと還元することが大切です。

ファシリテーションを用いた「思考の可視化（見える化）」は、一人ひとりの生徒に対して「学び合い」における学びの自覚化・言語化をうながします。そして、この経験は、生徒が将来、様々な問題場面に直面したときに、他者と力を合わせて何が問題であるかを整理・分析し、問題を解決していく資質・能力を形成していくことでしょう。

大切に育てている生徒全員が「将来の変化を予測することが困難な時代」をたくましく生き抜いていけるように、教師であるわたしたちも“ファシリテーター型教師”を目指して「学び合」っていきましょう。

文献

- 堀公俊. ファシリテーション入門. 東京:日本経済新聞社:2004.
- 佐々木英和. ファシリテーター概念に関する理論的考察－ファシリテーション実践の体系的把握につなげるための覚書－. 宇都宮大学教育学部教育実践総合センター紀要. 2011;34:129-136.
- 新潟市立白新中学校. 国立教育政策研究所平成24・25年度教育課程研究指定校事業研究紀要. 15. 新潟:新潟市立白新中学校:2013. にいがたファシリテーション授業研究会.
- みんなが主役！わくわくファシリテーション授業. 新潟:新潟日報事業社:2013.
- 峰本義明. 小集団討議の活性化が読解方略の伸長に及ぼす効果－ファシリテーション・グラフィックを活用した『ころ』の授業実践を基に－. 国語科教育. 2013;73:55-62.
- 岩崎保之. 教員・保育士養成科目におけるファシリテーション・グラフィックの教育的効果. 新潟青陵学会誌. 2014; 7 (1):35-45.
- 新潟市立白新中学校. ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業－白新中100の実践－. 新潟:新潟日報事業社:2014.
- 石川一喜・小貫仁. 教育ファシリテーターになろう！－グローバルな学びをめざす参加型授業－. 東京:弘文堂:2015.

いわさき・やすゆき

1970（昭和45）年生まれ。新潟大学大学院現代社会文化研究科修了，博士（教育学）。新潟県公立小学校教諭，新潟青陵大学講師，准教授を経て2011（平成23）年より現職。専攻は教育学。

傾聴

対人スキルの一歩の基本は「傾聴」です。傾聴とは「相手の話をしっかりと聴く」こと。簡単なことのようにですが、自分でやろうとしてみると難しく、ましてや、生徒にどうやって指導したらいいのでしょうか？

オープン・クエスチョン

意図的に「質問」を練習することで「傾聴」を促す方法を紹介します。質問には大きく分けて2種類あり、それはオープン・クエスチョン（OQと略す）とクローズド・クエスチョンがあります。相手が「はい、いいえ」や「AかBか」で答えられるような、回答が限定した質問のしかたをクローズドクエスチョンといい、これに対し、「どう思うか？」などのように、相手に自由に答えさせるような質問のしかたをオープンクエスチョンといいます。図1はちよんせいこさんが提唱している「ホワイトボード・ミーティング®質問の技カード」です。

「質問の技カード」を理科の授業で予想理由を検討するときに使ってみました。まず、このカードを印刷し配布します。次にペアで互いの考えを出し合います。図2はそのときの写真です。左の男子の生徒の予想理由に対する考えを、右の女子の生徒は「質問の技カード」のOQを順番に使って引き出しています。

OQを使って引き出し、引き出されると、互いの傾聴がすすみ、引き出す方（FT）も、引き出される方（聞かれ役）も互いに思考が深まると感じました。そして、自分が言いたかったことが言えたことで、互いの信頼感も高まっているようでした。

会員の皆さんも是非、自分の授業に試してみてください。

ホワイトボード・ミーティング®質問の技カード

オープン・クエスチョンの例

- 1 ~というと？
- 2 どんな感じ？
- 3 例えば？
- 4 もう少し、詳しく教えてください
- 5 具体的にはどんな感じ？
- 6 どんなイメージ？
- 7 エピソードを教えてください
- 8 なんでもいいですよ
- 9 ほかに？

あいづちの例

- 1 うんうん
- 2 なるほど、なるほど
- 3 スゴイですねえ
- 4 そうなんですかあ
- 5 へえー
- 6 だよねえ
- 7 それで、それで？
- 8 そっかあ
- 9 ほかに？
- 10 わかる、わかる

クローズド・クエスチョンの例

- 1 数量
- 2 固有名詞
- 3 はい、いいえ

*ある程度オープンクエスチョンで情報を発散してから、質問します（著者加筆）

ちよんせいこ（2015）「ちよんせいこのホワイトボード・ミーティング」小学館、P.30

図1 質問の技カード

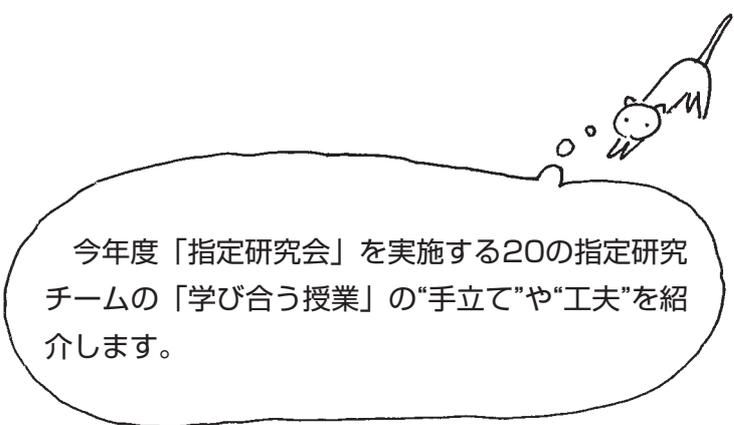


質問の技カードを利用して、理科の予想の理由に対する考えを引き出しています。

図2 OQを利用した理科の授業

② 授業改革のポイント1

この手立てで21世紀型能力を育てる！



今年度「指定研究会」を実施する20の指定研究チームの「学び合う授業」の“手立て”や“工夫”を紹介します。

国語 <上越地区>

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

思考ツールと「学び合い」で、 論理的思考力を 育てる !!



柏崎市・刈羽郡中教研 国語部

研究推進責任者(左) 柏崎市立東中学校 田中 美穂
会場校担当(右) 刈羽村立刈羽中学校 田原 成久

思考ツールを使うと、考えの筋道を作ることができます。さらに学び合い、交流し合うことで自分の考えをより説得力のあるものにでき、論理的思考力が育ちます。

私たちは、「論理的思考力」を「自分の考えを筋道立ててとらえ表現する力」と考え、その力をつけるために、思考ツールの活用と「学び合い」に着目しました。

この2つを活用することで、次の利点があります。

- ① 思考ツールを使って文章読解や作文を行うことで、ツールの手順に沿って筋道をとらえることができます。
- ② 学び合い—仲間の文章を評価し合うことによって、客観的で説得力のある文章に練り直すことができます。

手立て

2つの思考ツールを活用し、
学び合いで評価を交流し合う

ポイント1

「比較ばっちりシート」に読み取った主張や事実、意見を整理することで、文章構成の全体像を把握できます。

ポイント2

「スッキリ構成シート」に論理の筋道をまとめることで、論理の展開を意識して書くことができます。

ポイント3

視点三要素にそって評価し合うことで学び合いが深まり、自分の論説文をよりよくするためのアイデアを得ることができます。

ここは気をつけよう！

「比較ばっちりシート」では、文章のどこを比較するか、視点を明確にしてまとめるよう助言します。「スッキリ構成シート」では、「自分の主張」「根拠①（自分の体験）」「根拠②（資料の引用）」「反論に対する意見」「主張のまとめ」の順に文章を書き、その後の話し合いで、「展開通りに書かれているか」「主張を納得させるだけの、十分な根拠が書かれているか」などの基準をもとに、班で評価し合います。

ポイント 1

「比較ばっちりシート」は、文章の内容や文章構成の把握に使います。

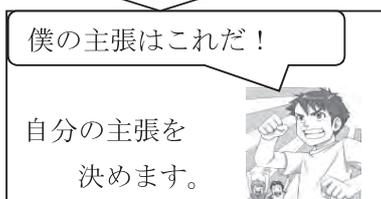
	A	B
主張		
事実		
構成	①問題提起 ②	①事実1 ②問題提起
語句		

主張、事実と意見、構成や文体といった視点から、AとBの2つの論説文を比較します。内容について比較できると同時に、文章構成の違いも確認できます。

また論説文では、抽象語が多くなります。文中でのそれらの意味を正確にとらえることができます。

ポイント 2

「スッキリ構成シート」は、テーマについて自分の意見をまとめるときに使います。



まず、論説文の構造をこのシートを使って説明します。どこにどのくらいの量を書けばいいか、イメージをもたせます。次にテーマについて書籍による調査を行い、自分の意見をまとめます。そして集めた材料を「スッキリ構成シート」にまとめていきます。

ポイント 3

学び合いは、個人で論説文を書いた後に行います。班員の論説文を読み合い、評価し合います。



視点三要素「主張」「引用」「抽象的語・比喩」が、説得力のある論説文にするために、適切に使われているかを評価します。また、「自分ならこう書く」といった代案を必ず出させます。こうすることで、班員の論説文にも責任をもって関わるようになります。

意見は、付箋に書いたものを説明しながらスッキリ構成シートに貼るので、意見を可視化、操作化することができます。また、音声言語とは違い紙面に残っているので、この後の清書にも生かすことができます。

Q & A

Q 「比較ばっちりシート」「スッキリ構成シート」に意見をまとめることが難しい生徒には、どのような支援を行いますか？

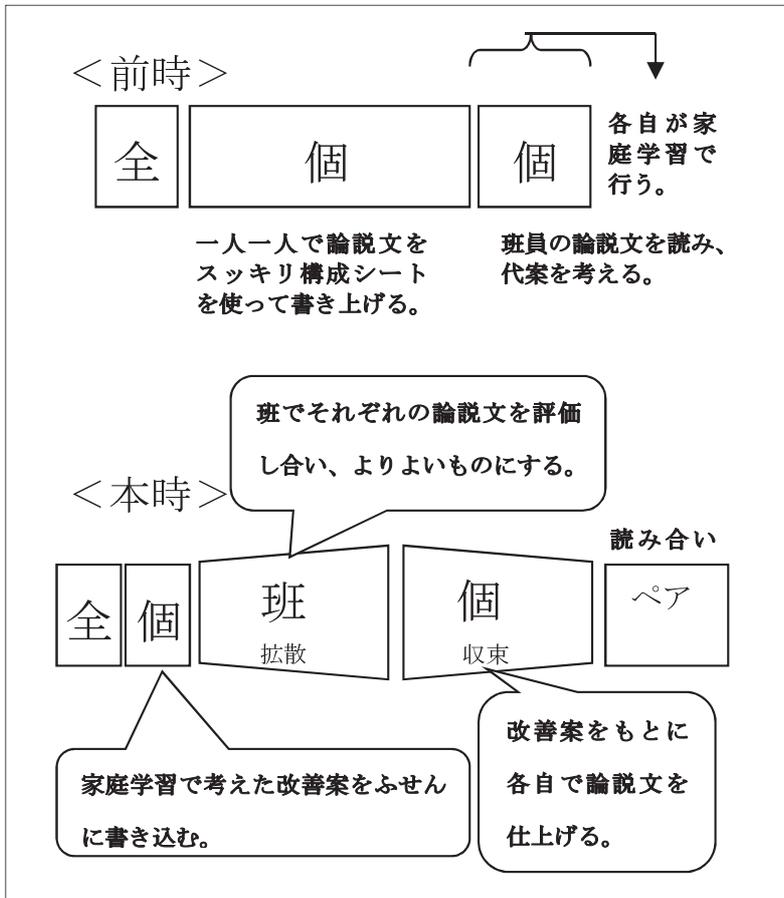
A 今回、2つのシートをスムーズに活用できるよう、さらに2つの補助シートを用意します。

1つは「比較ばっちりシート」にまとめることが難しい生徒のために、それを穴埋めプリントにした「ヒントシート」です。

もう1つは「意見文を完成させるフィッシュ・ボーンシート」です。集めた情報を取捨選択・並べ替えて、意見の筋道を組み立てるための補助シートとして使います。



授業全体の流れは…



前時に、一人一人が「スッキリ構成シート」の手順に沿って論説文を書き上げます。その後家庭学習で、班員の書いた論説文を読み、評価します。

本時は、「全体」で本時の活動を確認した後、家庭学習で考えた班員の論説文への評価を、「個人」で付箋に書きだします。そして「班」になり、学び合いの中でそれぞれの評価を出し合い、その論説文をどうすればより良いものにできるか班で練り直します。その後班員からのアドバイスをもとに個人で再考し、論説文の清書を書き上げます。

本時の流れの確認と個人による付箋書き

「本時の流れ」板書

- 1 班員の論説文について、自分が考えた改善案を付箋に書く。
 - ◎ 視点三要素
 - ① 主張が明確か。
 - ② 適切な引用が入っているか。
 - ③ 抽象語・比喩は使われているか。
 キーフレーズ
 「ここは共感できる」「私ならこう書く」
- 2 班で意見交流, みんなで前進, より良いものに！
 - ・班長が司会。班長の論説文から始める。
 - ・1人あたり5分。
 - ・付箋で同じ意見は重ねる。
- 3 意見をもとに論説文を清書する。

事前に、黒板に左の内容を書き、「本時の流れ」を説明します。付箋書きと学び合いの際、視点三要素(「主張」「引用」「抽象語・比喩」)を外さないよう意識することを、全体で確認します。

個人による付箋書き



その後、それぞれ家庭学習で考えてきた代案を付箋に書いていきます。

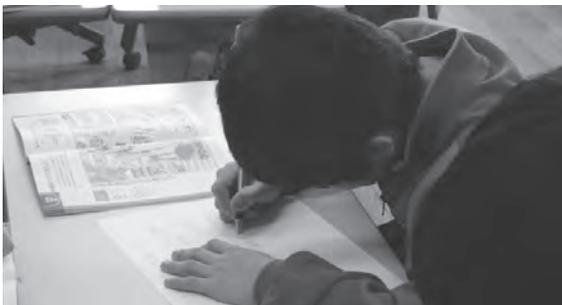
みんなで前進，論説文をよりよくする学び合い



1つの論説文についての話し合い5分×班員の人数（4～5人），合計20～25分で学び合いを行います。

班長が司会者になり，時計回りで意見を出し合います。

個人で振り返り，清書の作成



「スッキリ構成シート」でもらったアドバイスをもとに，自分の論説文の清書をします。生徒は班員のアドバイスをもとに，より良い論説文になるよう表現を工夫していきます。時間が余れば，隣り同士でペア読みを行います。

指定研究会情報

上越地区（柏崎市・刈羽郡中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：論理的思考力を育むための指導の工夫

～思考ツールの活用と，学び合いの活動を取り入れた実践を通して～

本時の授業では「スッキリ構成シート」を思考ツールとして活用し，一人一人がまとめた論説文をグループ内で評価し合い，よりよいものに仕上げている活動を行います。

◇月 日：11月18日（水） ◇会場校：刈羽村立刈羽中学校

◇公 開：3年 新しい知識を創造しよう 授業者 田原 成久

◇指導者：上越教育事務所 指導主事 藤田 由江

国語 〈中越地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

受け身になりがちな古典の 学習をファシリテーションで 主体的に！



長岡市・三島郡中教研 国語部

研究推進責任者(左) 東北中学校 小嶋 祐子

会場校担当(右) 太田中学校 丸岡 昭子

ファシリテーションの手法を効果的に組み合わせることで、生徒は主体的に課題を追究していきます。また、思考の過程の可視化は、読みの深まりの実感につながります。

「難しい!」「教わるもの」というイメージの古典。その読みを深めるために、「自分で考え、発見する」活動を取り入れます。ファシリテーションで、生徒が自他の考えを交流させながら、言葉の深さや作者の思いに気づき、古典のおもしろさを味わうことを目指します。

◎ 役割を明確にしたファシリテーションで、生徒は「新たな気づきを得ることの楽しさ」「思考を重ねることの楽しさ」「読みの深まりを自覚することの喜び」を実感します。それは、生徒の考え続けようとする姿につながります。

手立て

ファシリテーションを組み合わせます。

ポイント1

KJ法で、一人一人の考えを引き出します。

ポイント2

ジグソー学習法では、「一人一役」で主体的な活動を促します。

ポイント3

ホワイトボードの記録を見る時間を設定し、思考を活性化させます。

ここは気をつけよう！

KJ法で使用する付箋はよく見えるようにできるだけ大きなものを使い、文字はフェルトペンなどで太く大きく書かせましょう。

読みの深まりを比較できるように、学習の前後に自分の考えを書かせましょう。

ポイント 1



ミニホワイトボードに付箋を貼りながら自分の考えを説明！



課題別に、ホワイトボードや付箋の色を変えて見やすく！

一人一人の考えを引き出す KJ法

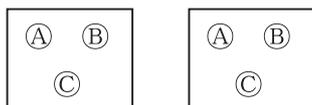
一人一人が自分の考えを付箋に書きます。それをKJ法を使ってグループ内で発表し合い、まとめていきます。

付箋には、それぞれ生徒の名前を書かせておきます。

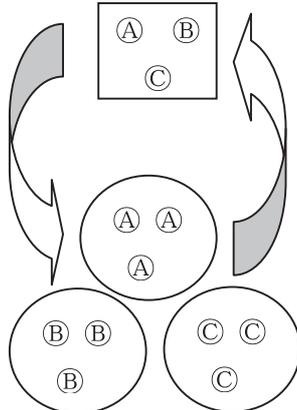
ポイント 2



①班で課題を分担



②課題別に分かれて話し合う



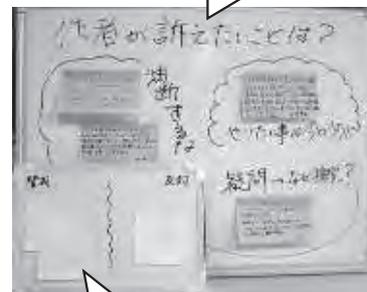
③もとの班にもどって報告

一人一役で伝え合う ジグソー学習法

- ① KJ法で話し合った内容から、課題を分担します。
- ② 同じ課題を担当した者同士が集まり話し合います。
- ③ 再び班に戻り、他の班の人の考えを報告し合います。

ポイント 3

付箋も字も大きくすると…
よく見える！
活かしやすい！



小さ過ぎて見えない!!



記録を生かして 思考を深める

ファシリテーションの記録をホワイトボードに残しておきます。なるべく「見やすい記録」を残すようにします。

記録をじっくり見ることを思考の整理に役立てます。

指定研究会情報

中越地区（長岡市・三島郡中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：ファシリテーションで読みを深める授業

「おくの細道（立石寺）」を題材として、ファシリテーションの手法を効果的に使うことで、生徒が互いに意見を交流させながら、楽しく主体的に学んでいく様子を公開します。

◇月 日：10月29日（木） ◇会場校：長岡市立太田中学校

◇公 開：3年 松尾芭蕉ってどんな人～「おくのほそ道」から～

授業者 丸岡 昭子

◇指導者：中越教育事務所 指導主事 吉井 純子

国語 〈新潟地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

学び合いの中で文章を 評価する「批評」の力 を育てる



新潟市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 新津第二中学校 五十嵐 淳
会場校担当(右) 東石山中学校 江口 淳子

文章の「よさ」を個で見つけ、その「よさ」を小集団で確認しながら、文章そのものの「価値」を見つけ出す「批評」の力を育てます。

長い間読み継がれる文学作品や古典作品を用いて、作者が練りに練った文章の価値を読み味わう中で、気づきや意見を批評の手がかりとします。文章そのもののよさ、文章の価値を見出し、批評するために、小グループの活動に重点を置き、意見交換を行いながら、自分の考えをより明確にしていきます。

グループ活動で話し合うメリット

- ① 自分の意見がより明確になります。
- ② 自分と他者との意見の違いが比較しやすくなります。
- ③ 複数の読みを自分の批評に反映できます。

手立て

個の意見を集団に生かす 話し合い活動

ポイント1

考える視点を明確にします。

ポイント2

考えたことを数多くあげ、自分の考えを説明し合います。

ポイント3

意見の相違が出たら、本文に何度も戻って確認します。

ここは気をつけよう！

教師は考えるヒントとして、読む視点を設定します。「情景描写」「表現技法」「作者の思い」など、ちょっとした視点を手掛かりとすることで、読み手の意識が変わります。古典作品の学習では、慣れない言葉に苦戦しますが、自分の「気づき」をたくさん書いてみることで、他の人と同じ読みや違う読み気づき、意見交換する中で深い読みにつなげていくことができるのです。

ポイント 1



考える視点を確認して、視点を意識しながら本文を読み込みます。何度も本文を読み、自分の意見を付箋に記入します。ホワイトボード、画用紙などを使うと、自分の意見が視覚化され、他の人に説明しやすくなります。

ポイント 2



付箋を使って、自分の考えをたくさん書きました。このとき、何が正しいということではなく、自分が気づいたことや、文章を読んで「いいな」と感じたことなどを、どんどん書いていきます。

ポイント 3



同じ意見をまとめながら、他者との違いを確認します。同じ意見をまとめることで、自分の「気づき」をより確かなものにします。また、意見が違う場合は本文にもどり、読み直し、交流することで互いの読みが深まります。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：学び合いの中で文章を評価する「批評」の力を育てる

読み継がれる文学作品や古典作品を読み味わい、文章そのものの「よさ」や「価値」を読みとります。その中で、作品の新しい魅力を知ったり、自分の考えを深めたりする力を育て、批評文作成にむけた授業を予定しています。

◇月 日：11月5日(木) ◇会場校：新潟市立東石山中学校

◇公 開：2年 走れメロス 授業者 牧野 淡紅恵
3年 おくのほそ道 授業者 石川 哲

◇指導者：新潟大学教育学部 教授 小久保 美子

国語 〈下越地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

「問い」を立て、仲間と交流し、 文学的な文章の評価に 深まりを！



新発田市中教研 国語部

研究推進責任者(左) 七葉中学校 渡辺 みつ枝
会場校担当(右) 猿橋中学校 小林 伸子

文学的な文章を読む際、自ら「問い」を立て仲間と交流することで、生徒は自分と異なる読みに触れ、共通性や相違点について考えを深めていきます。そして、「自分の読み」を検討することで評価する力が身に付き、自立した読み手へと育つのです。

「国語は苦手」「特に文学的な文章は一方的な説明が多くてつまらない」という生徒は、案外多いかもしれません。

そこで、読み手主体の学習過程を組み、交流を手立てに、「文学的な文章はおもしろい」と感じることで授業を構想します。

「どのように学ぶか」を重視した「学び合う授業」で、汎用性のある文学的な文章の読み方を身に付け、豊かな読書生活へ誘います。

手立て

各自の「読み」を深めるために、交流を充実させます。

ポイント1

協働を促す学習形態を工夫します。

ポイント2

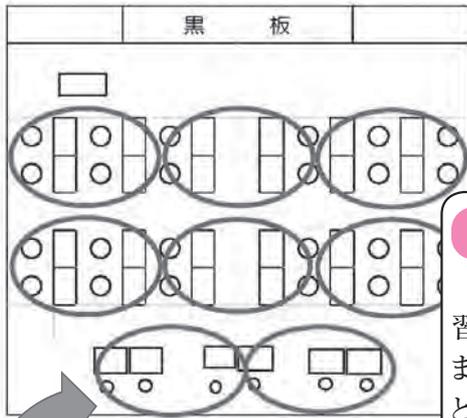
生徒の思考を可視化できるように工夫します。

ポイント3

交流の質を向上させるために、振り返りと教師の評価を工夫します。

ここは気をつけよう！

- ★ 交流のものさしとなる、共通に使用する「基本的な学習用語」の確認
- ★ 単元のゴールを明確にした学習過程
- ★ 3年間を見通した系統的な指導



ポイント 1

学習活動や内容に応じて学習形態を工夫し、協働を促します。当日は、「メロス」と「勇者」という呼称について、根拠を基に話し合います。



ポイント 2

ホワイトボードや模造紙を使い、思考を可視化します。何を根拠にしているのか、自分や仲間の思考が分かるように工夫します。



日常の机配置をコの字型にして、互いに聴き合う関係を高めます。

ポイント 3

振り返りでは、課題だけでなく、話し合いそのものがどうであったか、についても記述します。こうすることで、話し合いの質が高まり、学習が深まります。



指定研究会情報

下越地区（新発田市中教研）国語教育研究発表会

◇研究主題：「確かな読みの力を身に付ける生徒の育成」

※「確かな読みの力を身に付ける」とは、自分の考えをもち、根拠を基に自分の言葉で表現できること、と考えています。

単元を貫く言語活動として、作品の批評文を書きます。そのために、呼称の変化に着目して意見交流を行い、「各自の読み」を深めます。

◇月 日：11月13日（金） ◇会場校：新発田市立猿橋中学校

◇公 開：2年 走れメロス 授業者 島津 一美

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 三村 孝志

数学〈新潟地区〉

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

発想を可視化できる アイテムを使って 活用力アップ！



燕市・西蒲原郡中教研 数学部

研究推進責任者(左) 燕市立分水中学校 川瀬 晃

会場校担当(右) 燕市立燕中学校 教場 美由紀

発想を可視化できるアイテムを使うと、既習事項との関連が明確になり、見通しをもって課題解決をすることができます。

図形の角度を求める問題に対して生徒は式だけ解こうとしたり、見通しをもたずに作業を進めたりする場合があります。

発想を可視化できるアイテムを使うことで、次の3つの利点が生まれます。

- ① 思考を焦点化できる。
- ② 自分と他者の同異を比較しやすい。
- ③ 複数の人数での修正や追加が容易。

手立て

発想を可視化できるアイテム を使って課題解決をする

ポイント1

ヒントカードを使い、既習事項の確認をしておく。

ポイント2

思考のもととなる「キーワード」や根拠を課題にどのように当てはめるかを考えさせる。

ポイント3

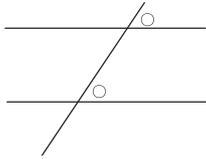
集約（分類・一般化）した考えを使って類題演習をする。

ここは気をつけよう！

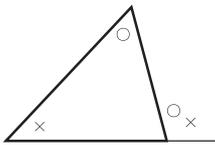
類題演習する際に自力解決ができるように、課題解決のアプローチがヒントカードのどれにつながっているのかをはっきりさせておくとよいです。

ポイント 1

ヒント①平行線の錯角は等しい



ヒント②三角形の外角はとなり合わない2つの内角に等しい



定理などをヒントカードとして用意しておきます。必要なときにすぐに確認することができます。

ポイント 2

○図形観察の3つの見方

「分ける」「たす」「動かす」

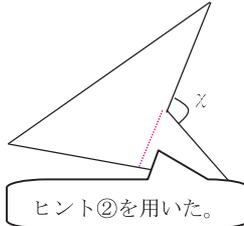


関連づけを可視化

○根拠に用いるヒント（定理）

【課題】プーメラン型四角形

補助線で「分ける」



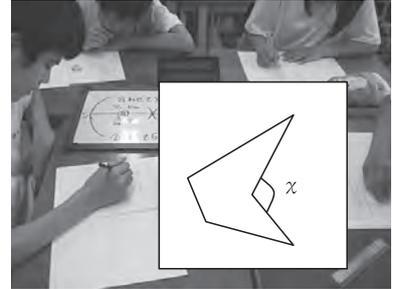
【概念の獲得】

図形を「分ける」「たす」「動かす」考えは補助線を引くといい、これは既習の定理を活用するための基本的な考え方である。

補助線を引いて課題を解決するときの「キーワード」です。「分ける」ことでヒントカードのどれとつながるのかが明確になります。

ポイント 3

このような五角形でもできるかな？



いろいろな問題を解くことで分類・一般化が正しかったことを確認します。また、問題の類似性も確認します。

Q & A

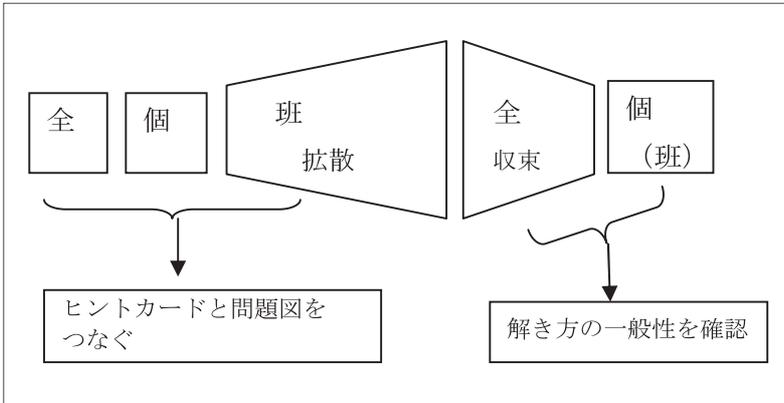
Q ヒントカードをどのように課題解決につなげますか。

A 色ペンの役割を決め、ヒントカードから得られた部分を明示します。それによって、問題図において既習の図形の性質をあてはめることができます。さらに自分の考えをつなげることで、課題の解決に到達することができると思われます。

この「手立て」を使った授業は、こんな感じで進めています



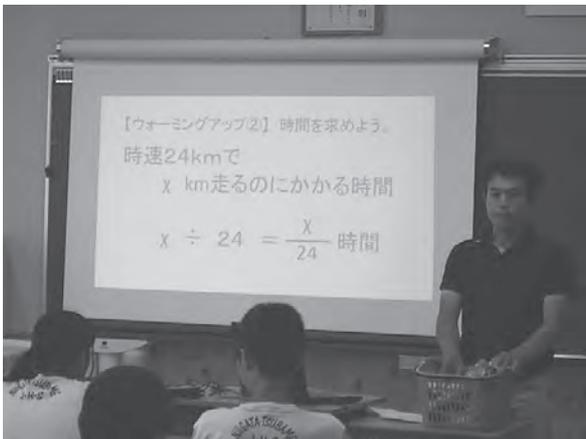
授業全体の流れは…



この単元では左図の流れを基本としています。

「全」は学級全体での説明や討論の場面、「個」は個人で考えたり問題演習に取り組んだりする場面、「班」は数人のグループでの交流・検討の場面です。

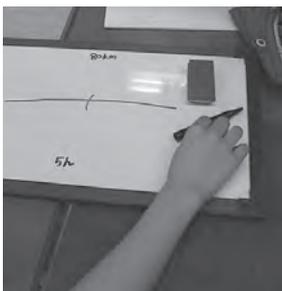
課題把握と個別の取組



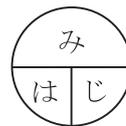
映像やカードで課題の把握をします。課題把握のポイントは、

- ・ 既習事項の確認（何が分かっているのか）
- ・ 問題の系統性（どこに関連しているのか）
- ・ 解決の見通し（何が分からないのか
何が手がかりになるのか）

などです。

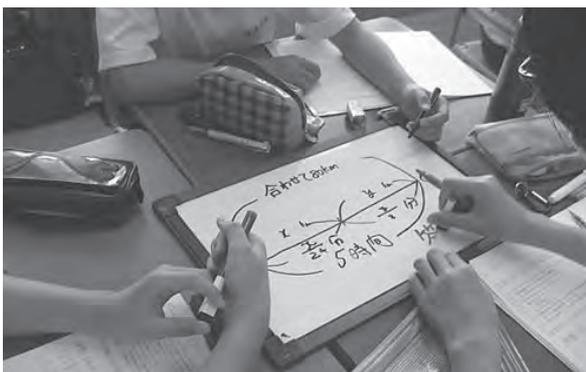


生徒は、まず個人で問題に取り組みます。の図や線分図がヒント、手がかりになっています。



自分の考えを持って班の活動に参加することを大切にしています。

班で意見を交流1



班員の発想をホワイトボードに図示します。そうすることで、班内での意見交流の場を作り出し、問題とヒントカードのつながりから、問題解決への手がかりを得ます。

班で意見を交流2



状況に応じて、班を超えた情報収集も行います。
他の班に触発されて停滞している状況を打開できます。

機械的に式だけ作っているような生徒も、ここで式の意味を振り返り、理解につなげることができます。

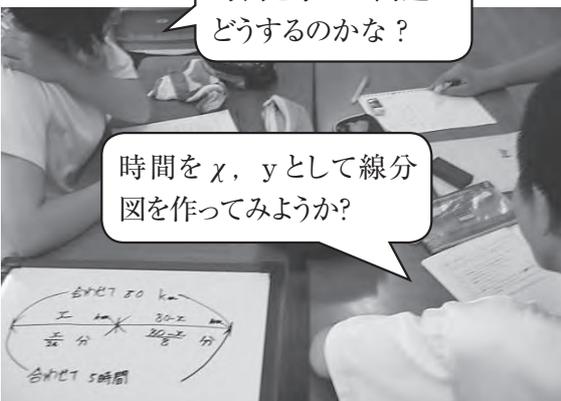
学級全体で発表



各班の考え方を集約して、考え方の分類、一般化を行います。

効率と効果を考えて、発表の形態を工夫します。

類題演習



時間を求める問題は
どうするのかな？

時間を x , y として線分
図を作ってみようか？

集約（分類・一般化）した考え方を使って類題演習を行います。

いろいろな問題を解けることで、分類・一般化が正しかったことを確認します。また、問題の類似性も確認します。

指定研究会情報

新潟地区（燕市・西蒲原郡中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：発想の可視化による、数学的活動の深まり

「図形の性質の調べ方」の角度を求める学習で、ブーメラン形の図形の角を求める学習活動を行います。発想を可視化することで、話し合いの焦点を定め、学習活動の深まりを実感させます。

◇月 日：10月27日（火） ◇会場校：燕市立燕中学校

◇公 開：2年 図形の性質の調べ方 授業者 高橋 将也

◇指導者：長岡市立中之島中学校 校長 熊谷 正美

燕市教育委員会 指導主事 尾崎 誠

数学 <上越地区>

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

「オリジナルじゃんけん」 ゲームで、確率のよさを 味わおう !!



上越市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 上越市立大潟町中学校 風巻 利夫
会場校担当(右) 上越市立三和中学校 櫻井 直人

変則的なじゃんけんゲームの勝率を求めます。樹形図を用いて求めた勝率を、学び合いにより他者と比較したり、実際に試して得た自分の勝率の優劣を判断したりすることにより、数学的な思考力や表現力を伸ばしていきます。

「学び合い」に意欲をもって取り組むことができ、個人の思考を「交流」「検討」までもっていきやすい課題です。

達成感を存分に味わうことができます。

確率における「樹形図」は、課題解決のための有効な手段です。その原則は、「すべての場合を網羅する」ことにあります。学び合いにより、「本当にこれでよいのか」という批判的思考力を駆使し、変形樹形図を全員で完成させていくことによって、数学的な活動のよさを、味わいます。

手立て

自分のじゃんけん勝率の優劣を検討する。

ポイント1 課題の工夫

簡単そうに見えて、実はふつうのじゃんけんではない。

ポイント2 樹形図の作成

学び合いにより、起こり得る場合に気づき、すべての場合をイメージする。

ポイント3 樹形図の完成

「本当にこれでよいのか？」という視点で、グループで検討！

ここは気をつけよう！

この課題における樹形図は、やや複雑な考えが必要になります。そのため、論理的な思考ができず、混乱してしまう生徒がでることも予想されます。授業者は、支援の方向性として、「本当にこれでよいのか」という批判的な視点で解決に臨むよう促し、理解できている生徒には、その問いに全員が納得できるよう丁寧に答えることを心掛けるよう促していきます。

ポイント 1 課題の工夫

じゃんけんゲーム

Aさん Bさん



これら3枚セットのカードを持ち、2人1組でカードを出し合います。



【例1】Aさん Bさん

1回目



この場合は、Aさんの勝ちです。

【例2】Aさん Bさん

1回目



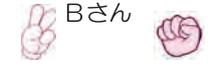
この場合は、あいこです。勝負がつくまで続けます。1度使ったカードは、使えません。

Aさん Bさん

2回目



Aさん Bさん

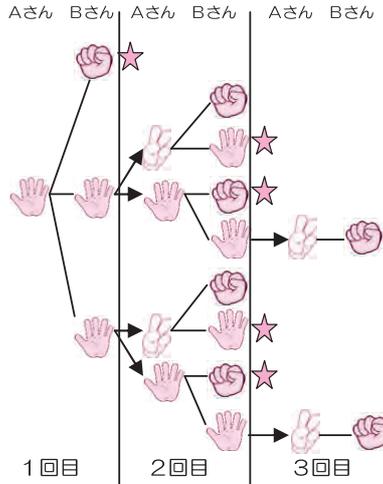


3回目で決着。Bさんの勝ちです。

(右上の図は、Aさんの起こり得る場合の樹形図の一部です。例2は、その図の一番下の場合に当たります。)

ポイント 2 樹形図の作成

今回の樹形図(一部) (Aさんの勝ち★)



前時に のカードと のカードそれぞれで34ゲーム(学級全員の総当たり戦)を行い、実際の勝率を求めます。
(Aさんの勝率 4/7、Bさん 3/7)
本時では、自分の勝率の優劣を考えます。その基準を求めるためには、理論上の勝率が必要になることに気付かせます。そして、そのためには樹形図をかく必要があります。しかし、本時の場合は、一般的なピラミッド型ではなく、図のような変形樹形図になります。この変形樹形図を、学び合いにより、導き出します。

ポイント 3 樹形図の完成



この樹形図を完成させるための手立てとして、「ワールドカフェ」の手法を行います。最初は自分たちの班で、後半は他の班の様々な考えを吸収して、自分たちの班の樹形図の完成を目指します。その交流の中で、次の「気づき」に期待します。

- 1 が複数枚あるため、区別が必要
- 2 樹形図は、ピラミッド型にならない
- 3 1つの樹形図を完成させれば、 のときも のときも、利用できる。

指定研究会情報

上越地区(上越市中教研)数学教育研究発表会

◇研究主題：学ぶ意欲を高め、数学的な思考力や表現力を伸ばす指導
～学び合う授業を通して～

身近な題材である「じゃんけん」について考えます。実際に勝負した確率と、理論上の確率を比較するため、ファシリテーションを行い、生徒自らの手で、基準を導き出すことによって、数学的な活動を通しての思考力や表現力を高めます。

- ◇月 日：11月11日(水) ◇会場校：上越市立三和中学校
◇公開：2年 確率 授業者 櫻井 直人
◇指導者：上越市立板倉中学校 校長 渡辺 隆

数学〈中越地区〉

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

“ジグソー法”で 主体的に取り組み、 活用力を深化!!



南魚沼郡市中教研 数学部

研究推進責任者(左) 南魚沼市立五十沢中学校 遠藤 寛子
会場校担当(右) 湯沢町立湯沢中学校 蓮沼 純

1つの課題に様々な解法で迫るとき、全員に1人1役を割り振ることで、多くの考えを引き出し、型にとらわれない活用力のUPを図ります。

活用問題などで多様な解法を出させるとき「他者の意見を写す」「1つの解法」だけで満足し、そこで思考が止まってしまうことがあります。

そこで“ジグソー法”を用いて全員がその問題に対する多様な解法にかかわり、自分の考えを持つことで、次のメリットがあります。

- ① 全員が問題を理解しようとする。
(責任があるため、がんばろうとします。)
- ② それぞれの活動を通して考えが深まる。
- ③ 様々な解法を比較しながら、自分なりに納得できる。

手立て

ジグソー法で、多様な解法に触れ、活用する。

ポイント1

エキスパート活動はホワイトボードで確実に。

ポイント2

ジグソー活動は各々の「伝えたいこと」を中心に活発化。

ポイント3

クロストークは教師のファシリテーション力で考えを引き出す。

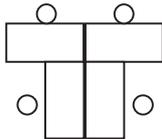
ここは気をつけよう!

ジグソー法を用いるときの最大の注意点は課題とゴールの設定です。課題に対して、最初の答えが、最後にはこのように深まってほしいという、具体的なイメージをもつことが大切です。また普段から、様々な授業で生徒のファシリテーション力を鍛えておくと、スムーズに班活動が進むでしょう。

ポイント 1

T字型班

黒板も見やすく
話もしやすい。



ホワイトボードで考え方の共有
まとめてからノートに写せる。



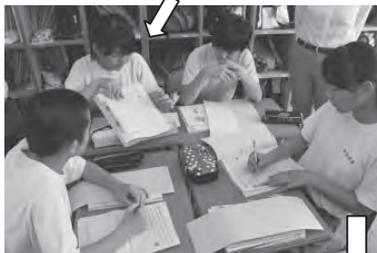
掲示もOK!

ジグソー班に戻って説明する
という責任感を持たせると
意欲UP! をねらえます。

ホワイトボードで書いたり
消したり試行錯誤して解法を
得ることで、理解も深まります。

ポイント 2

見せつつ解法説明中



計算をするから
間違いか少ない

何回も計算するから間違

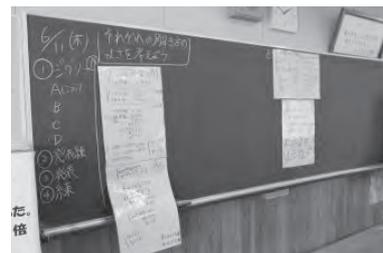
解法によさをまとめ中



各班で異なる視点を出しな
がら答えを作り上げたり見直
したり違う表現を試したりし
ます。

掲示用の短冊に各解法によ
さを書くことで、意見をまと
め発表しやすくなります。

ポイント 3



各解法を貼った黒板

意見の視覚化



各班の意見を貼りながら説明

教師がファシリテーターと
して、生徒の考えを引き出す
ことが重要です。

キーワードや発言の差異に
注目させながら、より納得の
いく表現を個々で追及できる
ようにします。

指定研究会情報

中越地区（南魚沼郡市中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：意欲的に学びを深めようとする生徒の育成
～効果的なかわりを図る授業構成の工夫～

「図形の性質の調べ方」の角度を求める授業で、星形五角形の5つの角の和を求める問題を、ジグソー法のエッセンスを活かして行います。多様な考え方についてエキスパート班で発表し合う活動を基に、様々な解法の活用力を高める授業を予定しています。

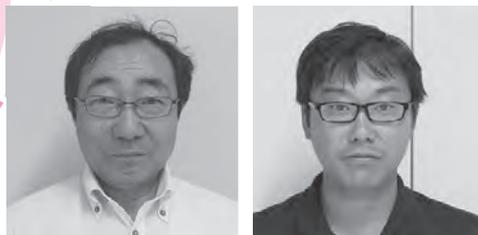
- ◇月 日：11月13日（金）
- ◇会場校：湯沢町立湯沢中学校
- ◇公開：2年 図形の性質の調べ方 授業者 金澤 健太郎
- ◇指導者：中越教育事務所 指導主事 水寫 繁満

数学 <下越地区>

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

ハイジのブランコの長さを求めるために、表・式・グラフを活用しよう!!



阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研 数学部

研究推進責任者(左) 胎内市立築地中学校 貝沼 耕司

会場校担当(右) 聖籠町立聖籠中学校 田邊 和史

班活動で学び合うことで、思考力を高め、説明タイムを通して、表現力を高めます。

関数の学習において、表・式・グラフを相互に関連付けて考えることが苦手な生徒が多いです。

ハイジのブランコの長さを求める学習を通し、それぞれの考えを伝え合うことで、表・式・グラフが相互に関連していることを実感することができます。

- ① 興味をもって、ブランコの長さを求めようという気持ちになります。
- ② 自分の考えを説明するために、思考を深めることができます。
- ③ 他の考えのよさや違いを比較・検討し、どの考えでも答えにたどり着けることを知り、相互の関係を実感することができます。

手立て

手立ての内容

ポイント1

興味をもてそうな映像課題（ハイジのブランコ）を用意します。

ポイント2

説明タイムでは、自分の解法を、ペアで伝え合います。

ポイント3

互いの考えのよさ・違いを比較・検討します。（表・式・グラフの活用の仕方）

ここは気をつけよう！

多様な考え方ができる課題がよいです。解きたいと思う必要感のある課題で、それぞれ多方向から求め、それを互いに説明し合うことで、他の考えのよさや、関連性に気付くことができます。心を引きつける映像課題を教科部で共有できるといいですね。

ポイント 1

前時に、振り子の実験をします。振り子の時間（周期）と長さには、下のような関係があります。時間（周期）は、重さに関係していると思う生徒が多いと思いますが、長さとの関係があることを事前に学習します。



時間(秒)	0	1	1.4	1.7	2	2.2	2.4	2.6	2.8	3
長さ(cm)	0	25	50	75	100	125	150	175	200	225

ハイジの映像を見ると楽しい気持ちになります。自然とブランコの時間(周期)を測り、長さを求められそうだと生徒たちは考えます



ポイント 2

班活動

ペア活動



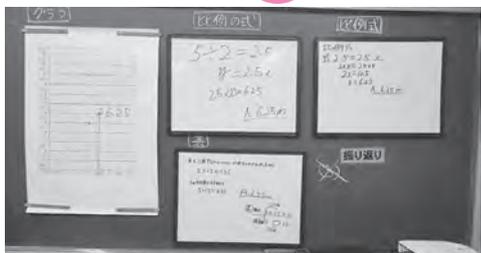
解法を導く場面



自分たちの考えを説明し合う場面(説明タイム)

班で困ったところをアドバイスし合いながら、それぞれハイジのブランコの長さを求めていきます。説明タイムで相手に説明するために思考をより深めることができます。

ポイント 3



全体でホワイトボードを用いて、確認したあと、互いの考えのよさや違いを比較・検討します。どの考えでも答えにたどり着けることを知ったり、表・式・グラフが相互に関連していることを実感したりすることができます。

指定研究会情報

下越地区（阿賀野市・胎内市・北蒲原郡中教研）数学教育研究発表会

◇研究主題：思考力・表現力を高める授業の工夫

～効果的な学び合い活動を図る授業構成の工夫～

説明する活動や、比較・検討する活動を通し、思考力・表現力を養うことを目標としています。映像課題発掘、説明タイムなど見どころ満載です。

◇月 日：10月14日(水) ◇会場校：聖籠町立聖籠中学校

◇公 開：3年 関数 $y=ax^2$ の活用 授業者 森田 真人

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 野澤 一吉

技術・家庭 〈新潟地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

場面設定と交流で 工夫に気づかせ 実践力につなげる！



新潟市中教研 技術・家庭部（技術分野）

研究推進責任者（左） 新潟市立木戸中学校 関野 幹裕

研究推進責任者（右） 新潟市立上山中学校 伊藤 裕子

課題の場面設定で生活とつなげて捉えさせ、また、意見交流することで多様な工夫・情報と比較できます。それらにより、最適な工夫を見いだして実践につなげるようになります。

技術・家庭では、実際の生活や作品をより良くしていく力を身に付け、実践・活用していくことをめざしています。

具体性をもたせた場面設定と交流活動を行うことで、実際の生活や作品につながる、以下のことが期待できます。

【技術】 多様な工夫に気づき、「最適な工夫」を見いだすことができる。

【家庭】 学習内容を実生活の体験に即して考え、家庭実践につなげていくことができる。

手立て

ポイント1

具体性をもたせた場面設定をします。

ポイント2

視覚教材で思考の具体化を促します。

ポイント3

交流で多様な情報と比較しながら個々の実践につなげます。

ここは気をつけよう！

場面設定が生徒の生活実態とかけ離れていると、学習内容の実践につながりにくくなります。生徒アンケートなどによる生活実態の事前把握が有効です。

工夫は、観点と条件をある程度、統一させないと意見の方向性が人によって変わり、意見交流がスムーズにいかない状況に陥りやすくなります。

ポイント 1

【技術】



解決すべき課題としての使用条件を統一します。

机の大きさや散らかっている物品が分かるよう、写真で提示します。

【家庭】

自分で夕食準備。
家族がいない。



- 食材は何かがあるかな…
- 足りていないものは…
 - ・今朝の食事
 - ・今日の給食
- 他に考えることは…

生徒の実態をふまえた場面設定を行います。今の自分を振り返りながら、既習内容をどこで、どのように使えばよいか考えやすくなります。

ポイント 2

【技術】



言葉だけでなく、工業言語である等角図法、キャビネット図法などを適切に用いて思考を可視化します。

【家庭】



視覚教材の一例として、食材をカラーコピーし、ラミネートします。実物により近いものになり、実生活に即して考えやすくなります。

ポイント 3

【技術】



観点ごとに、意見交流で深めた工夫を発表し、共有します。これらの工夫が各自の作品に活用されます。

【家庭】



まとめの文章化では、場面設定に合わせ、書き方を工夫させます。「今までは○○だったので、△△にする。」などのように自分の振り返りを入れます。

Q & A

Q 生徒ごとに各家庭での生活が多様なので、場面設定しづらいのでは？

A この授業のねらいは、学習した内容を自分の作品や家庭での実践において、どこで、どのように活用するかを考え、工夫することです。まず、具体的に状況をとらえることができる場面を設定し、交流で複数の工夫を比較したり、考えを深めさせた後で、そこから自分の生活に落とししていくといいと思います。

この「手立て」を使った授業は、こんな感じで進めています



【技術】

授業全体の流れは…

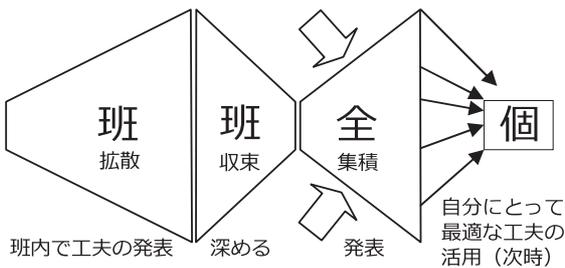
<前時>



工夫の観点、課題の条件の確認 個で製図

工夫の観点や課題の条件を確認し、個人で製図を行います。そこから「取り出しやすい」「丁度いい大きさ」など、観点ごとに分けた班で工夫の発表を行います。その班内で観点到に沿ったより良い工夫を考え、全体で発表します。様々な観点からの工夫が発表により共有・集積され、個々の作品設計において各自が最適な工夫を活用します。

<本時～次時>



班内で工夫の発表 深める

発表

自分にとって最適な工夫の活用 (次時)

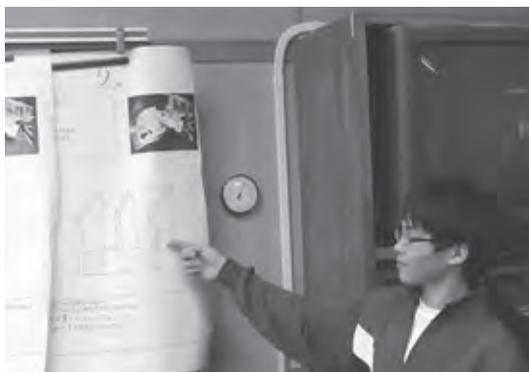
具体的な場面設定と条件



工夫の観点を確認し、課題の条件となる場面設定は身近な文房具等を整頓するモノの設計とします。共通の条件で設計することで工夫の比較を行いやすくなります。

設計で重視した工夫の観点ごとに4人程度の班を設定し、班内で発表を行います。その後、より良い工夫を班内で考えます。

様々な観点からの工夫発表



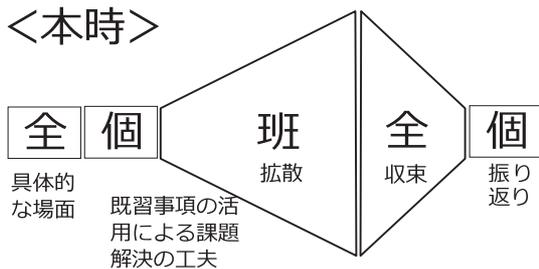
班ごとに考えた工夫を学級全体に発表します。様々な観点からの多様な工夫を、長所・短所を比較しながら知ることができます。教師が「いいね！」マークをアイキャッチとしてつけ、目をつけやすくします。

これらの工夫は、個人作品の設計の際、個々の使用条件に最適な工夫を見出し、活用することにつながります。

【家庭】

授業全体の流れは…

〈本時〉



生徒それぞれが考えたことを、班で検討し合います。その時に自分では気が付かなかった事柄などをお互いに教え合いながら工夫に生かします。全体で発表し、みんなで共有しながら、どこをどのように実践できるか考えます。

具体的な場面設定と可視化

冷蔵庫の中
・野菜類
・肉類

夕食準備
家族不在



具体性をもたせた場面設定で実生活に即して考えやすくし、視覚教材で思考の具体化を促します。今の自分を振り返りながら、既習内容をどこで、どのように使えばよいか考えやすくなります。

個の工夫・既習内容の活用



既習内容を、どの場面でどのように使えばよいか、出し合っていきます。この後、自分の生活を振り返り、「今までは〇〇だったので、△△にする。」などの形式で家庭実践につながるよう、まとめを行います。これが実生活をより良い方向に変えようとする力、つまり「生きる力」につながります。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）技術・家庭教育研究発表会

◇研究主題：生活に関わる技術を適切に評価する力を育む指導方法の工夫

技術分野では主に工夫の交流から最適な工夫を見出させることをねらいます。家庭分野では、場面設定から家庭での実践力を身に付けさせることをねらいます。県中教研HPで、手立ての詳細や指導案等が閲覧できます。

◇月 日：11月5日(木) ◇会場校：新潟市立寄居中学校

◇公 開：2学級 技術 授業者 坂中 大勉
家庭 授業者 金谷 佐保

◇指導者：新潟市立濁川中学校 校長 小川 裕一
新潟市立中野小屋中学校 校長 佐藤 靖子

技術・家庭 <上越地区>

<授業改革 “学び合う授業” >
この“手立て”で21世紀型能力を育てる

生活の中の事象を可視化し、 実感を伴った理解に つなげる



上越市中教研 技術・家庭部

研究推進責任者(技術分野)

上越市立頸城中学校 大森 己智子

研究推進責任者(家庭分野)

上越市立柿崎中学校 日野 奈央

会場校担当

上越市立城北中学校 宮川 高広

日常生活の中で見えにくいものを可視化して、仲間と交流することで
気づきが広がります。

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動が
中心である技術・家庭。

実験・実習を通して日常生活では見えにくいもの
を見えるように、そして、誰にでも分かるよう
に数値や反応の違いで可視化します。

経験を通して実感したことをもっと広く！ もっ
と深く！ するために、自分の考えや思いを表現し、
仲間と交流します。

【メリット】

- ① 可視化で実感して、自分の考えが明確になる。
- ② 仲間の考えを知ることによって自分の気づきを確かめたり、考えを広げたりする。

手立て

生活の中の事象を可視化する

ポイント1

実験・実習による可視化

ポイント2

気づき



話し合い（広げる・深める）



実感を伴った理解

ここは気をつけよう！

実験・実習を通して、生徒が多様な意見を出せるような課題の設定が大切です。

また、互いの意見を出し合う場面では、それぞれの考えを生かしながら、伝えたいこと、仲間と考えたいことを整理し、生徒の視点を広げることで、実生活の具体的な事象や場面につないでいきます。

技術分野



ポイント 1

ブリッジコンテストを通して、薄い紙も折り方を工夫することで強くなることを実感します。



ポイント 2

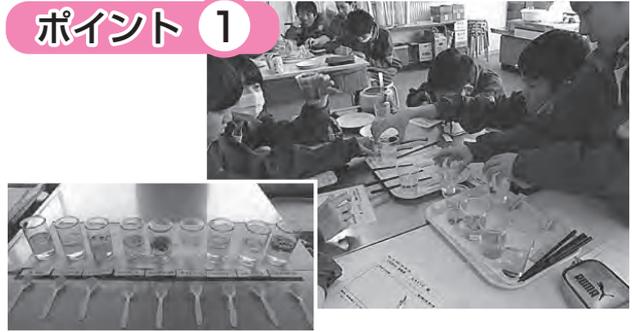
自分で考えた折り方が、実生活の中にもあることを話し合います。



技術が私たちの生活にどのように役立っているかを考える授業です。工夫することの大切さ、技術が私たちの生活を豊かにしていること、技術の進展が資源やエネルギーの有効利用に貢献していることを理解します。

家庭分野

ポイント 1



普段見ることのできない食品中の栄養素を可視化します。比較することで食品による違いをさらに実感します。

ポイント 2

実験から発見したことをグループで確認し、食生活に活かせることについて意見交換します。



よりよい食生活の実現に向けて実践する姿勢を育てる授業です。身近な題材から自分の食生活を振り返り、改善するために必要なことは何か、自立した生活者としての視点で考えを深めていきます。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）技術・家庭教育研究発表会

◇研究主題：自己の考えをもち、他者とともに考えを発展させていく活動の工夫

材料と加工に関する技術では、ブリッジコンテストで生み出した様々な折り方の形から、実生活の具体的な事象につないでいきます。食生活と自立では、栄養素の可視化実験を行い、食について考えを広げ、自らの今後の食生活へ深めていきます。

◇月 日：11月11日（水） ◇会場校：上越市立城北中学校

◇公 開：2学級 1年 材料と加工に関する技術 授業者 松井 明
2年 食生活と自立 授業者 齊藤 直美

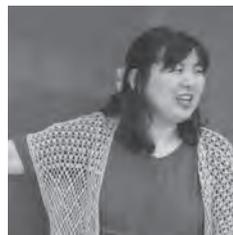
◇指導者：上越教育大学 准教授 東原 貴志
准教授 佐藤 ゆかり

技術・家庭 <中越地区>

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

シミュレーションで、互いに
交流，検討することで，
よりよい生活を創り出す
力が身に付きます！



長岡市三島郡中教研 技術・家庭部

研究推進責任者(上) 長岡市立東北中学校 小林 和之

会場校担当(左) 長岡市立越路中学校 竹田 広志

会場校担当(右) 長岡市立越路中学校 廣瀬 有美

課題解決に向け，生徒同士が交流，検討する場を取り入れることによって，よりよい生活を創り出す力が身に付きます。

よりよい生活を創り出すには，論理的・批判的思考能力，問題解決能力，コミュニケーション能力，情報相互の関係性を理解・解釈し，既存の知識と結び付ける力など，知識や技能を活用する力が重要なカギとなります。交流，検討の場を設定することで次の3つのことが有効となります。

- ① 自分の考えを他者に分かるように説明できるようになります。
- ② 自他の考えの共通点や相違点を比較，検討できるようになります。
- ③ 自分の見方・考え方をより多面的に捉えられるようになります。

手立て

シミュレーションの場を設定します

ポイント1

グルーピングを工夫します。

ポイント2

アドバイスカード，グループプランシートを用います。

ポイント3

キーワードを元に自分の意見をまとめさせます。

ここは気をつけよう！

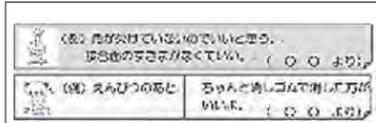
- ・グループ編成では，課題作品や思考などの交流するものに相違が必要です。
- ・シミュレーションのテーマには，生徒が興味・関心を持ちより学習を深められるものにします。
- ・各グループには，ファシリテーター（リーダー）を意図的に配置する必要があります。
- ・話し合いの過程が明確になるように，ファシリテーショングラフィックを工夫する必要があります。

ポイント 1

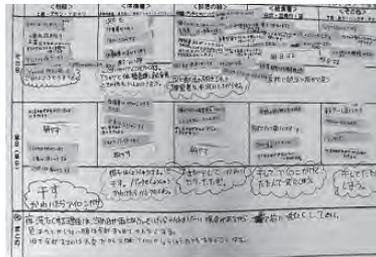


- 【技】 試作品であるペンスタンドの、自分でうまくできた箇所を説明します。
- 【家】 生徒の生活に身近な日常着の手入れの仕方についてシミュレーションを行います。

ポイント 2

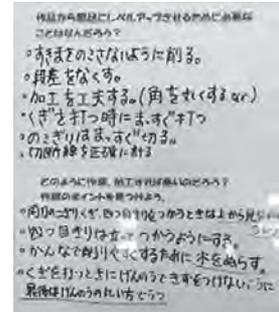


作品や作業の良かった点、改善点を記録するアドバイスカード



- 【技】 仲間から寄せられた相互評価を自分の考えと比較します。
- 【家】 各自が考えた手入れの仕方をグループで交流、検討し、グループプランシートを完成させます。

ポイント 3



- 【技】 振り返りを行い、各自が自分の今後の製作課題についてまとめます。
- 【家】 話し合い活動や、キーワードを元に自分の意見や今後の課題をまとめます。

指定研究会情報

中越地区（長岡市・三島郡中教研）技・家庭教育研究発表会

- ◇研究主題：よりよい生活を創り出す児童・生徒の育成
～「学び合い」を取り入れた問題解決的な学習～

生徒に身近なテーマを設定し、シミュレーションの場面を意図的に設定すれば、よりよい生活を創り出せます。是非、生徒の“学び合い”を御覧ください。

- ◇月 日：11月19日(木) ◇会場校：長岡市立越路中学校
- ◇公 開：2学級 1年 技術 授業者 竹田 広志
1年 家庭 授業者 廣瀬 有美
- ◇指導者：技術 胎内市立築地小学校 教頭 小畑 活
家庭 上越教育大学 准教授 佐藤 ゆかり

技術・家庭 〈下越地区〉

＜授業改革 “学び合う授業”＞
この“手立て”で21世紀型能力を育てる

社会のニーズに対応した ものづくりで 思考力アップ！



五泉市・東蒲原郡中教研 技術・家庭部
研究推進責任者(左) 五泉市立五泉北中学校 上野 一志
会場校担当(右) 五泉市立五泉中学校 遠藤 まり

「技術を適切に評価し活用する能力と態度」を育成するために、製作方法についてファシリテーションを行い結論を出すことで、思考力がアップします！

技術の作品作りでは、自分の生活に必要なものをつくることが多いです。この場合、各家庭の状況を他者は把握しにくいいため、製作について他者がアドバイスをすることが困難です。作品に対する思い入れも強いため、個々の判断のみで製作を進めることとなります。

また、製作方法等を選択する際も「私が使うから、私が納得すれば良い。」という考えになりがちです。販売者の立場で、製作を進めることで以下のようなメリットがあります。

メリット

- ① 客観的評価がしやすくなります。
- ② 意思決定の際の根拠が明確になります。
- ③ 社会と関わりながら、製作を進められます。

手立て

販売者の立場で、グループ(会社)を作り、グループごとに製作に関する意思決定を行います。

ポイント1

明確な条件(消費者)を設定します。

ポイント2

消費者のニーズから意思決定の際の根拠を探します。

ポイント3

体験に基づく“サンプル”を視覚的な手がかりとします。

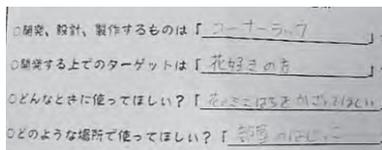
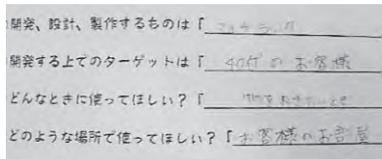
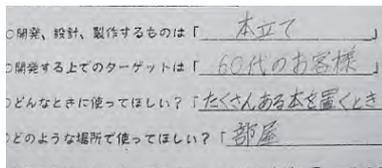
手立てに関する留意点

消費者の設定は個々に行い、消費者設定が同じ生徒同士でグループ(会社)を教師が作ります。グループでの意思決定も、1つに限定せず、どうしても絞れない場合は2～3の結論も許可し、個の意思も大切にしながら進めていきます。また、家庭分野の「身近な消費生活と環境」と連携することで、より根拠が明確となります。

ポイント 1

条件設定

使用者，使用場面を自ら設定する。



消費者の年齢や性別を自分で設定します。その際，使用場面等を具体的にイメージさせます。ここでイメージして決めた内容が，製作の条件となっていきます。

ポイント 2

根 拠

年代別 好きな色

10代	青，赤，紫
20代	青，紫，緑
30代	緑，青，紫
40代	青，紫，茶
50代以降	緑，青，茶

売れている家具

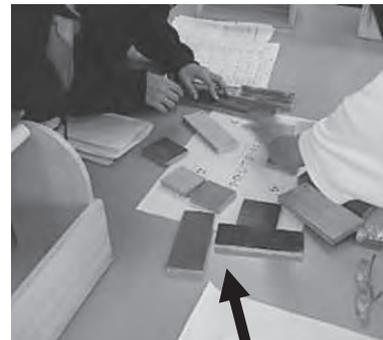
- ・収納家具が多い。
- ・木目を生かしているものが多い。
- ・シンプルな形状が多い。
- ・耐久性のあるもの。
- ・環境に配慮したもの。
- ・安価なもの。

根拠は，インターネット等で探します。色や大きさ，使用に関する特徴まで，消費者のニーズに関する情報を集めます。

また，文化祭展示でアンケートを行い，保護者・地域の方から評価してもらいます。

ポイント 3

体験に基づく手がかかり



試験片



事前に製作体験した試験片を用いて，完成品についての確かなイメージをもちながら，条件選択の検討ができるようにします。

指定研究会情報

下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研） 技術・家庭教育研究発表会

◇研究主題：技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てる指導の工夫

木工作品の仕上げ方法について，取東型ファシリテーションを活用し，複数の目で技術进行评估することによって，技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てます。製作場面ではなく検討場面を公開します。技術での話し合いモデルを提案します。

◇月 日：10月14日（水） ◇会場校：五泉市立五泉中学校

◇公 開：1学級 1年 技術 授業者 佐藤 康

◇指導者：上越教育大学 准教授 東原 貴志

県立教育センター 指導主事 本間 康夫

道徳 〈上越地区〉

＜授業改革 “学び合う授業”＞

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

“対話”で様々な価値に触れ、
多面的・多角的視点から
自分を振り返ろう！



妙高市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 妙高市立新井中学校 笠原 里美
会場校担当(右) 妙高市立妙高中学校 栗岩 知美

“対話”を重視した道徳の授業を行うことで、多様な感じ方や考え方に触れることができ、自己を見つめ、考えを深めることができます。

生徒は「きまりを守ることは大切だ」という道徳的価値は分かっています。(価値理解)しかし、「大切ではあるが実現は難しいことだ」と人間的な弱さやもろさを併せもっています。(人間理解)「なぜきまりはあるのだろう」「自分は違う価値観の方を優先させてしまう」と根拠を明らかにした対話を通して、価値の実現に向けて自分と異なる多様な感じ方や考え方があること知ることができます。(他者理解)自分との関わりから道徳的価値を理解することで自己理解が深まります。内省の時間を通して、現在の自分自身を知り、振り返ることで自らの成長につなげることができます。

- ① 「自分の考え」を明確にします。
- ② 自分と他者の価値観を比較します。
- ③ 自らの成長を実感できます。

手立て

“対話”を重視し、お互いの価値の交流を行う。

ポイント1

個の学習の時間を確保し、自分の考えとじっくりと向き合います。⇒発問の工夫

ポイント2

自分の考えの根拠(理由)を明確にし、対話(1対1, 小グループ)を行います。

ポイント3

新たな考えが生まれたり、自分の考えを深めたりできます。⇒内省の時間

ここは気をつけよう！

話し合いを充実させるには、まずはじっくりと自分の考えと向き合う時間が必要です。また、中学生になると道徳的価値は大切であることは頭では分かっていますが実現できない弱さやもろさをもっています。型にはまった考えではなく、なぜ、どうしてそう考えたのか根拠を明確にすることが大切です。そのためには、本音を引き出すための発問や生徒のつぶやきを拾い、切り返しや揺さぶりの発問をいかに工夫するかなど、教師の明確な生徒の把握や、ファシリテーターとしての役目が必要です。

ポイント 1



きまりを守ることは大切だ！

発問を工夫することで、資料について身近な解決すべき問題だと感じられるようにします。

個で考える時間を確保し、なぜそう考えたのかという理由や根拠を大切にします。

ポイント 2



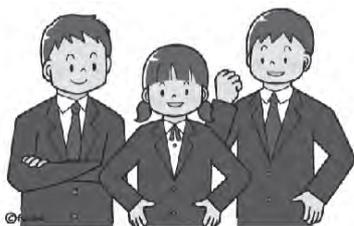
でも、時間を守れなかったり、うっかりみんなに迷惑をかけてしまうことがあるなあ…

僕は友達と遊ぶという価値をどうしても優先させてしまうなあ…

「分かってはいるけどできない」「なぜ、どうして」人間的な弱さやもろさがあります。仲間の考えを聞くことで、自分の考えを振り返ったり、より良く変えていこうという態度を身に付けることができます。

ポイント 3

なぜきまりはあるのか、なぜ大切なのかにもいろいろな考えや思いがあるな…



今までに、きまりを守らずに周りの人たちに迷惑をかけてしまっていたかもしれないなあ…
きまりの意味を初めて考えたかもしれないなあ…
でもやっぱり友達と少しでも長く遊んでいたい…
これからどうしていけばいいかな…

対話を重視した道德の授業を行うことで、今までの自分の価値観が変わる機会となったり、自分の価値観を深める機会となったりします。そのような時間を繰り返すことで、自分を振り返り、考えを深め、自分の成長を実感できるようになります。

Q & A

Q 「対話」と「話し合い」の違いは何ですか？

A 対話は、相手と自分を相互尊重した話し合いのことです。自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解する話し合いです。

特に大切なのは、自分の考えや意見と違うことを相手が話したときに、相手の考えや意見の違いを認めることです。

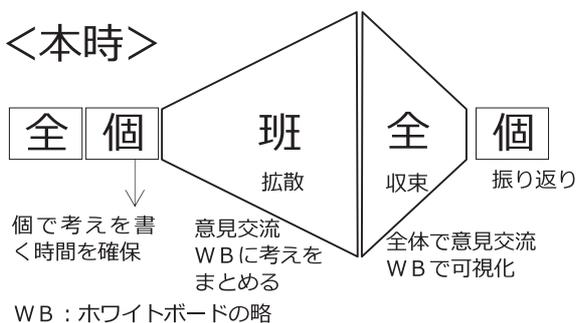
さらに相手が自分と違う考えや意見の背景まで「聴く」ことで理解しようと努める態度が大切です。

この「手立て」を使った授業は、こんな感じで進めています



授業全体の流れは…

〈本時〉



「全」は学級全体での説明の場面、「個」は個人で考える場面、「班」は3～4人グループでの意見交流の場面です。

ペアでの対話



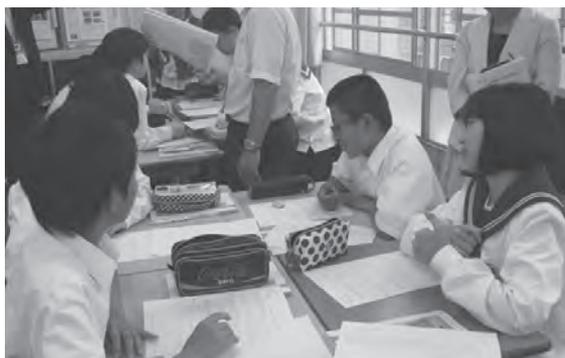
導入の段階で、ペアでお互いの良さを伝え合います。ねらいとする価値への方向付けの場面です。長くならないように時間を決めて行います。生徒は、対話を通して感じた気持ちを発表し、全体で共有します。

個の学習時間の確保



中心発問に対して、まず、自分の考えをじっくりと考え、ワークシートに記入します。その際、なぜそう思ったのかの理由や根拠をきちんと考えます。

小グループで対話（意見交流）

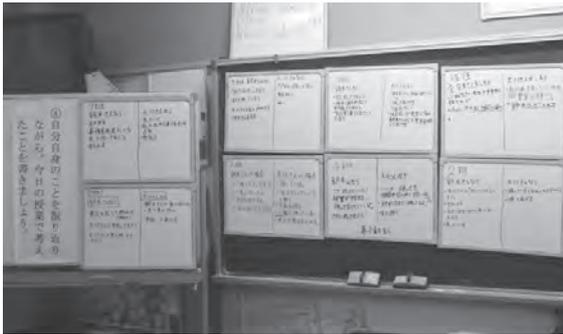


次に小グループで自分の考えを伝え、仲間の質問に答えるという活動を続けます。仲間の考えにしっかり耳を傾けられるように、まずは対話だけに留めます。



その後、小グループで出た個々の考えをキーワードでホワイトボードにまとめます。対話する活動と書く活動を別にする事で、仲間の考えを真剣に聞こうとする態度や仲間の考えを大切にしようとする気持ちが育まれます。

学級全体で考えの共有



グループでの話し合いの内容を全体で発表します。必ず、その考えの理由や根拠もきちんと述べます。ホワイトボードを黒板に貼り、可視化することで自分たちの考えと比較しやすくなります。

自分の考えを深める



グループでの話し合いや学級全体で出された意見をもとに、自分自身を振り返りながら今日の授業で考えたことをワークシートにまとめます。ねらいとする道徳的価値について自分の価値判断を見直したり、深く考える時間となります。

指定研究会情報

上越地区（妙高市中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：豊かな関わりをもち、自己を見つめ、より良い生き方を追求する生徒の育成
～思いや考えを伝え合う活動を通して～

モラルジレンマ資料と感動資料を使います。異なるタイプの道徳の授業ですが、どちらも対話を大切に、自分の思いや考えを伝え合う活動を工夫した授業を予定しています。

◇月 日：10月28日（水） ◇会場校：妙高市立妙高中学校

◇公 開：2年 主題名 命ときまり

<3-(1) 生命の尊重 4-(1) 法やきまりの遵守>

授業者 丸山 信昭

3年 主題名 自分らしい生き方を求めて

<1-(4) 理想の実現>

授業者 帆苺 摩耶

◇指導者：妙高市立新井中学校 校長 川上 晃

道徳〈中越地区〉

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

体験と関連した 道徳授業で、 人と関わる力UP！



三条市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 三条市立下田中学校 池田 真保
会場校担当(右) 三条市立大島中学校 渡邊 三津

生徒達が「自分ごと」として考える道徳授業を！ 体験と関係づけた道徳授業で、生徒が「自分ごと」として語り合い、授業から次の活動に生きる道徳的な力を身に付けます。

【手立て設定の理由】

生徒が教材と関連する体験を連想することができれば、教材が生徒自身のものとなります。また、授業中での「話し合い」活動を「言い合い」にしないことや、意見を拡散したままではなく、生徒に落とし込む活動が必要です。

【手立てのメリット】

「道徳が楽しい」という生徒の声が増えています。また、普段の授業以上に積極的に発言する生徒がでてきました。

手立て

道徳授業を構想するときは…

ポイント1

各教育活動との関連

ポイント2

ツールで「話し合い活動」を充実

ポイント3

「話し合い」後の収束→個の振り返りの時間の確保

ここは気をつけよう！

充実した「話し合い」にするためには、「発問の工夫」が必要です。多様な意見が出そうなもの、探求したくなる問いかけを工夫しましょう。また、「教師のファシリテーション力の向上」「生徒に『話し合い』の経験を積ませる」「話し合うためのツールをいろいろ試して、生徒に合うものを探す」ことも大切です。

道徳〈新潟地区〉

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

“共感度スケール”で 道徳的判断力を高める



新潟市中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 新潟市立小針中学校 竹内 滋之

会場校担当(右) 新潟市立赤塚中学校 西村 弥生

登場人物への共感度をスケールで表し、その理由について交流すると、人の弱さや迷いについて実体験を踏まえて本音で語り合えるので、道徳的価値の自覚が深まります。

多くの生徒は、本時で取り上げる道徳的価値についてはある程度分かっています。しかし、その自覚は実践に結びついていないと限りません。なぜなら、自分の弱さや迷いに十分に向き合っていないからです。登場人物の心情について“共感度スケール”を用いて交流すると、次の3つの効果が期待できます。

- ① 選択した理由に生活経験が語られ当事者意識を高められる。
- ② 自分の弱さや迷いに向き合うことで道徳的価値の自覚が深まる。
- ③ 深い道徳的価値の自覚に基づいた道徳的判断を促すことができる。

手立て

“共感度スケール”を用いて判断理由を交流します。

ポイント1

共感度を4段階で可視化します。

ポイント2

共感度の判断理由を自分の実体験を踏まえて発表させます。

ポイント3

解決の糸口やよりよい行為を問う発問の前段に位置付けます。

ここは気をつけよう！

全員が参加できるように小グループ内で“共感度スケール”を用いて交流させる場合は、個の思考場面の際に、ワークシートや付箋などに判断した共感度の理由を書かせ、一人一人がどのような思考をしているかを教師が的確に把握します。それを基に意図的に指名することで、多様な考えを引き出しながら、効果的な話し合いを進めていく必要があります。

ポイント 1

“共感度スケール”における共感度は0～3の4段階で示します。そして、自分の共感度の位置にネームプレート等を貼らせ、全体に可視化します。生徒は、自分と仲間との共感度のズレに関心を持ち、その理由を聞きたくくなります。

共感度スケール

あなたは、△△した〇〇にどのくらい共感できますか？

0：全くできない 1：少しできる 2：まあまあできる 3：すごくできる



ポイント 2

2色の付箋を用いて肯定的理由と否定的理由を分けて書き出せるようにします。

自分の生活経験に基づいた理由を大切に、自分事として考えられるようにします。

個々に判断理由を記述



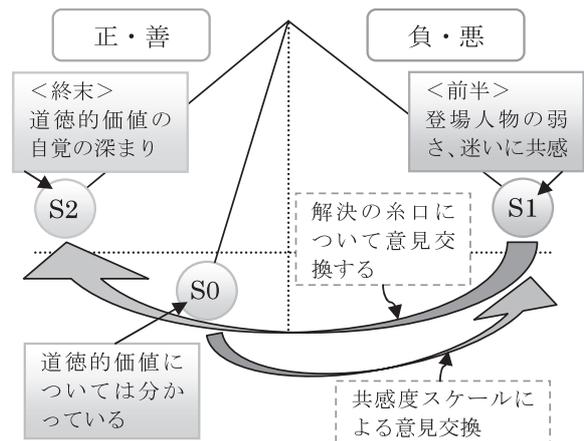
小グループで交流



ポイント 3

“共感度スケール”による判断理由を交流する活動で、ねらいとする道徳的価値に反する人間の弱さや迷いに自分事として向き合わせます。

その後、中心発問で解決の糸口やその後の行為を問うことで、道徳的価値の自覚を深めながら、道徳的判断力を高めることができます。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：豊かなかかわり合いを通して、よりよく生きようとする生徒の育成
～道徳的判断力を高める学び合いのある授業の工夫～

“共感度スケール”の手立ては、全授業で取り入れる予定です。頭で分かっている道徳的価値を表出するだけの授業ではなく、人間の弱さや迷いに自分事として十分に向き合わせた上で、解決の糸口やよりよい行為について交流・検討することで、道徳的価値の自覚を深めながら、それに基づいて道徳的判断ができるようになる授業を公開します。

◇月 日：11月30日（月） ◇会場校：新潟市立赤塚中学校

◇公 開：1年 個性の伸長，向上心1-（5） 授業者 中戸 栄

2年 自主・責任1-（3） 授業者 山本 優子

3年 法やきまりの遵守4-（1） 授業者 宮井 誠

◇指導者：新潟市立総合教育センター 指導主事 藤井 正人

道徳〈下越地区〉

<授業改革“学び合う授業”>

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

地域との関わりを大切に にし、生徒の心を育み ます



五泉市・東蒲原郡中教研 道徳部

研究推進責任者(左) 愛宕中学校 西方 貴子
会場校担当(右) 川東中学校 藤澤 詠子

道徳の時間と他教科・領域・学校行事との関連を図り、体験活動を通して生徒の道徳性の伸長を図ります。

川東中学校では、「心豊かな生徒」を目指して「PEACEメソッドカリキュラム」を中核にして感動体験活動や行事を行っています。

このカリキュラムの中に道徳の時間を適切に位置づけることにより、次の利点が考えられます。

- ① 身に付けた道徳性が積み重なっていきます。
- ② 小中が連携した道徳教育ができます。
- ③ 道徳性だけでなく、コミュニケーション能力が向上します。

手立て

他との関わりから多様な考え方を学ぶ

ポイント1

小中が連携して体験活動を行い、体験から学びます。

ポイント2

「学び合い活動」を取り入れ、友達の考えから学びます。

ポイント3

ゲストティーチャーを招いた道徳を行い、地域の方から学びます。

ここは気をつけよう！

それぞれの体験活動で、望ましい姿や身に付けたい力を明確にしないと「楽しかった」だけで終わってしまいます。ねらいを明確にして、小中の連携を密にとることが大切です。また、「学び合い学習」では、自由に仲間と意見交換をした後、振り返りをします。自分の考えが深められるように振り返り用紙にも工夫が必要です。

ポイント 1

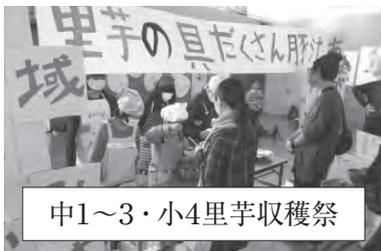
中1・小5サマーキャンプ



中2・小6登山



中1～3・小4里芋収穫祭



小学校との共通理解を深め、相互の連携を図りながら体験活動を行っています。

小学校4年・5年・6年時に中学生とともに共同して活動します。

ポイント 2



発問を工夫し、「学び合い」の場面を授業過程に位置づけています。他者との意見や考えの交流を図ります。

ポイント 3



地域貢献に尽力している方々からお話を聞きます。地域に対する深い思いを知り、郷土愛や感謝・おもしろいについて学び、考えます。

指定研究会情報

下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）道徳教育研究発表会

◇研究主題：学び合い活動を通じた、豊かな心を育む道徳教育の工夫

学校行事（大芋会）に向けての道徳教育を行います。地域の方々から川東中学校の生徒を見つめる思いや願い、卒業生から在校生への思いを語ってもらいます。それを受けて今年度の大芋会をどのように創りあげていくのかを考える授業を予定しています。

◇月 日：11月10日（火） ◇会場校：五泉市立川東中学校

◇公 開：3年 授業者 佐久間 禎訓，藤澤 詠子，鈴木 隆士
2年 授業者 佐藤 裕子

◇指導者：上越教育大学 副学長 林 泰成
五泉市教育委員会 指導主事 新田見 誠

特別活動 〈新潟地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

“ファシリテーション”でコミュニケーション能力を身に付け 自己有用感・自己肯定感を高める！



新潟市中教研 学級経営部

研究推進責任者(左) 新潟市立五十嵐中学校 山崎 彰之

会場校担当(右) 新潟市立黒崎中学校 金安 雅夫

ファシリテーションを継続的に用いると他者との関わり合いが促進し、コミュニケーション能力が高まります。また、自分の考えに自信をもって発言できるようになり自己有用感・自己肯定感が高まります。

手立て設定の理由

ファシリテーションを学級活動だけでなく、各教科・領域、そして朝など学校全体で取り組んでいます。それにより、自分の考えに自信をもてるようになるとともに活動の目標や評価の内容が深まってきます。

手立てのメリット

一人一人が主役になって、他者との関わり合いが促進でき、「聴く力」「話す力」「書く力」「場を感じる力」が総合的に育ちます。

手立て

手立ての内容

PDCAの計画や評価の場面でファシリテーションを取り入れた活動を設定する。

ポイント1

目標設定や評価の場面でファシリテーションを取り入れた話し合い活動を取り入れる。

ポイント2

朝のファシリテーション(朝ファシリ)で、手軽に継続的に話し合い活動を行う。

ポイント3

各教科・領域でも行う。

ここは気をつけよう！

手立てを実施する際の留意点

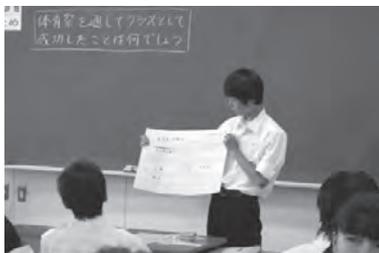
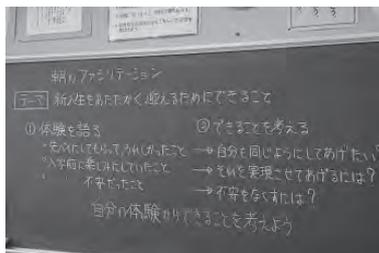
1年間を3期に分け、さまざまな分野(学級・学年・生徒会・部活動など)で各期の重点目標を設定し、計画的・継続的にファシリテーションを取り入れた活動を設定することで、効果があがってきます。

ポイント 1



学級目標をつくる時や、体育祭の成功イメージを考えるとときなど、目標を共有する場面にファシリテーションを活用します。また、行事の終わりに自己評価だけでなく集団としての評価を話し合います。

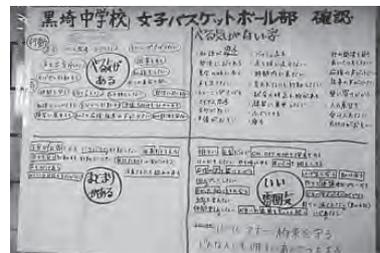
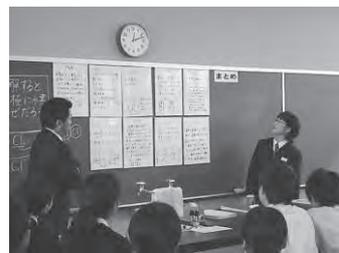
ポイント 2



朝の15分間で話し合えるテーマを設定します。(主に行事の意識付けや日常生活の問題点について)

ファシリテーターやライターの講習会で学んだスキルを試す場にもなります。

ポイント 3



教科指導や総合的な学習では、学活の話し合い班と同じメンバーで積極的にファシリテーションを取り入れた授業に取り組みます。部活動のミーティングや体育祭のリーダー会議では、異学年のメンバーで役割を決め、話し合います。

Q & A

Q ファシリテーターやライターの育成はどのようにしているのですか？

A 全校のファシリテーターやライターの生徒を集め、研修を行いました。ファシリテーターは、考えを引き出したり深めたりする言葉かけを練習し、ライターは話を聞きながら書く練習をしました。役割に慣れるまで学級の話し合いメンバーを固定し、繰り返し練習しています。

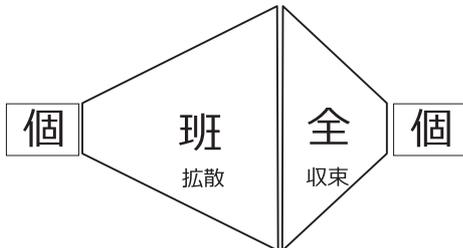


この「手立て」を使った授業は、こんな感じで進めています



体育祭に関わる流れは…

(個→班→全体→個) の繰り返し



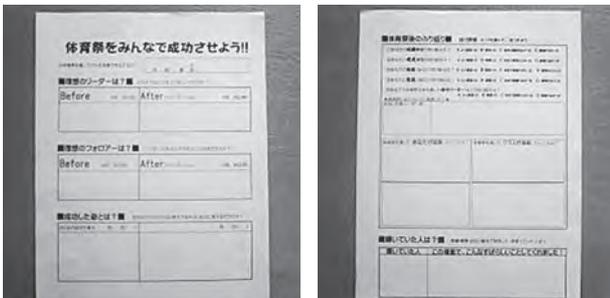
行事ひとつの中に、PDCAを意図的に盛り込んでいます。

- ① 理想のリーダー像・フォロアー像についてイメージする (クラスF)
- ② リーダー選びの実践
- ③ 体育祭の成功した姿をイメージする (クラスF)
- ④ 理想の軍を考える (リーダーF)
- ⑤ 結団式を成功させるにはどうしたらよいか (3年クラスF)
- ⑥ 競技で勝利するにはどうしたらよいか (クラスF)
- ⑦ 体育祭当日
- ⑧ 成長したことは何だろう? (クラスF)

F: ファシリテーション

行事の成長を見とるために

「体育祭をみんなで成功させよう」A4の表・裏のワークシート



話し合う前に個人の考えをBeforeに記入し、ファシリテーション後にAfterへ追加記述しています。また、体育祭のワークシートとして1枚のプリントにまとめられているので、考えの変容がわかり評価もしやすくなります。

ファシリテーションの班

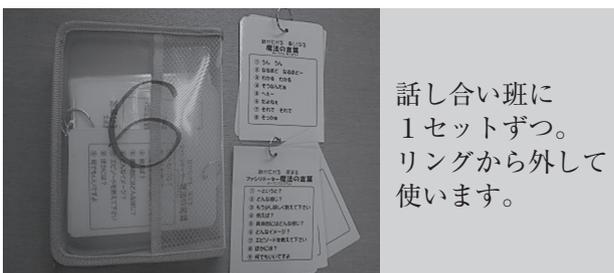


基本は4人班です。4人全員に役割をもたせて、話し合いに参加しやすい環境をつくります。

- ① ファシリテーター (司会)
- ② ライター (記録)
- ③ タイムキーパー (計時と用具)
- ④ プレゼンター (発表)

※3人班は、2つの役割を兼任しています。

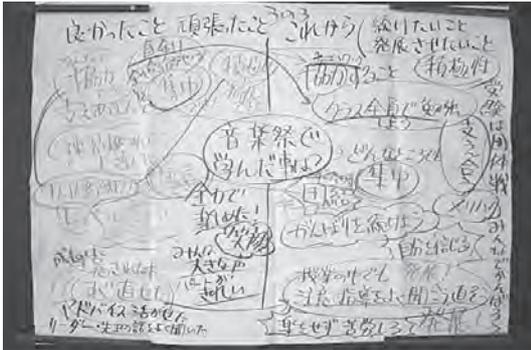
話し合いが広がる・深まる「魔法の言葉」カード



話し合い班に1セットずつ。リングから外して使います。

話が広がるオープンクエスチョンカード1枚と、聞き手の相づちカードが2枚セットになっています。ライター以外の方はそれぞれ1枚ずつ手にしながら話し合います。

班の発表



可視化された班の話し合い内容を、模造紙を見せながら発表したり、ホワイトボードを一斉に張り出して見比べたりします。

集団としての意思決定を進めるときは、発表を聞きながら担任がライター役を務め、1枚のグラフィックにまとめます。

可視化された手書きのグラフィックは、文字の大きさや色で分類された内容がわかり、矢印や文字の位置から話の流れを感じ取ることができます。

発表するのが苦手な人でも、書いてある順番どおりに説明したり、つぶやきのメモから班で一番盛り上がった内容を思い出して伝えることができます。

情報の共有と深まり



グラフィックは掲示し、いつでも話し合った内容に戻れるようにしています。すると、班員以外の人からも考えを認められる場面が生まれます。ライターの見やすくなりやすい工夫には、付箋で工夫点を褒めています。他のライターのまとめ方から、良さを学ぶこともできます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）特別活動教育研究発表会

◇研究主題：主体的に考え目標をもって教育活動に取り組む生徒の育成
～ファシリテーションを用いて～

学校生活の様々な場面で、生徒同士のかかわり合いを増やしてコミュニケーション力と自己有用感を高めてきました。当日もファシリテーションを活用した授業を行う予定です。

◇月 日：11月12日（木） ◇会場校：新潟市立黒埼中学校

◇公 開：3学級 1年 授業者 江口 麻衣子
2年 授業者 小澤 享
3年 授業者 古澤 康弘

◇指導者：新潟市教育委員会学校支援課 指導主事 坂 哲也
新潟市立赤塚中学校 校長 土屋 浩
新潟市立大江山中学校 校長 佐藤 宏欣

特別活動 〈上越地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

活動→話し合い(成果と課題の整理, 目指す姿の共有, 次の活動で工夫することの明確化) →
活動のサイクルで課題
解決力アップ



上越市中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 上越市立春日中学校 佐藤 文大
会場校担当(右) 上越市立名立中学校 丸山 徳子

活動後に、4象限マトリックスを活用して話し合い、「成果と課題の整理」「次の活動で目指す姿の共有」「次の活動で工夫することの明確化」を図るという経験を積むことで、課題解決力が向上します。

活動が、個人や集団の日常生活や次の活動のレベルアップにつながらない場合が見られます。そこで、活動の振り返りを小グループで行い、4象限マトリックスを活用して成果と課題を整理します。さらに、成果と課題それぞれの要因を考え、次の活動で目指す姿や成果を上げるための提案をまとめます。この話し合いには、次の3つの利点があります。

- ① 4象限マトリックスの「2つの軸」の設定により、教師のねらいに沿った思考を促せます。
- ② 4象限マトリックスの活用により、成果と課題を整理しやすくなります。
- ③ 成果と課題の要因を考えることにより、「次の活動で工夫すべき点」が明確になります。

手立て

4象限マトリックスで、話し合いの拡散と収束を促す。

ポイント1

個人の活動の振り返りに、目指す生徒像に迫る視点を入れる。

ポイント2

4象限マトリックスを活用して、成果と課題を整理する。

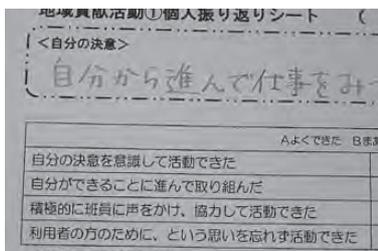
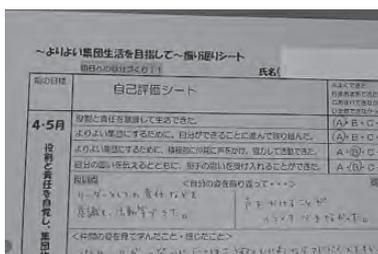
ポイント3

成果と課題の要因を検討し、次の活動で工夫できる点を明確にする。

ここは気をつけよう！

「4象限マトリックス」の活用には、①教師側がねらいに沿った2つの軸を設定することと、②事前に話し合いのリーダーと軸の意味を確かめ合うこと、この2つが効果的な話し合いを導き出します。教師による「軸」の検討とリーダーへの事前指導が成功の鍵となります。

ポイント 1



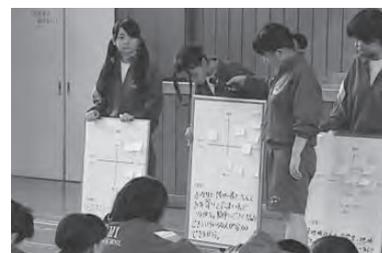
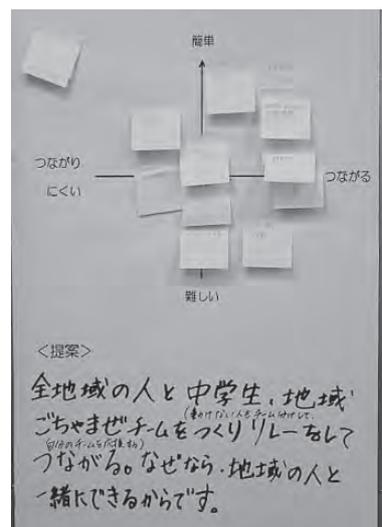
活動の振り返りの際に、毎回（教師側が）目指す生徒像に迫る視点を入れます。また、活動の成果と課題を考える際、そう考える理由も記入させ、考えを深めさせます。この継続により、「目指す生徒像」に対する生徒の意識を高め、客観的に自分や集団を見る目を育てます。

ポイント 2



話し合いは、4人程度の小グループで行います。4象限マトリクスを活用し、個々が付箋に書いた成果と課題を、グループごとに分類していきます。分類の際、そう考える理由を伝え合うことで、活動の成果と課題がより明確に共有されます。

ポイント 3



成果と課題について、その要因を検討します。その要因を踏まえ、今回の課題を克服できるよう、次の活動で成果を上げるための提案を考えます。各グループの提案を全体で共有して、次の活動の企画へつなげます。

指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）特別活動教育研究発表会

◇研究主題：自分で考え、まわりとかかわりながら、よりよい活動を目指す生徒の育成

今年度全校で取り組んだ「地域とつながる」活動について話し合い、「成果と課題の整理、目指す姿や来年度工夫することの共有」を行います。縦割班の話し合いの中で、自分の考えを伝え合いながら、よりよい活動にするための提案をまとめていく過程をご覧いただく予定です。

◇月 日：11月27日（金） ◇会場校：上越市立名立中学校

◇公開：全校学活 授業者 二上 裕子，石野 佑紀枝

◇指導者：上越教育大学 教職大学院 特任教授 佐藤 賢治
上越市教育委員会 学校教育課 指導主事 岩片 嘉和

特別活動 〈中越地区〉

多様な意見を 重ね合う話し合いで 学級が変わる！

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる



魚沼市中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 広神中学校 五十嵐 理
会場校担当(右) 湯之谷中学校 中澤 晃

学級や学校のより良い生活づくりのために、生徒一人一人が提案理由を踏まえて思いや考えを伝え合い、理解し合い、吟味していく話し合いを繰り返して、望ましい人間関係につながります。

中学生の発達段階は、発言力のある生徒やみんなに同調する傾向が強く、ぶつかり合い刺激しあってより良いものを目指すという姿勢が弱いといえます。学級の合意形成を必要とする議題について多様な意見を重ね合う話し合いのメリットは次の点です。

- ① 自分の意見をしっかり述べるできるようになります。
- ② 何でも言い合える人間関係をつくり、親和的な温かい学級につながります。
- ③ 学級や学校のより良い生活を自分たちで作ったり、獲得したりしようとする前向きな姿勢につながります。

手立て

手立ての内容

議題の提案理由を踏まえて思いや考えを伝え合い、吟味する。

ポイント1

提案理由を意識し、根拠や理由を明確にした発言をする。

ポイント2

発言を可視化する。

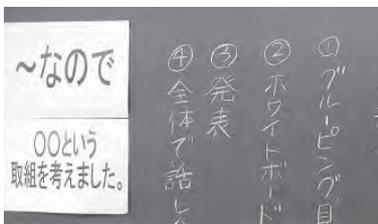
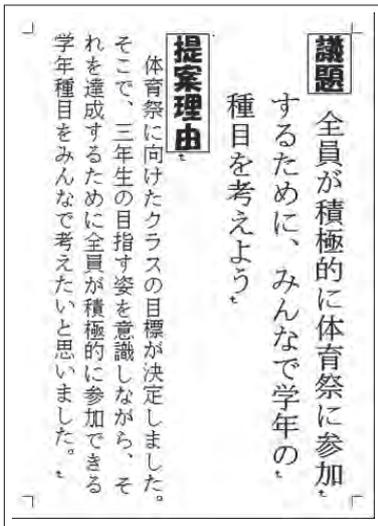
ポイント3

友達の見解の良さを生かす発言を大切にする。

ここは気をつけよう！

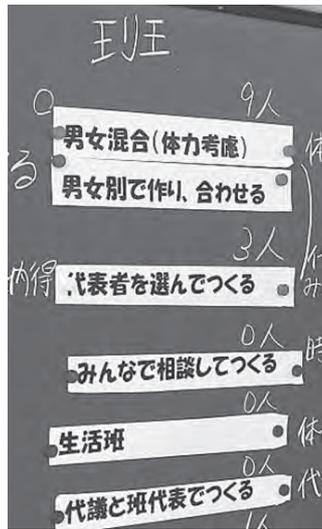
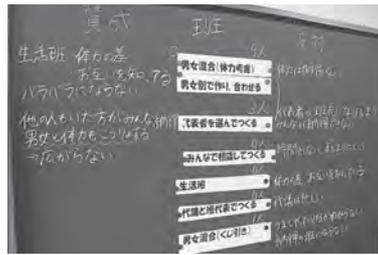
生徒一人一人が思いや考えを伝え合い、それらを理解した上で、議題の提案理由に沿って吟味していくことが重要です。そのためには、事前に議題と提案理由を伝え、それを踏まえて各自が考えをまとめておくことが必要です。また、出された意見を可視化するとともに、根拠を明確にした発言と友達の見解を生かす発言をする話し合いが大切です。

ポイント 1



議題と提案理由を意識させて話し合いをするために、プリントや掲示物を利用して確認します。根拠や理由を明確にして発言をします。

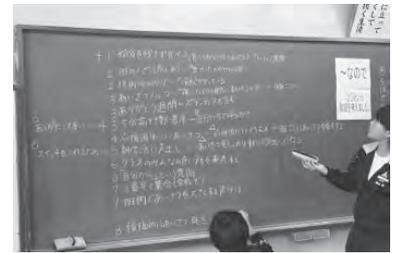
ポイント 2



賛成や反対の意見と理由が明確となるよう可視化します。

短冊等を活用し、似た意見を寄せたり、順序を変えたりすることで話し合いの視点が分かりやすくなります。

ポイント 3



より良い考えを見いだす話し合いなので、批判的な視点と好意的な視点をもつことが必要です。友達の考えを生かす意見を述べるのが大切です。

指定研究会情報

中越地区（魚沼市中教研）特別活動教育研究発表会

◇研究主題：望ましい人間関係につなぐ学級活動

～多様な意見を重ね合い高め合う話し合い活動を通して～

集団としての合意形成が必要な議題について、生徒一人一人が思いや考えを伝え合い、理解し合い、提案理由に沿って吟味する話し合いを行います。このような話し合いを繰り返すことで、何でも言い合えるような望ましい人間関係につながります。

◇月 日：11月10日（火）

◇会場校：魚沼市立湯之谷中学校

◇公 開：3学級 1年 授業者 葛原 康弘

2年 授業者 山崎 潤司

3年 授業者 熊木 大典

◇指導者：魚沼市教育委員会 統括指導主事 伊佐 貢一

特別活動 〈下越地区〉

<授業改革 “学び合う授業” >

この“手立て”で21世紀型能力を育てる

話し合いの“見える化”で、 集団や個の意思決定を 促す



二市北蒲原郡中教研 特別活動部

研究推進責任者(左) 聖籠町立聖籠中学校 菅谷 啓子

会場校担当(右) 胎内市立中条中学校 熊倉 岳文

ホワイトボードや模造紙を活用して、話し合いを“見える化”すると、話し合いの流れ・内容が明確になり、集団及び個の意思決定が容易になります。

ホワイトボードや模造紙に、話し合いの内容を、文字・図・表・イラスト・記号などを使ってわかりやすく表現することを、“見える化”と呼びます。

この“見える化”には、次の5つのメリットがあります。

- ① 話し合いの流れや内容を掴みやすい。
- ② 話し合いの内容を共有できる。
- ③ 人と人でなく、内容に集中できる。
- ④ 新たな発想を生みやすい。
- ⑤ 安心できる場がつかれる。

手立て

ライターが色ペンをつかって、話し合いを“見える化”する

ポイント1

大きめの字で、はっきり、迷わずにゆっくりかきます。

ポイント2

話し合いの段階（拡散→収束→決定）を色分けしてかきます。

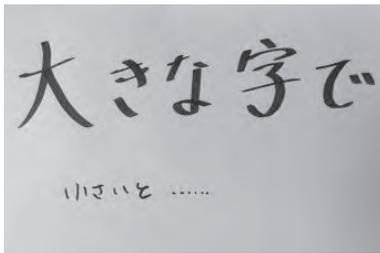
ポイント3

レイアウトを意識しながら、要約してかきます。

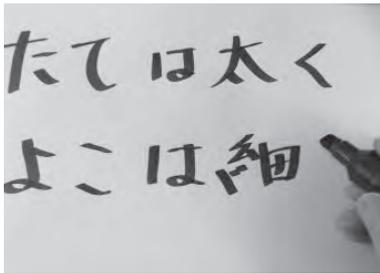
ここは気をつけよう！

“見える化”の質を高めるには要約力が必要です。ライターは、発言者の意図をきちんと理解し、的確に表現します。この際、ファシリテーターと連携して、発言者の意図を確認したり、参加者にまとめ方について意見を求めながらかくとよいでしょう。

ポイント 1



- 大きめの字で、少しゆっくり目にかきます。



- プロッキーの持ち方を工夫し、縦線は太く、横線は細くかきます。

- 多少の字の間違いは気にせず、分からない漢字があったらカタカナでかきます。
- あれこれ迷わず大胆に、参加者の意見を聴きながらかきます。

ポイント 2

- オープンクエスチョンで、自由に意見を出し合うとき(拡散)は、

黒

でかきます。

- 話し合いのポイントを決めて練り上げるとき(収束)は、

赤

でかきます。

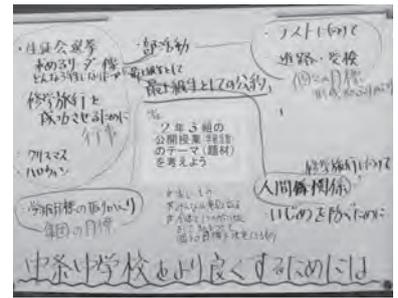
- 具体的な方法、解決策などチームの最終決定は、

青

でかきます。

- 話し合いの段階(拡散→収束→決定)を色分けすれば、話し合いのプロセスが一目でわかります。

ポイント 3



↑ (レイアウトの例)

マンダラ型

- 中央にテーマを書いて、周辺に発想を延ばしていくことができます。
- 関係の近い項目を近い位置に、遠い項目を遠い位置に配置するのが基本です。
- 項目のまとまりに見出しをつけたり、矢印などで関係を見せます。

- ポイント、頻出ワードをとらえてかきます。
- みんなが分かる略語・イラストを活用してかきます。

(例) ポケットモンスター

→ポケモン

グッドアイデア→



指定研究会情報

下越地区(二市・北蒲原郡中教研) 特別活動教育研究発表会

- ◇研究主題：他者とのかかわりの中で、よりよい人間関係を築くことができる生徒の育成～話し合い活動による望ましい学級集団づくりを通して～

当日の公開授業では、「ファシリテーション」の手法を使った話し合いを行います。そこでの「見える化」の手立てによって、生徒一人一人が他とかかわり合いながら、意思決定をする授業を予定しています。

◇月 日：10月28日(水) ◇会場校：胎内市立中条中学校

◇公 開：3学級 1年 授業者 安田 有希
 2年 授業者 佐久間 朋子
 3年 授業者 今野 雄司

◇指導者：下越教育事務所 指導主事 野澤 一吉
 県立教育センター 指導主事 鈴木 正彦
 胎内市教育委員会 管理指導主事 高橋 祐二

各校の研究授業も “4ステップ・1ポイント” で !!

指定研究1年目は「教師の学び合い」を次の4ステップ1ポイントで進めています。

ステップ1 目指す姿を全員で共有

まず、何を目指し、それに対する現状はどうで、何が問題なのか、全員で問題意識を共有するFTはとても大切です。

ステップ2 解決の手立てのアイデアを出し合う

問題が共有されれば、その解決の手立てのアイデアを出す拡散のFTを行います。拡散の後、判断基準を決めるFTを行い、判断基準に沿って収束のFTをします。

ステップ3 構想シート検討 (→ 指導案)

ここで次に指導案検討ではなく、授業(単元)構想シートを基にしたアイデア出しのFTをします。ここで問題の捉え方、題材、手立て等についてヒントやアドバイスを出し合います。それを基に、当日の指導案を作成するという流れです。

構想シートはA3見開き1枚(A4が2枚まで)にし、それを模造紙大に拡大するなど可視化してFTによる検討をします。当日の指導案もA3の略案がよいでしょう。

ステップ4 授業後の検討会は「提案」の是非が論点

授業後の検討会をFTの形式で行うことは一般的になってきました。FTの質を高めるには授業に「具体的で鋭角的な提案」あり、検討会ではその提案の是非を論点にします。話がかみ合いブレません。

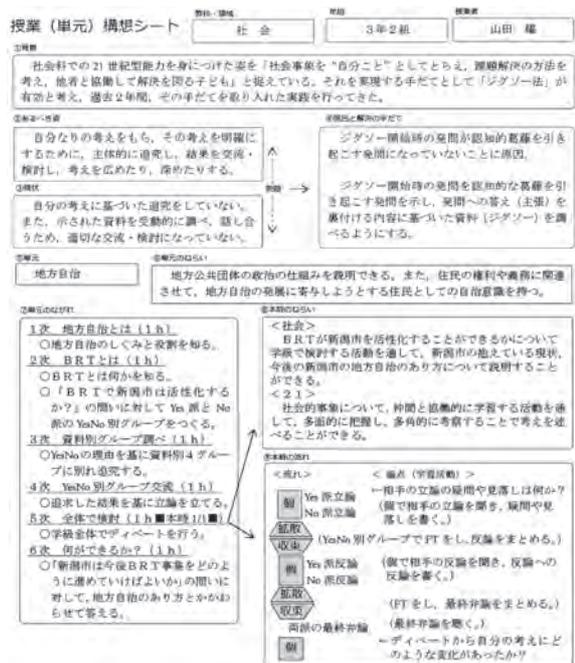
ポイント1 みんなで授業を見せ合う

一人の教師だけ研究授業をするのではなく、問題意識(研究テーマ)にそった授業を委員全員がみんなで見せ合い、研究をみんなを高めていくことが何より大切です。



他教科や若い教師が入る場合は、このような扇型では発言しにくいので、この前に鳥型の座席でグループFTをいれるとよいでしょう。

図1 目指す姿をメンバーで共有



このシートはこの夏、副部長を対象の「授業構想検討」研修会で利用した構想シートです。

図2 授業(単元)構想シート

本誌「3 授業改革“教師の学び合い”」(P.76-P.85)には指定研究1年目の20の研究推進委員会が“教師の学び合い”をどのように具現化したかを紹介されています。是非、各校の研究授業や校内研修の参考にしてください。

3 授業改革のポイント2

こんな進め方で全員が参画！



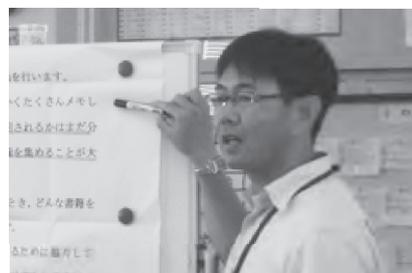
1年目の指定研究チームが進めている“授業づくり”や“授業検討”等の「教師の学び合い」の方法を紹介します。

社会

<授業改革“教師の学び合い”>

こんな進め方で全員が参画!!

ファシリテーション(FT)の手法を活用し、全員で授業を創り上げていくことで目指す生徒の姿を共有 <新潟地区>



新潟市中教研 社会科部

新潟市立白新中学校 小塚 忠昭

研究推進委員のメンバー全員が授業の構想創りから参加。FTの手法を活用し具体的な提案を出し合い、学び合い、授業も見せ合い進めていく。全員が研究のイメージを具体化、共有化することが可能になる。

授業構想シートの作成

授業者はねらい、具体的な手立て、授業に対する思いなどを明らかにした授業構想シート（A4用紙で1枚程度）を作成します。それを元にして授業構想会に臨みます。

授業構想シートを活用した検討会后、学習指導案を作成していくことで、授業者一人が考え学習指導案を作成していくことがなくなります。また、関わった全員の財産になるということも大きなポイントと言えるでしょう。

(授業構想シートに載せる内容)

- (1) 授業者の願い
(問題の所在と付けたい力)
- (2) 学習指導要領とのかかわり
- (3) 単元のねらい
- (4) 第1次～以降の内容
 - ・学習活動
 - ・本時のねらい ・手立て
 - ・主な指示、発問など
 - ・期待する生徒の様相 など

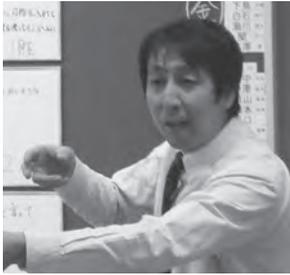
可視化されたFTによる協議

授業者が作成した授業構想シートを元に参加者全員でFTの手法で意見を出し合い授業を創り上げていきます。

FTの手法を用いることで、特定の人のみ为中心に発言するのではなく、参加者全員が発言しやすくなります。結果、授業者一人に任せることなく、研究推進委員全員が授業についての思いを共有したり、学び合ったりすることも可能になります。



目指す姿の共有の工夫 〈上越地区〉



上越市中教研 社会科部
上越市立城北中学校

藤田 賢

「社会科の授業での学び合い」を視点に、うまくいっていること、困っていることなどをFTを通して共有しました。そこから、目指す生徒の姿を「全員が参加・思考できる」「全員が自分の意見をもてる」「分かったことを自分の言葉でまとめる」として、研究主題を検討していくことになりました。

今後は、目指す姿をイメージしながら、題材の工夫、話し合いの形態・方法の工夫などを中心に研究を進めていきます。



第1回研推で「困っていること」などを共有しているところ

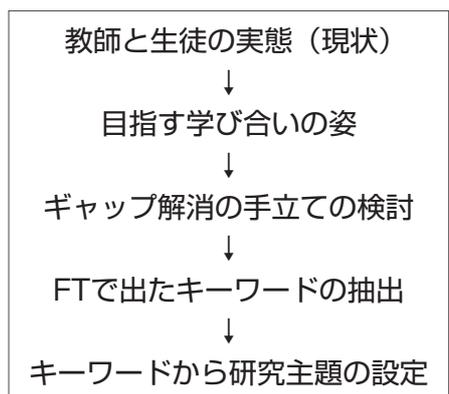
解決の手立てから研究主題を共有 〈中越地区〉



小千谷市中教研
社会科部
小千谷市立小千谷中学校

渡辺 嘉章

現状と目指す学び合いの姿とのギャップをメンバーで共有し、その解決の手立てをFTで検討して研究主題を設定しました。改善に向けて具体的なイメージを皆で出し合うという、ボトムアップ的な形をとることで目指す方向と研究内容が共有化されました。自分たちの手で創り上げた研究主題であるからこそ研究意欲も湧きます。



協議会でFT技能を向上 〈下越地区〉



新発田市中教研
社会科部
新発田市立豊浦中学校

神田 武

協議会では本時の授業内容の検討はもちろんですが、教師自らがFTの手法や技能を身に付ける研修の機会とします。

参加体験して理解するのではなく、ファシリテーターをメンバーが交代で務め、授業実践につなげられるように進めていきます。



第1回研究推進委員会
FT研修

理科

<授業改革“教師の学び合い”>

こんな進め方で全員が参画!!

理科は、学び合いで 科学的思考力と表現力 の高まりを目指します

<上越地区>



上越市中教研 理科部

上越市立城北中学校 保坂 修

目指す生徒の姿を「主体的に課題をもち、収集した情報を科学的に整理・分析し、それを基に自分の考えをわかりやすく伝えることができる生徒」と設定しました。

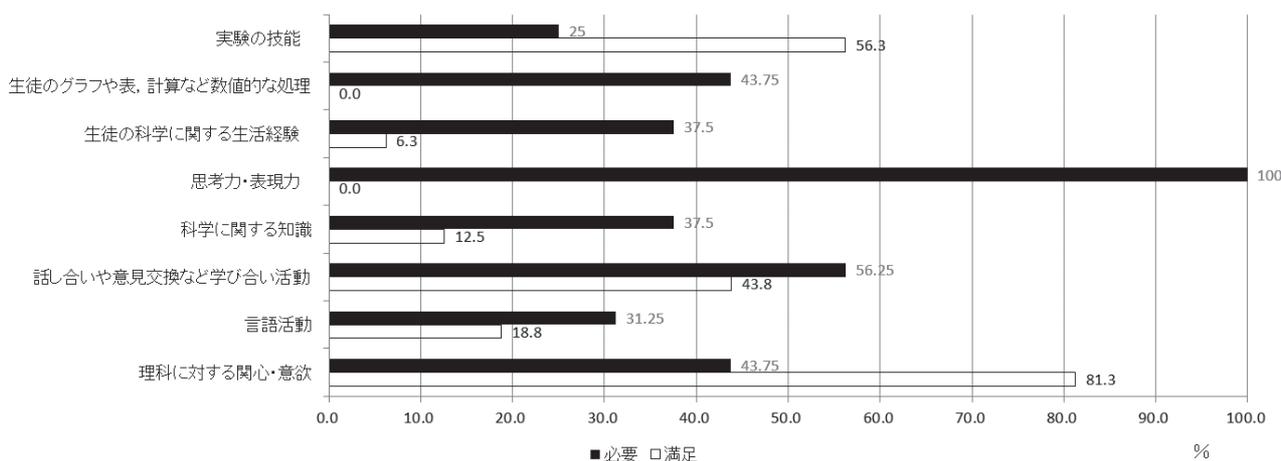
理科における「生徒の実態」を集約

上越地区中学校の理科主任から「理科における生徒の実態」について、右のような意見をいただきました。

また、下のグラフは、自校の子どもたちに「必要な力」と「概ね満足できている力」についてアンケート調査を行った結果です。

- ・特に観察や実験は、意欲的に取り組んでいる。
- ・文章で表そうと努力し、それなりに表現できるようになっている。
- ・生活体験の不足から、十分な技能や自然全般の知識が身に付いていない、または、知識と生活が結びついていない。
- ・グラフの作成や小数点を含む計算など数的な処理が苦手である。
- ・予想や考察、判断理由などにおいて、因果関係を整理したり分かりやすく説明したりする力が十分でない。
- ・自分自身でじっくりと考え、練り上げる場面も時には必要である。
- ・学び合いが定着しつつある。 など

生徒に「思考力・表現力」を身に付けさせたい



「メタ認知を促す学び合い」が解決の手立て 〈新潟地区〉



佐渡市中教研 理科部
佐渡市立真野中学校

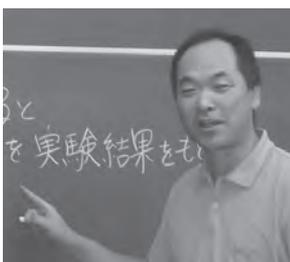
遠藤 満久

主体的な学びを実現するには、生徒が「自分の考えが科学的に高められたこと」を実感できる経験が大切です。そのためには、自分の現状を認識し、他との交流を通して自らの考えをより高い次元に練り上げていく必要があります。そこでワールドカフェ方式を活用した学び合いを通して、科学的思考の高まりを目指します。

- ① 課題に対しての予想
- ② 予想選択-自信度グラフにネームプレート貼る
※ 今の自分を知る

- ③ 同じ考えのメンバーで班を編成し、理由を述べ合う
- ④ 一人を残し、他の予想をした班へ移動する。
- ⑤ 移動した班の中で自分の考えを述べ、他の考えを聞く。
- ⑥ もとの班に戻り、自分以外の人の考えを説明する。
- ⑦ 自分の考えを再構成し、ネームプレートの張り替えをする。
※ 変容した自分を知る

学び合いを学び合うための授業構想シート 〈下越地区〉



五泉市・東蒲原郡中教研 理科部
五泉市立川東中学校

鈴木 尚

理科版の授業構想シートを作ってみました。①予想・仮説を立てる、②考察を行うといった場面での学習活動を明確にすることをポイントとしました。「学び合い」のための手立てや工夫について、より有効な検討を行い、それを基にたたき台となる指導案を作成し検討します。

五泉市・東蒲原郡中教研 理科〈授業構想シート〉

研究主題 根拠を元にした意見交換の工夫。

目指す子どもの姿
既習事項や経験・実験の結果から、自分の考えの根拠を見つけ、要領的に、相手にわかりやすい表現で伝えることができる生徒（仮）。

学び合い1の（題材）より。

- ① 根拠をもとに予想理由の検討。
- ② 事象に対し、既習事項と結びつけて予想理由を検討している。
- ③ 結果をもとにした事象の意見交換。
- ④ 経験・実験の結果をもとに結論を導き、生徒同士の意見交換を通して考えを深めさせている。

單元名 小單元名

小單元の内容

学習課題

展開・実験を行う学習活動

観察・実験の前に予想や仮説を立てる学習活動

観察・実験後に考察を行う学習活動

⑤意見交換の工夫

本時の展開

時 刻	■教師のはたらき	□生徒の学習活動	→後 援・留意点
10			
11			

授業改革の具体的なイメージやアイデアは、授業公開から! 〈中越地区〉



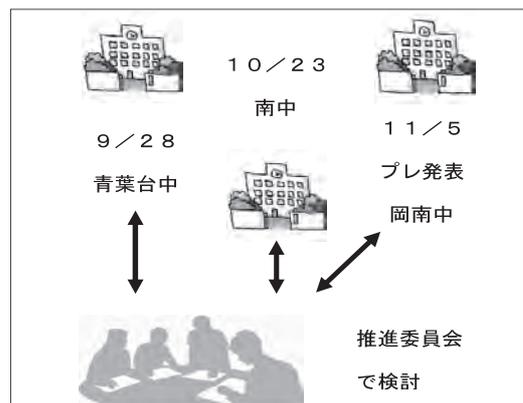
長岡市中教研 理科部
長岡市立堤岡中学校

澤栗 隆之

11月のプレ授業に向けて、研究推進委員会のメンバーで授業公開します。

目指す生徒の姿に対して各委員の手立ては参考になると考えました。

メンバーの授業を受けて、プレ授業では、手立てなどを明確にした授業公開をする予定です。



英語

<授業改革“教師の学び合い”>

こんな進め方で全員が参画!!

授業を見せ合い、 成果と課題という “タスキ”をつなぐ 〈新潟地区〉



新潟市中教研 英語部

新潟市立寄居中学校 高田 哲也

単元を貫くゴールから逆向きに設計した単元構成（学習タスク→練習タスク→評価タスク）の中で学び合う生徒の姿とは？ 研究推進委員が授業を見せ合い、研究の方向性を共有しました。

メンバーが授業公開，チームで成果と課題の洗い出し

まずは5限に推進委員が公開する授業をメンバーで観察します。指導案を何度も検討することよりも、一つの授業をみんなの目で実際に見ることで、共有できることが飛躍的に膨らみます。

同じ場面を見たチームだからこそ、その授業の成果と課題をさまざまな角度から洗い出すことができます。



“成果と課題”というタスキを、次々とつないでいく

チームみんなで洗い出した成果と課題を受け継ぎ、次の授業者が公開授業の中で具現化します。

メンバーみんなで考えた手立てを実際の授業の中で具現化することで、その手立ての有効性を生の授業の様子から検証することができます。

また、その授業で見てきた課題をどのように解決すればよいかを、委員で練り合い、次の公開授業に取り入れることによって、再度検討することができます。



FTで共有する目指す姿，高まるチーム力!! <上越地区>



糸魚川市中教研 英語部
糸魚川市立糸魚川東中学校
倉若 拓人

FTをふんだんに取り入れながら打ち合わせを進めています。まずは目指す姿や課題を出し合い，その解決のための手立てや授業構想を委員全員で共有しました。研究主題が合意できた瞬間は何とも言えない爽快感と達成感に溢れていました。糸魚川市の英語教育はここから変わっていきます!!



目指す姿を共有する一場面。ベテラン，若手を問わず，思い思いの言葉で語ります。

研究主題はこのように共有します! <下越地区>



村上市岩船郡中教研
英語部
村上市立村上第一中学校
渡邊 桃子

研究推進委員会のメンバーでNRT結果等から郡市内の生徒の現状を把握しました。そこから生徒の目指す姿や研究主題を共有しました。委員会では授業構想や指導案検討の際にFTを取り入れることで活発に話し合いを進めることができます。よりよい授業ができるように委員全員で協力しながら研究推進していきます。

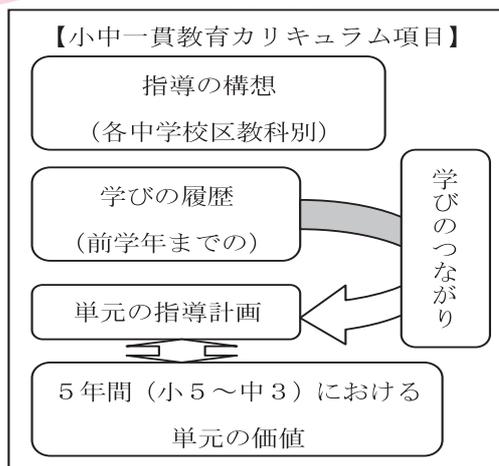


小学校との連携も重視します <中越地区>



三条市中教研 英語部
三条市立大崎中学校
五十嵐 博利

三条市では小中一貫教育カリキュラムを作成しており，それに基づき小学校への乗り入れ授業や小学校教員とのTTによる授業など行っています。推進委員が4つの中学校区に分かれ，それぞれの中学校区のカリキュラムを基に小中の学びの系統性を意識して，授業案を検討しています。



保健体育

<授業改革“教師の学び合い”>

こんな進め方で全員が参画!!

FT演習を体験，会員へ 広げるための具体化

〈新潟地区〉



新潟市中教研 保健体育部

新潟市立新津第五中学校 中山 智司

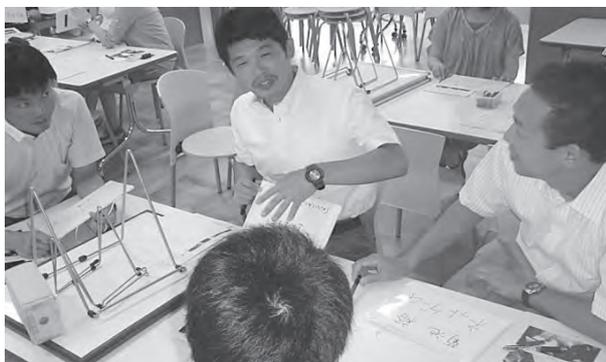
「学び合う授業」を広げていくための“手立て”はどうあるべきか。研究推進の方向性を確認し，具体的なイメージを焦点化していきました。

まずはFTを演習し，推進委員の“学び合い”から

研究推進メンバーが集まり，ファシリテーションへの理解を深め，授業での活用の方法を演習で体験しました。

まずは，研究推進委員自らが意見を交わしながら，“学び合い”ました。

秋の一斉研修会では，市の会員の皆様にも演習形式で体験してもらう予定です。



「学び合う」授業の創造を目指す

2年間の指定研究を通して，会員全員に広めるためには，どうすればよいかを協議，検討しました。

アクティブラーニングの視点を重視しつつ，学び合い10を取り入れた授業づくりを創造します。

次の推進会議では，授業構想シートを作成し，FT形式でモデル授業を練っていきます。



ファシリテーションで目指す姿を共有 〈下越地区〉



新発市中教研保健体育部
新発田市立豊浦中学校
藤間 善徳

最初の研究推進委員会で、2グループに分かれて学び合う生徒の姿とはどのような姿なのかをファシリテーションで具体的に共有しました。まだ聞き慣れない、使い慣れない手法での研修会でしたが、保健体育における学び合いとは何かを全員が参画して真剣に考えることができました。



ファシリテーション研修を兼ねながら目指す生徒の姿を共有しました。

授業構想・指導案の検討 〈上越地区〉

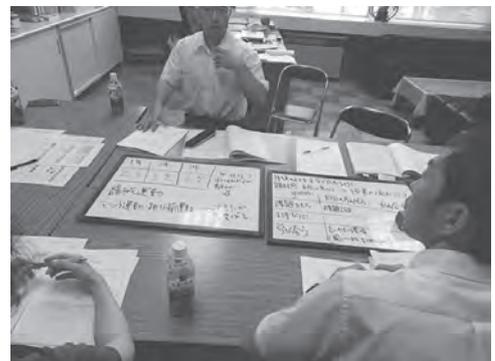


上越市中教研 保健体育部
上越市立大湯町中学校
内藤 隆

研究主題の確認とプレ授業に向けて指導案作りをしました。FTを活用し、全員で意見を出し合い、収束するなど『教師の学び合い』ができました。

来年度発表校は、すでにコミュニケーション力と主体性が身に付いているそうなので、「どう課題を持たせるか」がメインになりそうです。そこにFT等を活用したいと考えています。

今後、推進部で修正を重ねる取組を続けていきます。



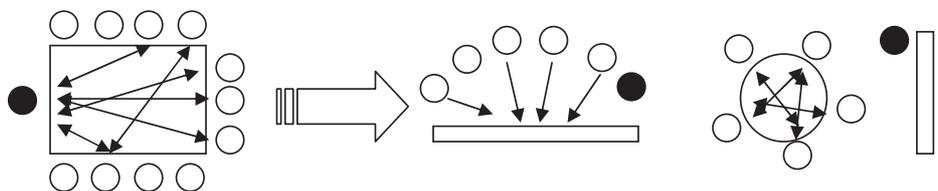
協議会では全員参画ができるように！ 〈中越地区〉



長岡市・三島郡中教研
保健体育部
長岡市立大島中学校
星野 修也

参加者全員が協議会に参加しやすいような工夫をします。

参加者を小グループに分け、論点や課題をFG（ファシリテーショングラフィック）によって可視化します。参加者一人一人が発言しやすい協議会になることが期待できます。



進路指導

<授業改革“教師の学び合い”>

こんな進め方で全員が参画!!

研究推進委員会全体での 実態把握・検証による 指導計画の改善 〈上越地区〉



柏崎市・刈羽郡学校教育研究会 進路指導部
柏崎市立北条中学校 宮崎 隆史

アンケート結果を基に「指導の振り返り」を行い、改善策を具体化して、授業構想・指導案の検討を進めていきます。

「新潟っ子プラン」アンケートシートを用いた実態把握

「新潟っ子プラン」のアンケートシートを用いて、自校の実態を把握するとともに、これまでの指導を振り返って取組の考察を行いました。その結果を基に、研究推進委員が指導計画の改善策について話し合いました。

発表校だけの取組でなく、研究推進委員の所属する各学校でも同様の実態把握と考察を行い、改善に努めます。

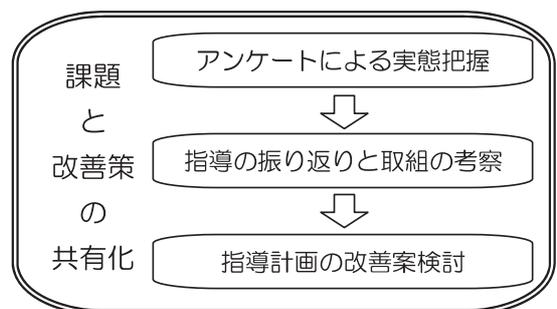
「新潟っ子プラン」アンケートシート

No.	中学校	自己評価	視点
1	地域の特色やよさがわかり、愛着を持ち、自分のできることで貢献しようとしている。	4 3 2 1	貢献
2	適切な言葉づかいで、相手や場面に応じたあいさつや返事ができる。	4 3 2 1	挨拶

研究推進委員会で課題を共有し、改善策を出し合う

ある学校では、「役割」が高評価であるのに対し、「肯定」が低評価である生徒が多いことから、学校・学区外の地域社会から評価を受ける場の設定が必要である、という意見が出ました。

具体的な活動の内容は今後の検討事項ですが、複数の学校で課題を共有し、次の活動への改善策を探る良い機会となりました。



キャリア教育アンケートをとおして目指す姿を共有 〈新潟地区〉



新潟市中教研進路指導部
新潟市立亀田中学校

岩崎 正法

2年間のキャリア教育アンケート調査を基に、推進委員会で新潟市内の課題や改善点を検討しました。

「自分は社会に必要とされている」と感じた生徒の割合が低く、自己肯定感を向上させる具体的な「学び合い」について検討し、目指す生徒の姿について、共有化を図りました。

学校生活の中で自分自身が「できた」と感じる活動場数が少ない。



自己肯定感を育成するために課題を明確にした活動を支援していく。



職場体験・学校行事など、すべての活動を評価し、情報の共有化を図る。

十日町市・中魚沼郡のキャリア教育の課題の共有 〈中越地区〉



十日町市・中魚沼郡中教研
進路指導部

十日町市立南中学校

佐藤 壮

第一回推進委員会で、各学校の進路指導キャリア教育の実践・課題について、発表し、課題を共有しました。

今後は、郡市の進路指導キャリア教育の課題を明確にし、会場校での実践をもとに、郡市内で統一して取り組めるキャリア教育はどのようなものかを検討していきます。

各学校でのファシリテーションによる郡市の課題検討



会場校の提案



ファシリテーションによる研究主題の検討



郡市内で統一した進路指導キャリア教育の取組

データを基にした協議会 〈下越地区〉



岩船郡村上市中教研
進路指導部

村上市立村上東中学校

白澤 直子

郡市内の各学校で、「新潟っ子をはぐくむキャリア教育」に基づいて、生徒に自己評価アンケートをとりました。

研究推進委員会では、16項目の中から、高い評価項目と低い評価項目に分類し、その原因を考察しました。

協議会では、データに基づいた生徒の実態を踏まえ、具体策を検討し、共有します。

自己評価アンケートの実施



データの集計と実態把握



焦点化した評価分析



課題と改善方針の明確化



ポイントを絞った
具体策の検討と共有

たくさんもっていますか？ “レイアウト” の引き出し

目的に応じて「机・座席レイアウト」を使い分けることがFT成功には必要です。

このレイアウトでホントにいいの？

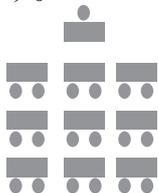
「いつもこうだから」でこのレイアウトにしませんか？

スクール型

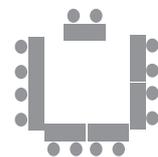
習得の基本のレイアウトです。これにペアでの「交流の学び合い」を取り入れると思の活性化も図れます。

コの字型

会議の基本のレイアウトです。参加者の顔が見えることと全体共有がしやすいことが利点です。しかし、メンバー間の距離が遠く、全員の参加・参画を目指す話し合いには不向きです。



スクール型



コの字型

全員が参加・参画のレイアウトは？

全員の参加・参画を目指すならこのタイプです。このタイプの後、全体で共有しやすい扇型をするのがベストでしょう。

島型

机を囲み、机にホワイトボード (WB) や模造紙を置くFTでポピュラーなレイアウトです。ファシリテーターの存在や役割が明確でないまま、安易に話し合いをさせがちなので、留意が必要です。

バズ型

より接近するので、打ち解けた話し合いができます。

座談会型

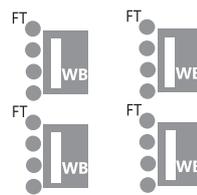
さらに接近して、より和んだ話し合いが可能です。

ファシリテーターを意識

模造紙やホワイトボードを立ててFTをするとファシリテーターとライターへの意識が高まります。すると、教師はどう話し合いをさせるか、生徒はどう話し合いをするかの意識が高まります。

ホワイトボード立たせ型

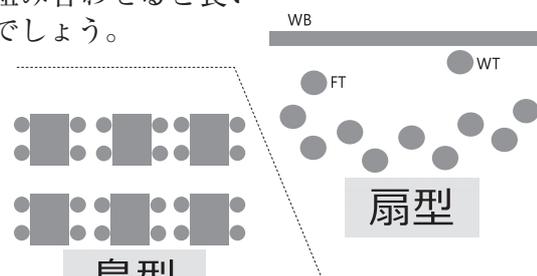
絵を立てるためのワイヤーイーゼルにホワイトボードを立てると、少人数でもファシリテーターの意識を高めてFTができます。



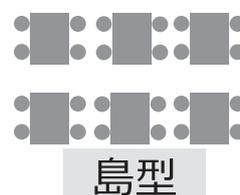
ホワイトボード立たせ型

扇型

机なしで集まるので、一体感が高まります。全体で共有する最適なレイアウトです。ただ、発言は、よく知っている人や経験の多い人になりがちなので、ペアや島型・バズ型と組み合わせると良いでしょう。



扇型



島型



イスに座り集まります

バズ型



直接床に座り集まります

座談会型

4 授業改革のポイント3

授業改革を進める郡市・各校の取組の紹介

県下4地区から特に優れた授業改革の実践
を紹介します。

上越地区と新潟地区は郡市教科部の取組、
中越地区と下越地区は学校での取組です。



〈上越地区〉

〈授業改革を進める“郡市・各校の取組”〉
こんな取組で推進しています

上越市技術・家庭部

共通実践と共同参観を行って、
研修を深めています



上越市中教研事務局

上越市立直江津東中学校 松風 嘉男

上越市内の全ての中学校で同じ実践を行い、共同参観をしながら、授業改善を行っています。

同じ実践でも、先生のアイデアで授業スタイルが変わる

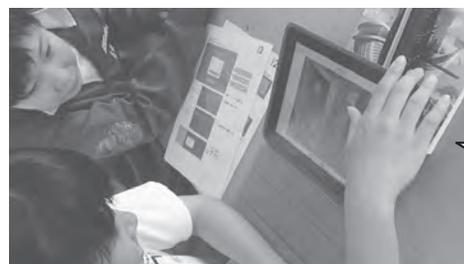
研究校だけの実践では意味がありません。同じ内容をどの学校でも実践し、時間があれば、共同参観を行っています。そこで、授業の質を高めたり、教材の改善を行ったりと私たち教員にとって有意義な研修を心掛けています。特に、授業を行う先生のアイデア、授業スタイルも参考になります。技術・家庭は免許外の先生が多いので、免許外の先生にも取り組みやすい内容、教材開発を行っています。



研究校以外での共同参観授業風景

技術科らしいICTを活用した実践も行っています。

ホワイトボードを使ったファシリテーションがメインですが、技術科らしくタブレットを使ったファシリテーションを取り入れている学校もあります。タブレットは、文字だけでなく写真や図等を共有することができるのと同時に、リアルタイムに情報を共有できることが特徴です。このように、アナログ（ホワイトボード）とデジタル（タブレット）を使い分けながら、新しい授業スタイルについても研究をしています。



撮影してきた
じょうぶな構造
を他のグループ
に配信している
様子

配信されてきた画像を
分類している様子



〈中越地区〉

＜授業改革を進める“郡市・各校の取組”＞
こんな取組で推進しています

長岡市立山本中学校

指定研究を起点にし、交流のある学校づくりを目指しました！



長岡市立山本中学校

校長 猪又 悦子

ファシリテーションを活用し、コミュニケーションを促進するシステムづくりを行いました。

指定研究 学校保健の取組を学校全体で共有しよう！

学校保健の指定研究を受け、研究推進委員の方々と共に研究を進める中でファシリテーションを活用した話し合い活動について学びました。

ファシリテーターは、単に進行役のみならず、交流を促進するマインドをもつことの大切さがわかり、生徒は生き生きと交流を楽しみ、そして、意見交換を深めます。(授業・各種教育活動)



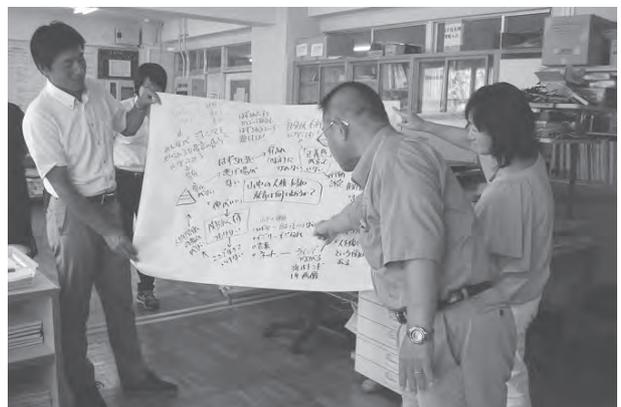
地域の方、小学生と一緒にファシリテーション

教職員自身が交流のよさを味わい、交流活動を仕組む！

職員研修でファシリテーションの講習を受け、その楽しさを実感しました。お互いの意見の違いや考え方を「見える化」することにより議論しやすくなります。アイデアが膨らみます。

学校全体で取り組むシステムづくりを行いました。「交流の基本は何？」

話し合いの目的やルール、課題の共通理解等を確認し、授業、学校評価、職員研修等の実践の場を設定します。相互の意見交流が活発になります。



人権教育、同和教育の職員研修

〈新潟地区〉

〈授業改革を進める“郡市・各校の取組”〉
つないでつくる研修スタイル

新潟市中教研 英語部

発表校中心の研修会から みんなでつくる研修会へ！



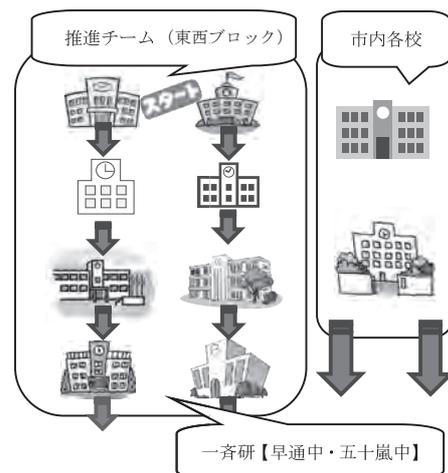
新潟市中教研 英語部
新潟市立白根北中学校 山口 麻子

会場校や授業者が苦勞していた従来の研修スタイルから脱却するためには、推進チームがカギを握っています。

11月の一斉研は、各校の実践を持ち寄り、成果を共有します

新潟市を東西2つのブロックに分け、11月にそれぞれの会場校で一斉研修を行います。その会場校を含めた各ブロック4校と委員が推進チームとして、英語の授業における「学び合う生徒の姿」を追究しています。

推進チームのメンバーが、新潟市から提案されているタスクシートを活用して公開授業と協議会を行います。順々に引き継がれた成果と課題をもとに、一斉研修の授業も作られていきます。一斉研修では、市内各校の実践を共有して研修を行うため、その成果がさらなる実践へとつながっていきます。



同じタスクシートを用いて授業を進めます

学習・練習・評価の各タスクで用いるタスクシートは、新潟市立総合教育センターのホームページからダウンロードすることができます。

同じタスクの実践には、各校の生徒の実態に合わせて工夫が加えられます。それによって全員が、実際の生徒の姿をもとに、課題設定や練り合い場面、生徒の英語使用場面等について、互いの成果や課題を共有することができます。



※新潟市立総合教育センターHP
(<http://www.netin.niigata.niigata.jp/>)

〈下越地区〉

〈授業改革を進める“郡市・各校の取組”〉
こんな取組で推進しています

村上市立荒川中学校

「荒川4段階方式」を使って 全職員が取り組んでいます！



村上市立荒川中学校
校長 長谷川 浩志

「主体的に問題を捉え、自ら考え、
他者と関わりながら最後まで取り組む生徒」を目指して

自分の考えを表現できる生徒を育てます

「荒川4段階方式」は学び合い学習の授業モデルです。

- ねらい・課題・授業の流れをつかませる
- ↓ <課題の質が問われています>
- 自力解決：書く活動で自分の考えを整理
- ↓ <小中共通の「書く」取組を>
- 交流学习：伝え合うことで考えを深める
- ↓ <コミュニケーション力を育てよう>
- 学習の定着：まとめ・確認・振り返り
- <自学につながるまとめを>



授業参観時の交流学习の一場面

今年度はチームで授業力を高めます

年間一人1実践から、課題解決をチームで目指す授業公開で授業力の向上に努めています。

学 期	学校全体の主な動き	チ ャ ム の 取 組
1 学期	教育計画完成 学力向上に係る指導主事訪問 NRT結果分析 学校評価 全国学力・学習状況調査	・前年度の評価から教科の課題を明らかにする チームによる指導案検討 ↓ ・課題解決の工夫と公開の視点を検討 第1回授業公開 ↓ ・授業後の成果と課題、学校評価や各種調査結果分析により課題を明確化
2 学期	学力向上に係る指導主事訪問 学校評価	チームによる指導案検討 ↓ ・新たな課題解決の工夫と公開の視点 第2回授業公開 ↓ ・成果と課題を明らかにする
3 学期	年間のまとめと研究集録の作成	・今年度の実践のまとめ

講師の依頼数

“学び合う授業の創造”の取組がスタートすると県中教研事務局に研修会講師の依頼が来るようになりました。図1のように依頼数は年を追うごとに増えています。

研修会の種類

実施した（一部実施予定の）研修会の種類の割合を円グラフに表したものが図2です。1年目は郡市の中教研一斉研・総会など大人数の依頼が多かったのですが、今年に入っては、各校の職員研修や郡市の教科領域ごとの部会が増え半数になっています。

依頼内容

最初は「学び合う授業とFTを知りたい」といった依頼が多かったのですが、最近では、「学び合う授業の模擬授業をしてほしい」「ファシリテーションの基本的なスキルを身に付けたい!」「授業検討会をどのようにもてばいいかを知りたい」など具体的な依頼も増えてきました。

依頼する場合は...

会員に直接に学び合う授業の意義や考え、FTの有効性を伝えることができる研修会講師の機会は、大切な機会と捉えています。時間が合えば、旅費だけで県下どこにでも講師に伺いますので、御連絡ください。

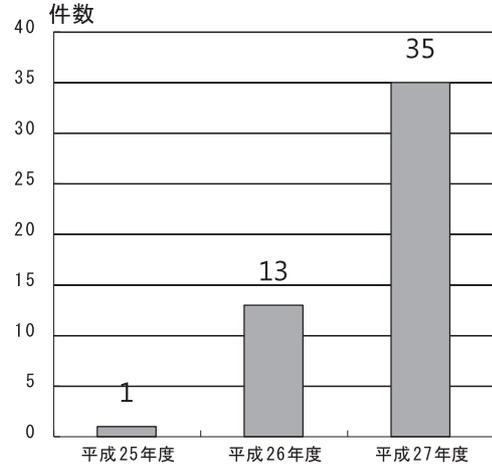


図1 県中教研事務局が講師による研修会数

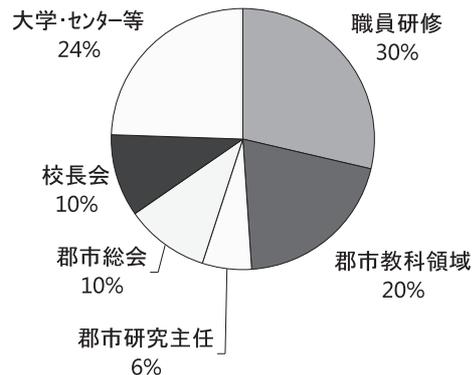


図2 研修会の種類

県中教研事務局長 **山内 伸二**
 E-mail : ken-ckk@niigata-inet.or.jp
 電話 025-290-2251

表1 平成27年度に実施した（一部実施予定）の研修会

実施日	研修会名	参加人数	実施日	研修会名	参加人数
12月25日	糸魚川市立青海中学校職員研修	-	08月07日	糸魚川市立青海中学校職員研修	30
11月26日	新潟市中教研総合部一斉研	-	08月04日	長岡市立南中学校職員研修	35
11月19日	新潟大学教育学部講義	-	07月30日	新潟地区保健体育部（新潟・内野中）	35
11月11日	上越地区理科部（上越・大潟中）	-	07月28日	学校保健部全県・郡市部長研修会	20
11月12日	新潟市家庭部会研修会（新潟・小針中）	-	07月27日	新潟市立白新中学校職員研修	35
11月05日	新潟市保健体育部一斉研（全会員）	-	07月27日	上越市立城西中学校職員研修	35
10月08日	中越地区社会部（小千谷・千田中）	21	07月10日	新潟県中学校校長会地区別夏季研修会	250
10月01日	新潟市校長会研修会	60	07月06日	新潟地区社会部（新潟・白新中）	12
09月17日	新潟市立潟東中職員研修会	15	06月25日	教員研修モデルカリキュラム開発（新大）	40
09月15日	上越地区保健体育部（長岡・三島中）	10	06月18日	新潟市立白根第一中学校職員研修	23
09月10日	長岡市・三島郡校長会	29	05月26日	燕市西蒲原郡中教研研修会（教科領域部長）	14
08月25日	加茂市立須田中学校職員研修	10	05月22日	柏崎市校長会研修会	14
08月21日	新潟市立早通中学校職員研修	20	05月21日	上越市教育研究会研修会（研究主任）	30
08月18日	燕市立小池中学校職員研修	20	04月28日	村上市・岩船郡中教研一斉部会（全会員）	190
08月17日	中越地区特別活動部（魚沼市・湯之谷中）	32	04月28日	五泉市・東蒲原郡中教研総会（全会員）	120
08月10日	指定研究1年目「授業構想検討」研修会	40			

5 授業改革のポイント4

授業ナビゲーションで授業・研修を確認！

県中教研で作成した全ての授業ナビゲーションのリストとともに、その中で最も基本となる「授業スタンダード10」について、自校化する方法と具体的なイメージを紹介します。



〈特別寄稿〉

授業ナビゲーションで授業・研修を確認！

50分間の職員研修で 自校スタンダードを 作ってみましょう



新潟市立白新中学校

竹田 真実子

授業スタンダード10は、UDL (universal design for learning) の知見に基づいています。次頁に示した10項目は、主に学習環境面の整備について、できるだけ多くの生徒の授業への参加を促すための手立てとして提示しています。特に、刺激を減らすこと、授業に安心して臨むことの2観点に絞って設定した10項目です。

学校全体で取り組むよさとしては、子どもたちの戸惑いが減ることがあげられます。どの教室も、どこを見たら何が掲示されているかがわかったり、事前に何を準備すればいいのかが同じ方法で伝えられていたりすることで、ずいぶんほっとする生徒がいると思います。また、どの先生も、短くわかりやすい指示をし、ノートに写しやすい板書をすれば、授業に安心して臨むことができる子どもたちが増えることが期待されます。進級してクラスが変わっても、教科担任が替わっても、授業の流れやチョークの使い方が同じであれば、年度初めの戸惑いも軽減されます。

ただ、ここで提示した授業スタンダードが、どの学校でも、どの子どもたちにも不可欠で決定的な10項目かと問われれば、決してそうではありません。集団によって、意識して整えるべき学習環境は違うはずですし、普遍的なものでもありません。子どもたちの実態をみとり、つまづきを予想したうえで環境を整えていく必要があります。

そこで、職員研修の時間を設けて自校スタンダードを作ってみませんか？ 右は「50分間の職員研修で作る自校スタンダードづくり」の流れです。参考にしてみてください。

① 15分間

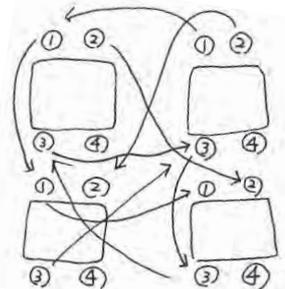
4人グループで、必要な、有効かなと思うことをどんどん出していきましょう。

付箋を使う方法もあります。



② 移動

グループで1人が残って、あとの3人は、それぞれ別のグループに移動します。



③ 15分間

移動したグループで、最初のグループで話し合った内容を発表し、共有しましょう。さらに書き込みます。

④ 移動

最初のグループに移動します。

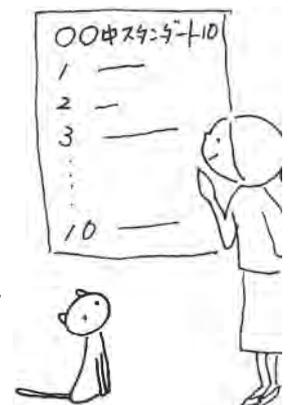
⑤ 10分間

自分の学校で必要な項目を2~3個拾い出しましょう。

⑥ 10分間

班ごとに発表し、項目立てをしましょう。

できあがり。



授業スタンダード10 ～イメージしやすいように紹介します～

県中教研で作成した授業スタンダードの10項目のそれぞれの項目について、写真などを使いイメージしやすいようにして紹介します。

① 指示・発問の明確化

生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。

生徒の活動を止め、生徒を注目させて図1のように簡潔に指示・発問を行います。板書をするなど視覚情報での補助を工夫することも必要です。教師の説明が長く続いたり、生徒が活動を止めないで次々に補足の説明や注意をしたりする場面がよく見られます。視覚情報を取り入れた簡潔な指示・発問が授業の一番の基本です。

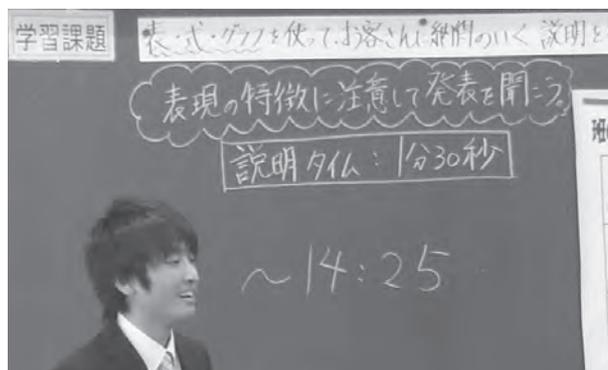


図1 簡潔な指示と視覚情報による補助

② 授業のめあてと流れの提示

授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。

その授業のめあてと流れを生徒に示すと、生徒は安心して授業にのぞむことができます。また、授業のゴールを知り、見通しを持つことで集中できることにもつながります。

図2のように黒板にめあてと流れ、時間配分を書くことは、生徒ばかりでなく、教師がその授業の見通しをもつことができます。

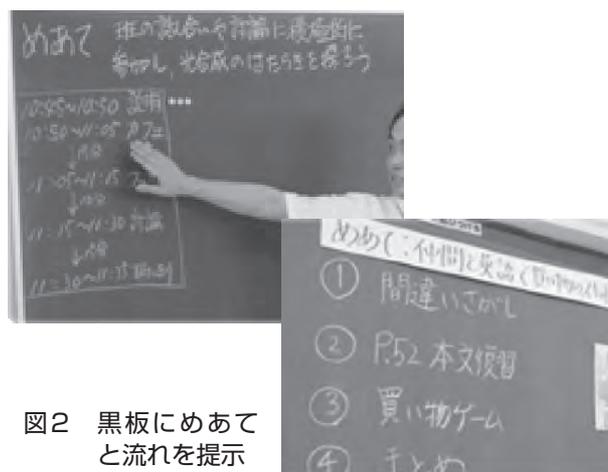


図2 黒板にめあてと流れを提示

③ 配色・ノートを意識した板書

配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。

1時間の学習内容がわかる板書計画をたてるのが大切です。チョークは遠くから見えにくい「青、緑、赤」は使わず、「白」と「黄」できれば「白」と「蛍光ピンク」を使うことを統一すると良いでしょう。図3のように黒板の書き幅を狭くするなど工夫し、ノートに写すことを意識した板書を心がける必要があります。

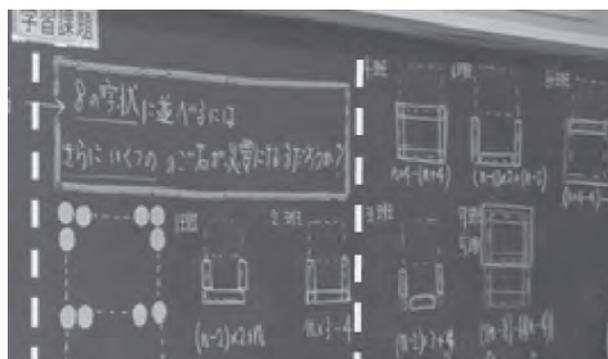


図3 白と蛍光ピンクのチョーク、ノートを意識した狭い幅での板書

④ 評価カード等の振り返り

評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。

学習者自身が、この授業で学習したことは何か、自分はねらいを達成したかどうかを把握することが次の学習への意欲につながります。図4のように小テストや評価カードを使ったり、ワークシートに「はっきりしたこととしないこと」を書く欄を設けたりして授業ごとに振り返ります。

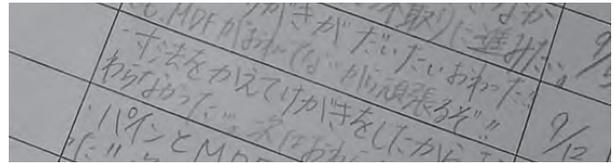


図4 授業のねらいを達成したかどうかを把握できる機会を設ける

⑤ 忘れ物への対応

予備のワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。

学習用具やワークシートなどを忘れる、失くすなどについての指導はもちろん必要である。しかし、図5のように道具の不備が原因で授業に参加できないということがないように配慮し、予備を準備する。また、ワークシートを回収して管理するなどの工夫が必要です。



図5 忘れることを想定して、予備を準備しておく

⑥ 内容・準備の事前連絡

学習内容や準備するものを事前に伝えている。

図6のように、いつも通りなら○だけを、いつもと違う持ち物や学習内容の場合は△を書き、連絡事項に記入するなど、確認すべきことがはっきりわかるように連絡することが大切です。学級経営と教科指導の連携が必要な項目です。

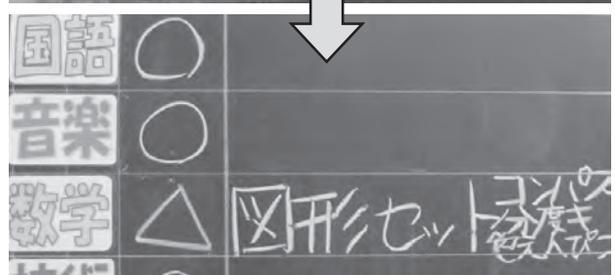
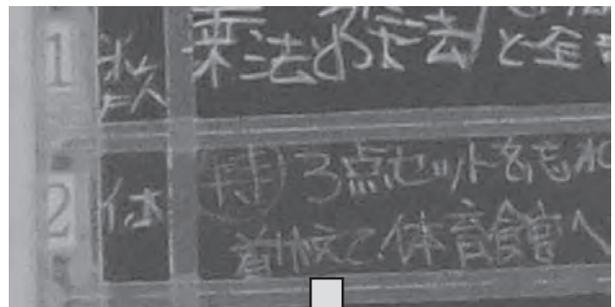


図6 教室の連絡黒板

⑦ 開始終了時刻の厳守

授業の開始時刻、終了時刻を守っている。

授業の時間を確保するために時刻通りに授業を始めることはもちろんですが、次の活動に影響が出ないように時刻通りに終了することも大切です。見通しをもった学習や活動を行うようにすることが必要です。

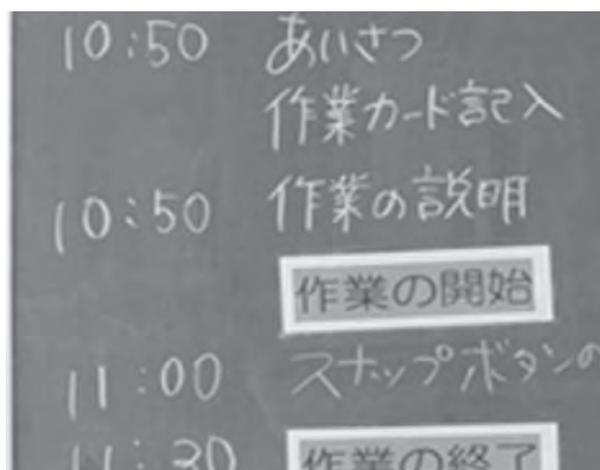


図7 開始と終了時刻

⑧ 教室前面の掲示物の簡素化

教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。

学習者の気を散らすものを軽減することで、集中力を高めることができます。図8のように前壁面は全部授業に使えるようにし、前方の棚も整頓し、中が見えないように工夫することも必要です。



図8 教室前面の簡素化

⑨ 机の上の整理

机の上には必要なものだけを置くようにさせている。

図9のように必要なものだけを机に出すよう指示します。指示に従って不必要なものを片付けられるように、机の中の整頓も必要です。

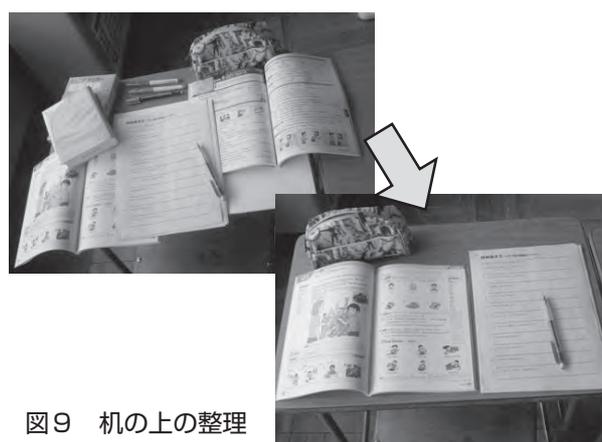


図9 机の上の整理

⑩ 座席・グループの配慮

特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して、座席やグループを決めている。

特別に支援の要する生徒や人間関係に配慮して座席やグループを決めることが必要です。教科担任は学級担任や学年部と連絡を取り合って、

常に生徒の状況を把握していくことが大切です。

この項目も⑥と同様に学級経営と教科指導の連携で、学級担任まかせにしてはいけない項目です。

県中教研 授業ナビゲーション

研修体制7

①	(研修) 課題の抽出と目標の設定	(研修) 現状から課題を抽出し、明確な目標を設定している。
②	(研修) 課題と研修目的の共有	(研修) 課題と研究の目的を全教員が共有している。
③	(研修) 年1回以上の研究授業	(研修) 年間1回以上は全教員が研究授業をしている。
④	(研修) 事前事後の検討会	(研修) 研究授業は事前・事後に検討・協議会を組織し、実施している。
⑤	(研修) 他教科や他校職員の参加	(研修) 研究授業では、その教科以外の教員や他校教員が参観している。
⑥	(研修) 参画型の検討会	(研修) 検討・協議会は、ワークショップ型など参加者全員の参画を図っている。
⑦	(研修) 外部指導者	(研修) 外部から指導者を入れて研究授業を行っている。

Web配信3

⑧	(Web) 全校体制での実施	(Web) 実施監督や採点、入力などを分担する体制ができている。
⑨	(Web) 時間・座席等の環境整備	(Web) 校時表に組み入れたり、テスト用の座席にするなど、環境を整え実施している。
⑩	(Web) 結果の共有と改善	(Web) 結果を分析・共有し、補充学習や授業改善を全校体制で行っている。

授業スタンダード10

①	指示・発問の明確化	生徒の活動を止めるなど注目させて、明確な指示や発問をしている。
②	授業のめあてと流れの提示	授業のめあてと授業の流れを生徒に示している。
③	配色やノートを意識した板書	配色や生徒のノートづくりを意識し、板書やワークシートを工夫している。
④	評価カード等での振り返り	評価カードや小テスト等で授業の振り返りをしている。
⑤	忘れ物への対応	予備ワークシートや予備教具を準備し、忘れ物に対応している。
⑥	内容・準備の事前連絡	学習内容や準備するものを事前に伝えている。
⑦	開始終了時刻の厳守	授業の開始時刻、終了時刻を守っている。
⑧	教室前面の掲示物の簡素化	教室の前面には配色を意識して、必要なものだけを掲示している。
⑨	机の上の整理	机の上には必要なものだけを置くようにさせている。
⑩	座席・グループの配慮	特別に支援を要する生徒や人間関係に配慮して、座席やグループを決めている。

学び合い10 (国語)

①	生徒の理解・認識の把握	生徒個々の学習状況に基づいて授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や表現力の実態を把握し、単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じた、個別・ペア・班・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	学び合いを支える言語事項の充実	漢字、文法、語彙、語句の用法、記述の方法等の理解・定着を図っている。
⑦	正確な理解と適切な表現	根拠を明確にして、自分の考えを形成し、論理的、想像的に表現する学習場面を設定している。
⑧	豊かな言語感覚の育成	文体や文脈中の語句が醸し出す味わいに注目して読み取ったり、表現したりする学習場面を設定している。
⑨	日常生活や社会生活との関連	日常生活や社会生活との関連を図って学習を進めている。
⑩	言語活動の充実	ねらいに応じた言語活動を通して、考えを広げたり深めたりするよう工夫している。

学び合い10 (社会)

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり、学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活とかかわらせたり、ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し、様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り、事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら、他の意見を聞き、自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し、自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (数学)

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	必要感・達成感のある課題	生徒の認識とのずれや適度な困難度がある課題を出している。
④	ペア・グループによる学習	ペア学習や3～5人によるグループ学習を取り入れている。
⑤	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑥	生徒どうしに関わりあう場	発表会で終わらず、生徒どうしに関わりあう場を取り入れている。
⑦	家庭学習の充実	授業と関連付けて課題を出したり、点検をしたりしている。
⑧	原理や法則との関連	数学の原理や法則との関連を意識させる授業を行っている。
⑨	日常生活や社会との関連	日常生活や社会との関連を図って学習を進めている。
⑩	図・表・式等の言語活動の充実	生徒の考えを図・表・式等の数学的表現で表す言語活動の充実を図っている。

学び合い10 (理科)

<理科授業スタンダード5>

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して、授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し、単元単位で目標や指導計画をたてている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行っている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連させて考えさせる授業をしている。

<理科学び合い5>

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し、問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し、既習事項と関連させて予想理由を検討している。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気づきを工夫しながらの観察・実験の工夫	生徒の気づきを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果にもとに結論を導き、生徒同士の意見交流を通して考えを深めさせている。

学び合い10 (英語)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解度や英語の運用能力など生徒の実態を把握した上で、単元単位の目標や計画を立てている。
③	生徒の興味・関心を喚起する課題設定	生徒の知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような課題を設定している。
④	「練り合い」場面の設定	生徒が協働して表現方法を練り上げる場面を設定している。
⑤	個の学習の確保	生徒が自分の意見や考えを確かめたり深めたりできるよう、「1人学びの時間」を十分確保している。
⑥	ペア・グループによる学習	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（グループ・ペア）と構成を、意図的に選択して行っている。
⑦	活動の手順、ルール の周知	活動の手順やルールを明確に提示している。
⑧	役割分担	全員が活動に参加できるように、個人の課題や役割分担を明確に提示している。
⑨	4技能	4技能の使用バランスや、4技能が統合的活用できる課題を設定している。
⑩	評価・振り返り	ねらいや大切なポイント（評価シート等で）理解させた上で生徒が自分の活動を振り返る場面を計画的に設定している。

学び合い10 (音楽)

①	学習環境	支持的風土のある学習集団づくりをしている。
②	題材の目標・指導計画	生徒の技能等の実態を把握した上で、目標や計画を立てている。
③	魅力ある課題の設定	生徒の興味関心を生かした課題の工夫をしている。
④	〔共通事項〕の取扱	〔共通事項〕について、それらの働きを生徒が実感し、表現や鑑賞の学習に生かすことができるよう配慮している。
⑤	活動の手順、ルール の周知	活動の見通しができるよう活動の手順・ルールを明確に提示している。
⑥	学習形態	生徒の実態や、ねらいに応じた適切な形態（パート・ペア等）と構成を選択し、役割等を明確に提示している。
⑦	基礎的な表現の技能	基礎的な表現の技能を身に付ける指導を題材の中で適切に位置付けている。
⑧	表現の工夫	表現したい思いや意図にもとづき、要素の働きを試行錯誤する場面を設定している。
⑨	言語事項	感じ取ったことや考えたことを音楽に関する用語などを用いて言葉で表す活動の充実を図っている。
⑩	評価・振り返り	ねらいやポイント（評価シート等で）に即して活動を振り返る場面を設定している。

学び合い10 (美術)

<美術授業スタンダード5>

①	生徒の理解・指導計画	生徒の発達段階や生活体験、学習状況に基づいて、指導計画や授業構想を立てている。
②	魅力ある題材の設定	造形的な知的好奇心を刺激したり、学習意欲を高めたりするような題材を設定している。
③	自己を見つめる場の設定	言語等を用いて、色や形などを観点に交流したり、振り返ったりする場面を設け自己理解を促している。
④	造形的な技能の習得	表現意図に応じた技法や表現方法を試したり、材料を体験したりする場面を設けている。
⑤	創造的な環境づくり	美術室をはじめ、校内に日常的に作品を鑑賞できるような環境を整えている。

<美術学び合い5>

⑥	鑑賞授業の充実	感じたことや気付いたことを基に他者と話し合う活動を通して、世界や日本の様々な美術文化に触れる鑑賞活動をしている。
⑦	美術館、大学等との連携や活動	美術館等や大学、関係諸機関との関わりをもち、人材・作品・材料等を活用しようとしている。
⑧	地域文化や行事の活用	身近な地域から題材を取り上げ、生徒の体験・経験を生かした交流活動や創作活動をしている。
⑨	日常生活との関連	身の回りの日用品等に目を向け機能や美しさを追求するしたり、生活を豊かにする美術の特性について気付いたりする活動を設けている。
⑩	他者との関わり合い	デザイン学習において、用途や機能を基に交流したり、検討したりすることを通して、相手意識をもって発想したり構想したりする活動を行っている。

学び合い10 (保健体育)

①	生徒の理解・実態の把握	生徒の実態やつまづきを把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し、単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し、主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しを持たせる工夫をしている。
⑥	発問・説明, 肯定的なかかわり	思考や気づきを促す発問や説明がされたり, 賞賛・助言・励まし等, 肯定的にかかわったりしている。
⑦	場の設定	課題の発見や課題解決を促す場づくりがされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなどかかわり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし, ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し, 授業の振り返りをさせ, 次時への課題をもたせている。

学び合い10 (技術・家庭)

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項, 他教科との関連を把握して授業を構成している。
②	題材の目標・指導計画	題材で身に付けさせたい力を明確にし, その実現に有効な“学び合い”の場を位置づけて計画している。
③	興味・関心のある課題	問題意識や学習意欲を高めるために, 身近な事象や好奇心をもてる事象から課題を設定している。
④	学習形態の工夫	ねらいと実態に応じて, 個・ペア・グループ・一斉などの学習形態を場面ごとに工夫している。
⑤	かかわり合う場・協力する場	学習の深まりや課題解決を図るために, 教え合い, 共同作業, 話し合い, 発表の場などを取り入れている。
⑥	かかわり合いの目的・ルール・方法	目的を明確にし, 話し合い, 発表など, それぞれルールを具体的に提示している。
⑦	実践的・体験的な活動	生活や社会で活用できる知識・技能の習得のために, 実践的・体験的な学習活動を設定している。
⑧	言語活動の充実	自分の考えや学習結果を言葉・文字・記号・図表などを活用して表現したり, 伝えたりする場を設定している。
⑨	生活や社会との関連	学んだことをもとに, よりよい生活や社会の実現について, 自分の考えをもたせるように学習を進めている。
⑩	評価・振り返り	学習活動を振り返ったり, 次の学習につなげたりするために, 観点を明確にした評価の場を設定している。

学び合い10 (道徳)		
①	全体計画や年間計画の作成	道徳教育における各種計画を年間行事計画や生徒の実態および発達段階を踏まえながら作成している。
②	生徒理解・実態把握	生徒(学級)の道徳性の実態を把握した上で、授業を構成している。
③	魅力ある資料・題材の設定	どのような道徳的価値に重点を置くのかを把握するとともに、生徒の興味関心を喚起し、学習意欲を高める資料や題材を設定している。
④	発問や展開の工夫	道徳的価値に迫る中心発問を考えるとともに、中心発問に向かうための状況把握や補助発問を盛り込んだ展開の仕方を工夫している。
⑤	個の学習の確保	問題場面に対して、自分の考えを明確にしたり、多様な価値の中から、より高い価値について考えたり、記述したりする時間を確保している。
⑥	話し合いの目的、ルールへの提示	話し合いの目的を明確にするとともに、話し合いのルール(聞き方、話し方)に基づいて話し合いをさせている。
⑦	意見交換の場面の設定	意図的に構成した形態(ペア、グループ)とメンバーで意見交換を行わせ、考えを深めさせる場面を設定している。
⑧	体験活動との関連	体験活動等との関連を図りながら、道徳的価値を自覚する授業を行っている。
⑨	地域・家庭との連携	身近な地域素材や人材を活用するなどの地域との連携や、家庭との連携を図っている。(発信・参加・交流・協力)
⑩	振り返りをする場面の設定	ねらいとする道徳性の高まりや深まりが達成されたか、自分の学習を振り返り、記録する場面を設定している。

学び合い10 (特別活動)		
①	必要感・達成感のある題材(単元)	生徒の実態を把握し、生徒が興味・関心を持ち、意欲的に解決しようとする題材(単元)を設定している。
②	題材(単元)の目標・指導計画	生徒の実態に応じた題材(単元)の目標や指導計画を立てている。
③	集団活動・体験的な活動	集団活動や体験的な活動を意識した授業を行っている。
④	問題の発見	生徒が、よりよい学級や学校の生活づくりに関わる問題を見付ける場を設定している。
⑤	自分の考えをもつ	生徒が自分の考えや意見をもてるよう工夫している。
⑥	学習形態の工夫	目標や実態に応じたペア・グループ・全体等の適切な形態を取り入れている。
⑦	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑧	交流場面の設定	他と交流しながら、考えを広げたり、深めたりする場を設定している。
⑨	意思決定	集団決定または自己決定を行う場を設定している。
⑩	実践・振り返り	活動または実践の過程と成果について、目標を基に振り返る場を設定している。

学び合い10 (学校保健)		
①	指導目標・指導計画	中学生期の発育・発達や健康上の特性を把握した指導目標や指導計画を立てている。
②	生徒の実態把握	生徒の実態や問題点を把握して授業を構成している。
③	必要感のある課題設定	生徒が直面している問題の中で、自らの課題だと気づくことができる課題を提示している。
④	関わり合う場の設定	目的をもって、生徒同士関わり合う場を取り入れている。
⑤	自尊感情を高めあう場の設定	他者との関わりあいを通して、自分を大切に思う気持ち、お互いを尊重する気持ちを持たせている。
⑥	実践化への意欲づけ	理想の姿を描くことで、意思決定や行動選択をし、実践していこうとする意欲付けをしている。
⑦	家庭や地域との連携	学校でできること、なすべきことを明確化し、家庭や地域での実践を促している。
⑧	振り返り、内省の場の設定	生涯にわたって、自分の健康を管理していこうとする気持ちを持たせる。
⑨	各教科との関連	健康という共通の目標を目指して、他教科と連携をしている。
⑩	話し合いの目的・ルール・方法	話し合いの目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。

学び合い10（総合学習）		
①	指導計画の工夫	小学校での取組を踏まえるとともに、横断的・総合的な学習や探究的な学習を経由して、目指す資質や能力、態度が身に付くように計画している。
②	課題設定	日常生活や社会に目を向けて、生徒自らが、「ひと・もの・こと」と自分とのかかわりの中から課題を設定している。
③	個の学びの設定	学習活動において、自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	表現活動・体験的な活動	知識と経験との往還によって、自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑤	交流の場の設定	学習対象をより多面的・多角的にとらえたり、自分の考えや意見を深めたり広げたりする交流の場を設定している。
⑥	学習環境の整備	図書館やPC室などの資料やメディアを活用したり、校外でフィールドワークを展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑦	地域・家庭との連携	生徒が、日常生活や社会とのかかわりの中で学習活動を展開できるよう、地域や家庭と連携を図っている。
⑧	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑨	追究や表現の仕方の工夫	情報の集め方や調べ方、整理や分析の仕方、まとめ方など、目的や相手に応じた追究や表現の仕方の具体例を示したり、経験させたりしている。
⑩	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の自分の生き方とどのようにかわるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。

進路指導：学び合い10		
①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力、態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から、生徒の実態と課題を把握し、どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか、指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において、将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう、個の学びを確かに設定している。
④	話し合いや発表のルールや方法	話し合いや発表の目的を明確にし、ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して、将来について自分の考えや意見をもったり、深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり、各教科、領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう、横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり、校外で体験活動を展開したりするなど、学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり、新たに見出した課題が今後の自分の生き方とどのようにかわるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が、日常生活や社会とのかかわりの中で進路学習が展開できるよう、地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え、自分の意思で進路を選択し、自己実現できるよう支援している。

参考書籍

“学び合う授業の創造”の推進やClass作成で参考にした書籍・文献です。21世紀型能力やFT等の基の考えを知ることができます。是非、読んでみてください。

21世紀型能力

- 1 P.Griffin,E.Care,B.McGaw 監訳 三宅なほみ (2014)
21世紀型スキル 学びと評価の新たなかたち 北大路書房
- 2 勝野頼彦 (2013)
教育課程の編成に関する基礎研究報告書5 国立教育政策研究所

学び合う授業

- 3 教育出版教育研究所 (2014)
教師力アップへの挑戦 学び続ける教師・学び合い編 教育出版教育研究所
- 4 新潟県中学校教育研究会 (2012)
平成25年度 会報第81号 新潟県中学校教育研究会
- 5 新潟県中学校教育研究会 (2012)
創設50周年記念式典および研究大会要項 新潟県中学校教育研究会
- 6 新潟県中学校教育研究会 (2013)
創設50周年記念誌 (平成25年度 研究活動の概要Vol.37) 新潟県中学校教育研究会
- 7 新潟県中学校教育研究会 (2014)
平成26年度 会報第82号 新潟県中学校教育研究会
- 8 新潟県中学校教育研究会 (2015)
平成26年度 研究活動の概要Vol.38 新潟県中学校教育研究会

ファシリテーション

- 9 独立行政法人教員研修センター (2013)
教員研修の手引 -効果的な運営のための知識・技術- (改訂版) 独立行政法人教員研修センター
- 10 堀 公俊 (2004)
ファシリテーション入門 日本経済新聞出版社
- 11 加藤 彰 (2014)
ロジカル・ファシリテーション PHPビジネス新書
- 12 ちょんせいこ (2015)
ホワイトボード・ミーティング 小学館
- 13 川喜田二郎 (1967)
発想法-創造性開発のために 中公新書
- 14 にいがたファシリテーション授業研究会 (2013)
みんなが主役! わくわくファシリテーション授業 新潟日報事業社
- 15 新潟市立白新中学校 (2014)
ファシリテーションとユニバーサルデザインで創る授業-白新中100の実践- 新潟日報事業社

編集後記



新潟県中学校教育研究会
理事長 玉木 浩 (新潟市立白根北中学校 校長)

情報誌を授業改革の切り札に

新潟県中学校教育研究会が創設50周年を機に、『学び合う授業』の創造』を掲げ、新たなスタートを切って3年目となりました。その間、指定研究については一定の成果は見られましたが、まだまだ郡市中教研ごとに、研究推進委員会ごと、あるいは会員一人一人には意識に温度差があり、県中教研が目指す姿にベクトルが同じ方向に向いていないのではないかという指摘を受けるとともに、「学び合う授業」についての基本的な考え方やとらえ方に多少のずれが生じるようになりました。

そこで、全会員が学び合う授業による授業改革の具体的なイメージやアイデア（学び合う授業実現への手立て）などを共通に得るために、学び合う授業の考え方や各教科・領域での授業改革のポイント、指定研究会での学び合う授業への進め方とその取組、授業改革を進める各郡市中教研の具体的な取組などを全会員に紹介することを目的に、「授業情報誌Class」を創刊することにしました。

思い切って授業改革をしたいと日々実践している会員もいれば、どのように授業改革を進めていったらよいか、現状を打破できないで悩んでいる会員も少なからずいると聞いています。授業改革へのヒントが満載されているこの「授業情報誌Class」は、会員自らの授業改革に向けての一助となるだけでなく、毎日の授業や校内研修に試したくなるような内容となっています。さらに、毎年10月から11月にかけて各教科・領域で行われる指定研究会の授業構想や授業ピアーールにもなっています。指定研究会の学び合う授業の提案について事前に目を通すことで、どのような授業提案がなされるかを知ることができるとともに、指導案がなくとも前もって授業の進め方を把握できるという利点があります。

この「授業情報誌Class」が、指定研究会への会員の積極的な参画を促すために、また、事前に研究の授業構想を全会員に示すことで、県中教研が目指す『学び合う授業』の創造』への取組について理解を深めるために、会員の皆さんには「授業情報誌Class」を大いに活用していただきたいと願っています。

最後に、「授業情報誌Class」の編集にあたり、編集に関わった事務局、貴重な原稿をいただいた各全県部長・副部長、各指定研究校の皆さん、各研究推進委員の皆さんに感謝申し上げます。編集後記といたします。

新潟県中学校教育研究会

新潟県中学校教員を会員とする教育研究団体です。昭和38年度発足し、創設52年目を迎えました。

県中教研は県下に19の郡市中教研があり、また、14の教科・領域の部があります。その中から毎年20の郡市と教科・領域を指定し、2年間で学び合う授業の具現化を目指し研究する「指定研究」を行っています。

授業情報誌

Class・学び合う授業 創刊号

発行日 平成27年10月23日

発行者 新潟県中学校教育研究会 事務局
〒950-0908 新潟市中央区幸西3-3-2
じょいあす新潟会館

TEL 025-290-2251 FAX 020-4664-3748

E-mail ken-ckk@niigata-inet.or.jp

<http://www.niigata-inet.or.jp/ken-ckk>

印刷 有限会社 東京プリント社

表紙写真 上越市立城西中学校

デザイン・イラスト 山内 伸二 (県中教研事務局)

ISSN 2189-8111